小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授

⑭ 幕府の改革 ●江戸時代中期

●まんが

あおむら　純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

14巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
西原和海

●考証
石井謙治（日本海事史学会名誉会長）
黒田日出男（東京大学名誉教授）
小泉和子（生活史研究所代表）
鈴木友也（日本美術刀剣保存協会専務理事）
高田倭男（高田装束研究所所長）
玉井哲雄（千葉大学名誉教授）

●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

●指導・執筆・協力
荒牧重雄（東京大学名誉教授）
岡田威夫（共立女子高校）
菊池俊彦（中央大学名誉教授）
斎藤洋一（学習院大学教授）
竹内　誠（江戸東京博物館館長／東京学芸大学名誉教授）
横山十四男（元筑波大学教授）
吉原健一郎（成城大学文芸学部教授）
高橋千劔破

●取材協力
青木文代　浅間火山博物館　浅間山麓埋没村落総合調査会　上田豊　大阪城天守閣　研医会図書館　江東区深川江戸資料館　神戸市立博物館　国立史料館　国立公文書館　国立国会図書館　関ケ原町歴史民俗資料館　嬬恋村歴史民俗資料館　逓信総合博物館　東京国立博物館　東京消防庁　東京新聞フォトサービス　東京都江戸東京博物館　東京都立中央図書館　徳川恒孝　長崎県立美術博物館　長崎市立博物館　(財)平賀源内先生顕彰会　(財)平木浮世絵財団　房総の村　(財)松浦史料博物館　本居宣長記念館　和歌山市役所　早稲田大学図書館

●イラスト
河合秀和　きみのみき　中西立太　深山のぼる
●作画協力
大岡龍二　小野寺克彦　小井土繁　小杉彰
小林進　小山春夫　阪上吉英　芝知照
坪井幸一　馬場秀夫　森正　山本貴久雄
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄（ＣＳＪ）　DOMDOM
成澤哲夫（ＮＥＤ）
●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン
●編集協力
旭享子　エディトリアル・プランニング　真英社　風人社　鈴木悦子　銀杏社　中田絵里
●編集担当
柏原順太　宮部良雄　八巻孝夫

（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

14

幕府の改革

●江戸時代中期

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

この巻の歴史年表

巻数	時代	年代
1	旧石器（岩宿）	前3万
	縄文（紋）	前1万
	弥生	前1000
2	古墳	紀元1
	飛鳥	100
3	奈良	200
4	平安	300
5		400
6		500
7	鎌倉	600
8	南北朝	700
9	室町	800
10	戦国	900
11	安土桃山	1000
12	江戸	1100
13		1200
14		1300
15		1400
16		1500
17		1600
18	明治	1700
19	大正	1800
20	昭和・前期	1900
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、青色の部分の時代・年代が、かかれています。

時代・文化

代 → ← 元禄文化 →

西暦

●1743 ●1742 ●1732 ●1730 ●1723 ●1722 ●1721 ●1720 ●1717 ●1716

日本のおもなできごと

吉宗が八代将軍となり、享保の改革をはじめる。

大岡忠相が江戸の町奉行となる。

江戸でしきりに大火がおこり、町火消いろは組がおかれる。

幕府、目安箱を設置する。

上米の令がさだめられる。新田開発がしょうれいされる。

幕府、足高の制をさだめ、すぐれた人物を採用する。

幕府、大坂堂島で米相場を行うことを許可する。

尾張藩主徳川宗春、ぜいたくの罪でばっせられる。

公事方御定書（御定書百箇条）がさだめられる。

長崎での貿易を制限する命令が出される。

青木昆陽の研究をもとにサツマイモのさいばいがしょうれいされる。

西暦

●1735 ●1733 ●1726 ●1721

世界のおもなできごと

イギリスで責任内閣制がはじまる。

「ガリバー旅行記」が刊行される。

ケイ、飛び杼を発明する。（産業革命の先がけ）

清で乾隆帝が即位する。

●啓蒙思想の発展

江戸時

←江戸時代中期の文化

●1793 ●1792 ●1791 ●1790 ●1789 ●1787 ●1783 ●1778 ●1774 ●1772 ●1771 ●1765 ●1764

このころ、幕府の年貢収入が最高となるが、財政は安定しない。

産業や商業の発達から社会の変質がはじまる。

関東の農民二十万人が一揆をおこす。
鈴木春信が錦絵をはじめる。
伊勢おかげまいりが流行する。
田沼意次が老中となり、商業を重視して積極的な政治をする。
専売制・会所制をもうける。銅や海産物の輸出をすすめる。
江戸行人坂の大火おこる。
杉田玄白が**「解体新書」**を出版し、**蘭学**がさかんとなる。
ロシア人が蝦夷地に来て、通商をもとめる。
本居宣長が「古事記伝」上巻をあらわし、**国学**を大成する。
浅間山噴火。**天明の大飢饉**はじまる。
江戸・大坂で打ちこわしがおこる。
松平定信が**寛政の改革**をはじめ、きびしい倹約令を出す。
棄捐令が出される。**囲いもみの制度**がさだめられる。
朱子学以外の異学が禁止される。
江戸に町会所をつくらせ、七分積金をはじめさせる。
ロシアの**ラックスマン**が幸太夫とともに根室に来て、通商をもとめる。
松平定信、老中を辞任。

●1789 ●1776 ●1765 ●1764 ●1748

モンテスキュー、「法の精神」を発表する。
●産業革命のはじまり
ハーグリーブスが多軸紡績機を発明する。
ワットが蒸気機関を改良する。
アメリカ、独立宣言を発する。

フランス革命はじまる。
人権宣言が採択される。

はじめに

名将軍・吉宗と学問、文化の夜明け

◆米将軍、がんばる

この巻では、江戸時代の中期、18世紀のようすがえがかれます。

そのころ、武士たちの生活は、だんだん苦しくなってきました。武士たちは、給料を米でもらい、その米を売ったお金でくらしをたてていましたが、米の価値がしだいにさがってきたからです。

幕府の財政も、苦しくなってきました。

そこで、八代将軍・吉宗は、米の価値をあげるための政策にとりくみ、それがあまり熱心ですので、「米将軍」といわれるほどでした。

そのほか、吉宗は、さまざまな改革をこころみ、幕府のたてなおしに成功しましたので、「名将軍」ともよばれています。

◆全国に一揆

しかし、吉宗の死後、幕府の財政は、ますます悪化していきました。幕府は、たびたび改革につとめましたが、うまくいきません。

また、18世紀の後期には、ひでり、大雨などがつづき、農作物に大きな被害を

あたえました。とくに、一七八三年、浅間山の大噴火は、その後、何年にもわたる天候不順の原因となっています。

農民はうえに苦しみ、たくさんの人たちが死にました。かれらがついに「一揆」に立ちあがる姿が、全国で見られるようになりました。物価高におわれる都市の人びとも、「打ちこわし」をおこしました。

このように、ききんや一揆などがあいついでは、幕府の改革も思うようにすすみません。幕府の土台は、少しずつゆらいでいきます。

◆ヨーロッパの学問

この時代には、ヨーロッパの学問を学ぼうとする人たちが、少しずつふえていきます。

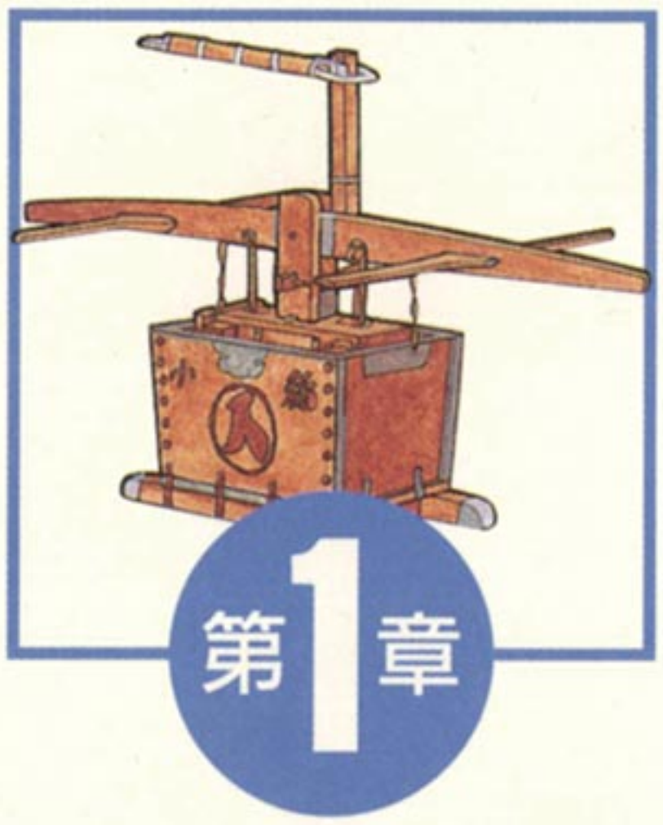
かれらは、オランダ語の本をとおして勉強をしましたので、これらの新しい知識は、「蘭学」（オランダの学問）とよばれていました。

蘭学者たちの関心は、医学、天文学、地理、化学など、広い範囲におよびました。しかし、まずオランダ語を読めるようになることからして、大しごとなのです。

オランダの医学書をほん訳した杉田玄白や、エレキテル（発電機）を発明した平賀源内といった蘭学者たちの、学問への情熱はすばらしいものでした。そして、こうした新知識が、やがては、日本を動かしていくもとともなっていくのです。

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに
- おもな登場人物



第1章

名将軍吉宗

- 吉宗、八代将軍となる
- 大画面・町火消の活やく
- 大画面・日本橋のにぎわい
- 米将軍の活やく

第2章

田沼時代

- 側用人田沼意次
- 田沼意次の政治
- 印旛沼干拓計画
- 田沼意次の失脚
- 寛政の改革

第3章

一揆とききん

- 浅間山の大噴火
- ききんと打ちこわし
- 上田騒動
- 半平の決心

14 幕府の改革
●江戸時代中期

第4章

蘭学と国学

- 大画面・城内に入る一揆勢
- 平賀源内の薬品会
- 本居宣長と賀茂真淵
- 長崎屋のカピタン
- 玄白と「ターヘルアナトミア」
- 源内のエレキテルの実験

おもな登場人物

※この巻に登場するおもな人物を紹介します。登場人物をくわしく知るための事典として、役立たせてください。

第1章

徳川吉宗（一六八四～一七五一年）

八代将軍。享保の改革を行い、「米将軍」とよばれる。目安箱で人びとの意見を聞く。

大岡忠相（一六七七～一七五一年）

公正な裁判で名をあげ、吉宗に認められ南町奉行、寺社奉行、そして大名になる。

松平乗邑（一六八六～一七四六年）

老中。吉宗とともに、享保の改革をおしすすめて二十年間、幕閣として活やくする。

同心たち

江戸幕府の諸奉行などの配下に属し、与力のもとで町内警固などを行う下級役人。

第2章

田沼意次（一七一九～一七八八年）

将軍家の側用人として、商業を大切にした政治家。幕府政治の中心で活やくする。

徳川家治（一七三七～一七八六年）

十代将軍。初めは倹約政治を行ったが、田沼意次の商業中心政策を進め悪評をうける。

松平定信（一七五八～一八二九年）

老中としてききんに苦しむ農民を救い、田沼政治に対抗して、寛政の改革をすすめる。

島津重豪（一七四五～一八三三年）

江戸後期の薩摩藩主。幕府の倹約策にこたえて、藩の財政たて直しに殖産興業をはかる。

14 幕府の改革

●江戸時代中期

第3章

岡部九郎兵衛

信濃国上田藩の城代家老。藩主の留守中、その城の政務をかわりにとる役目の人。

浅之丞※

お上の悪政にたいして、半平らとともに一揆の首謀者として立ちあがった農民。

つき※

夫神村の農民半平の娘。父が一揆の首謀者として捕まり、死罪になるのを目撃する。

勇吉※

入奈良村の農民一家の男の子。一揆の様子を一部始終しっかりと見つめる。

第4章

前野良沢（一七二三～一八〇三年）

医師。青木昆陽にオランダ語を学び、杉田玄白らとともに「解体新書」を翻訳する。

杉田玄白（一七三三～一八一七年）

医師。「解体新書」を刊行し、医学を前進させる。「蘭学事始」をかきあらわす。

平賀源内（一七二九～一七七九年）

本草学者。植物の研究で「物類品隲」をあらわし、寒暖計、エレキテルなどをつくる。

本居宣長（一七三〇～一八〇一年）

「古事記」を研究し「古事記伝」をかく。文学論、国語を研究し、国学の基礎をつくる。

（注）※は架空人物。

小学館 eBooks

第一章

名将軍吉宗

——江戸時代中期——

十八世紀はじめ、紀伊和歌山領内

ザザザ…

かりほど、ゆかいなことはないのう。

紀伊領主 徳川吉宗

今日は、たいした獲物が出ないようです。……。

ひゃあ!! うわあああ!!

何事だ!?

ブスッ

ドドドドド

うわあっ。

よし、わたしにまかせろ。

鉄砲をもて。

ははっ!

殿! あ、あぶのうございます。

*権現…神の姿をしてあらわれる仏。この場合、徳川家康のこと。

*尚武の気…武術をとうとぶ気持ち。

ああ、命びろいした。
それにしても、勇かんなおかただ。

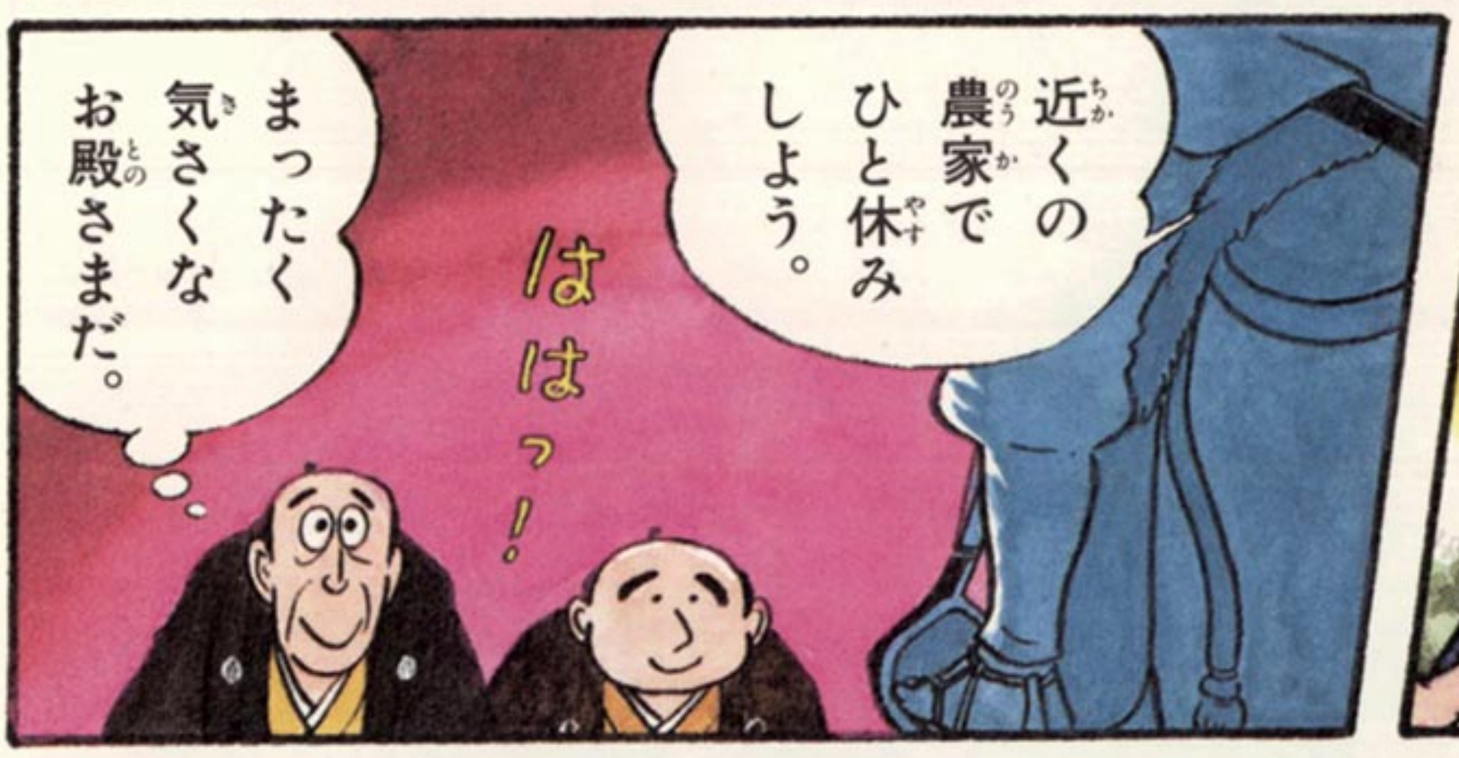
しかし、あの身なりは殿さまらしくないな。
食事もそまつだそうだ。

政治のほうも倹約第一。
そのおかげで、*紀州の財政はたちなおったんだよ。

*紀州…紀伊

名君との評判だ。たしか、先代の四男としてお生まれになって…。
兄ぎみたちがつぎつぎとなくなり、幸運にも領主となられたんだね。

さて、腹がへったな。


近くの農家でひと休みしよう。
ははっ！
まったく気さくなお殿さまだ。

数年後、江戸——

紀伊徳川家の屋敷――

殿の！

すぐにご登城なさるようにと、使いがまいっております。

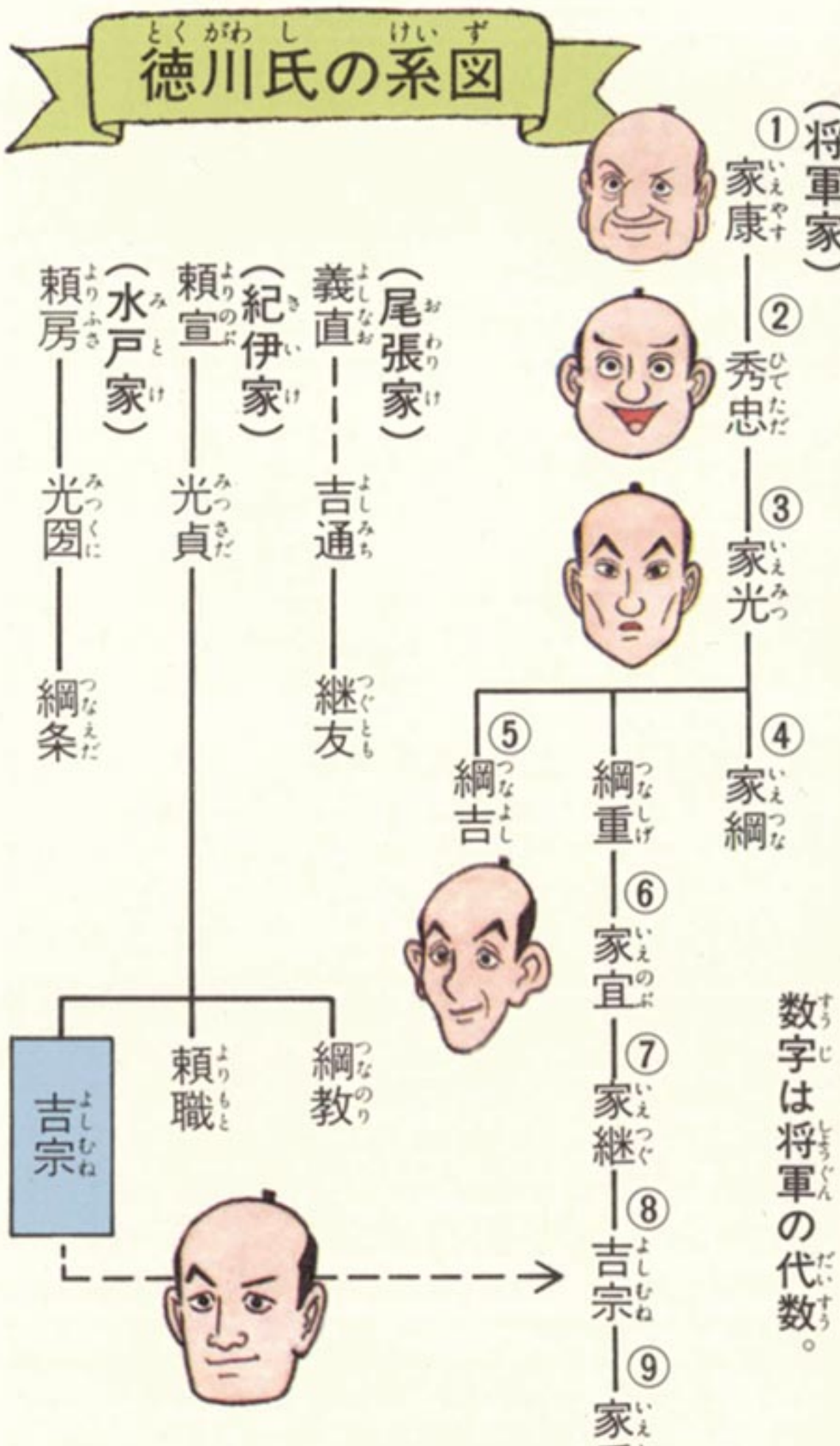
急いでしたくをせい。

江戸城――

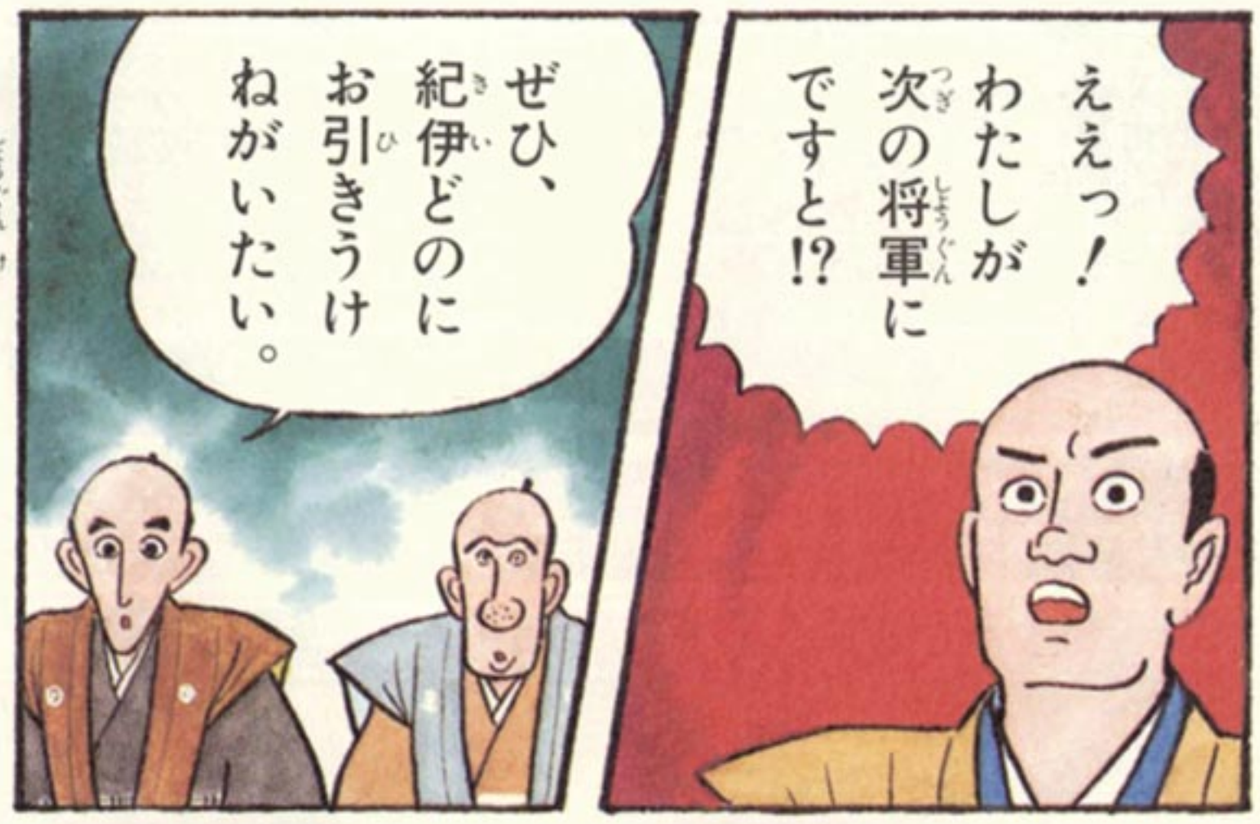
ご病気中の上さまが、どうかなされたのだろうか…。

はて、急用とは？

徳川氏の系図

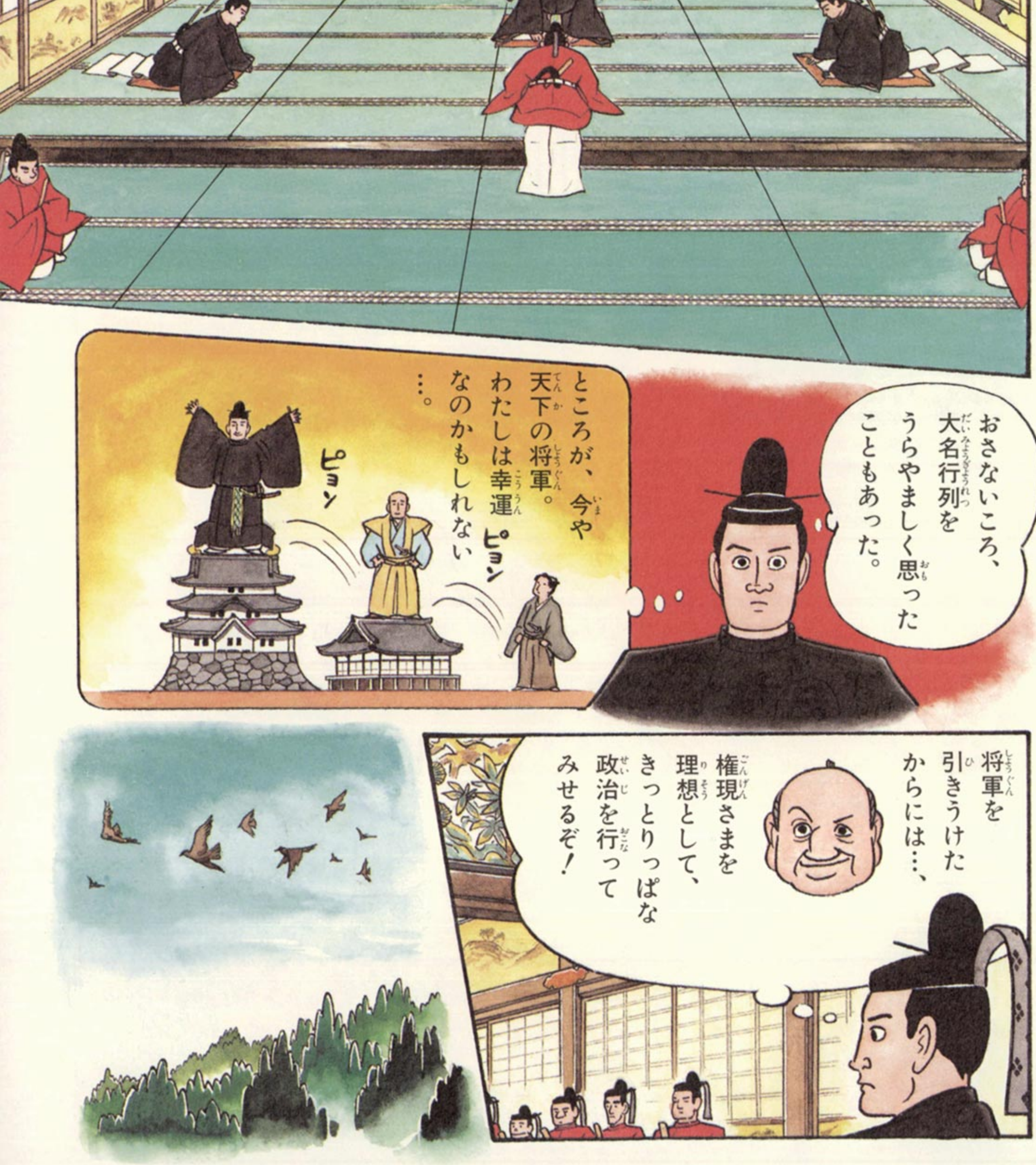


数字は将軍の代数。



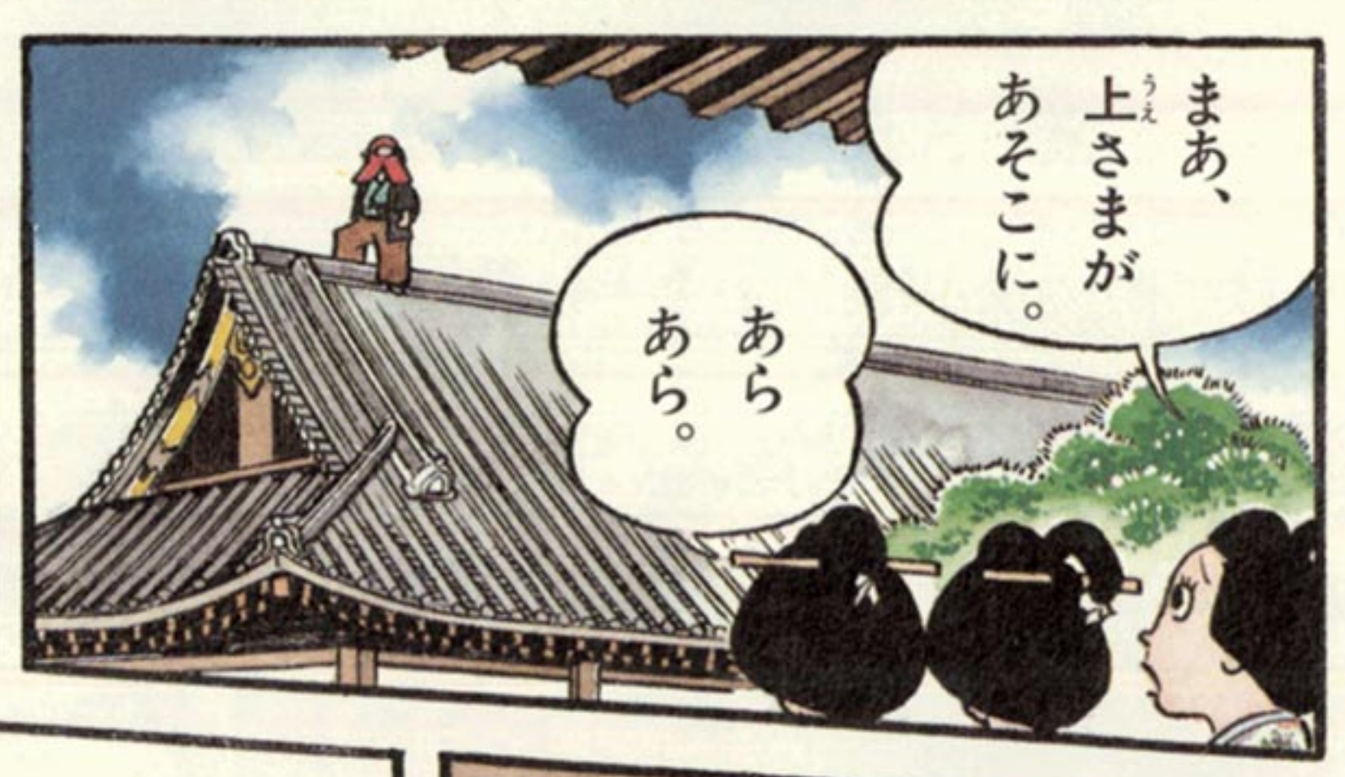
*尾張どの…尾張徳川家の徳川継友。

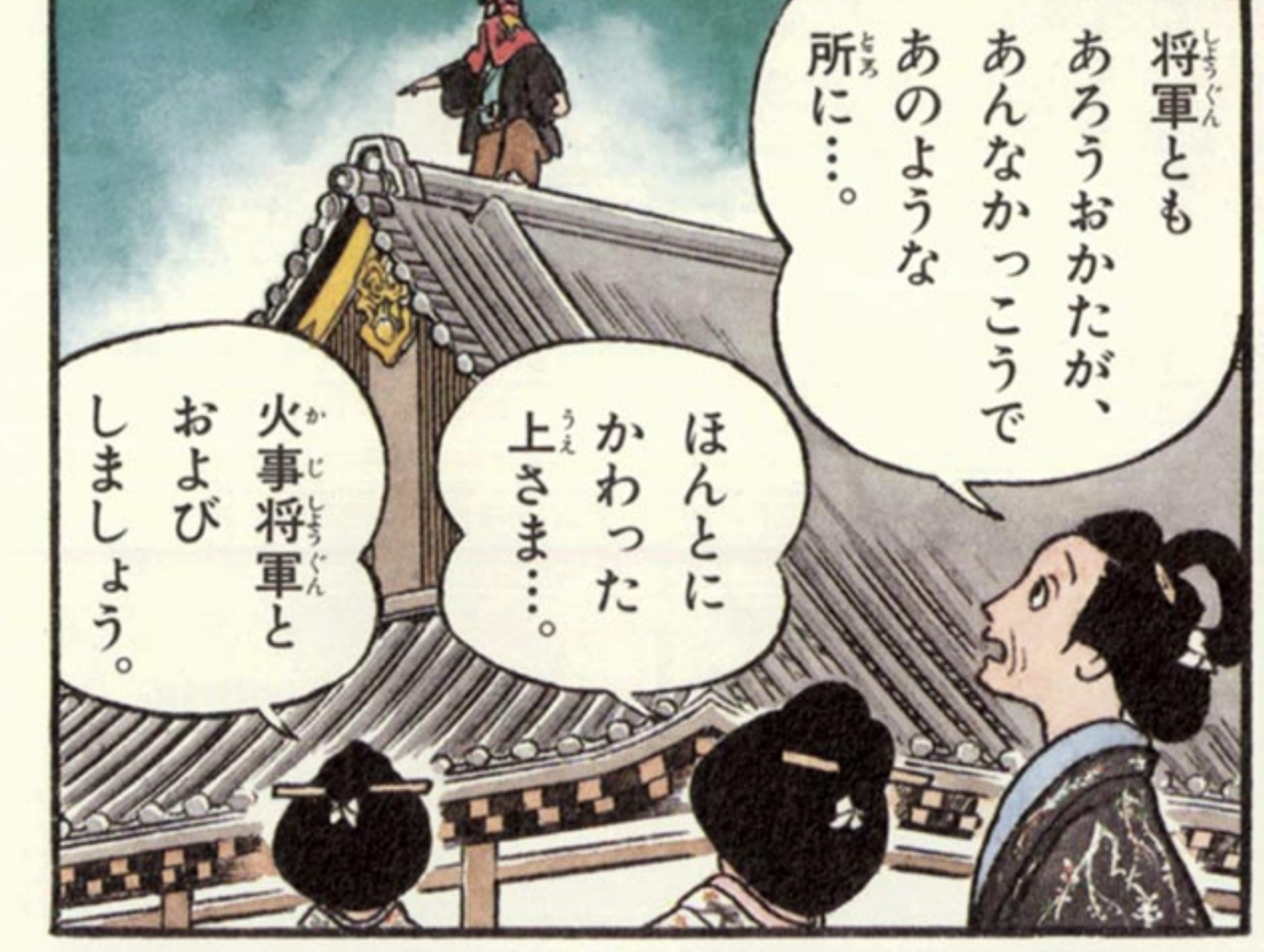
まもなく七代将軍家継がなくなり、吉宗が、八代目の将軍をつぐことになりました。



*町奉行…江戸の町奉行のこと。大坂・京都などの場合は地名をつけた。

*大奥…将軍の夫人とそれにつかえる奥女中たちがすんでいた所。





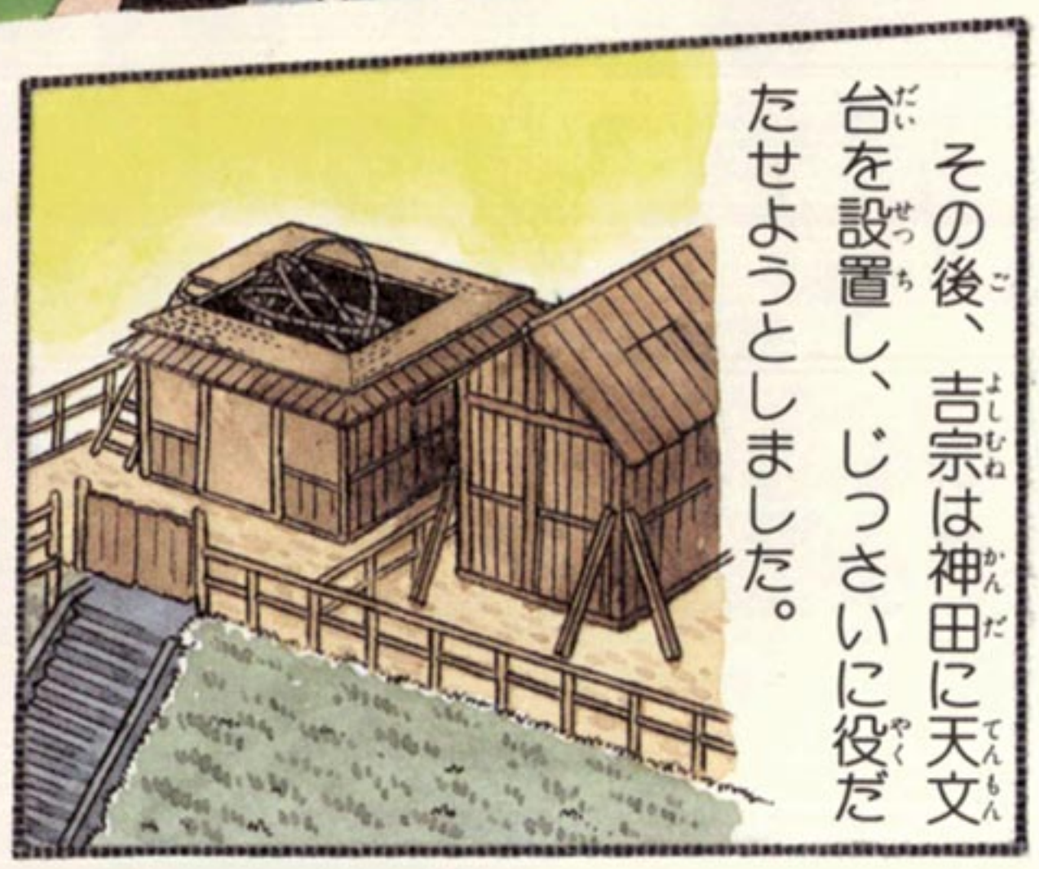
このころ江戸では、しきりに火事がありました。

こうして「いろは四十七組」の町火消の制度がさだめられました。

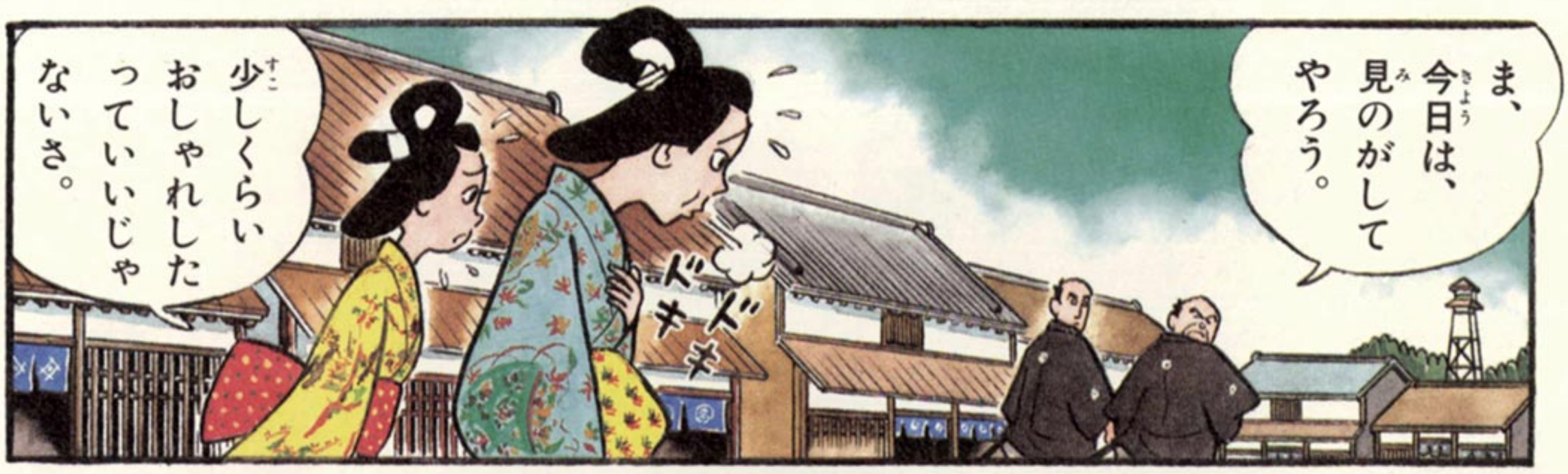
＊明暦の大火…第十三巻第一章参照。

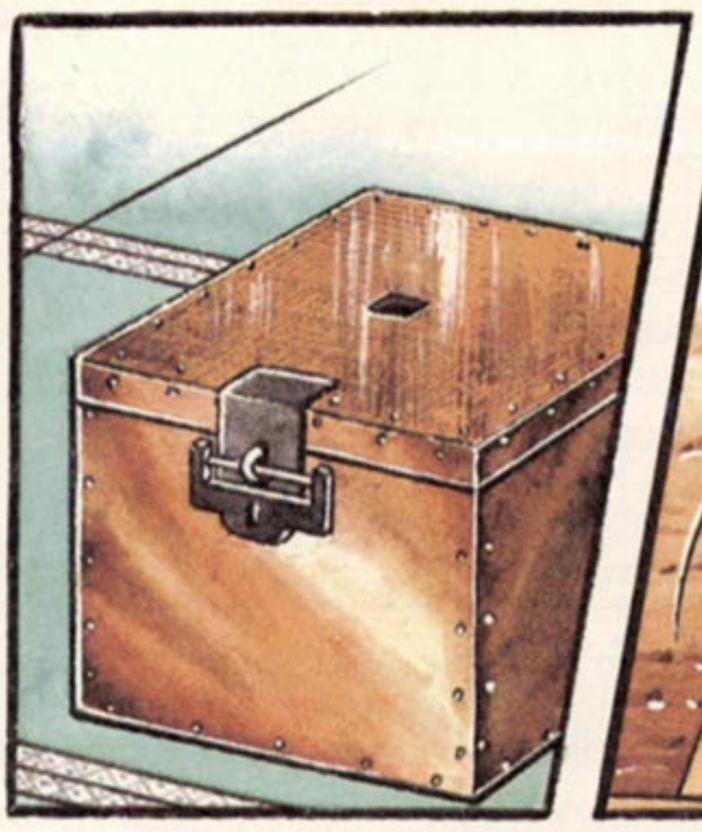
＊土蔵…土やしっくいでかべをあつくぬった蔵。

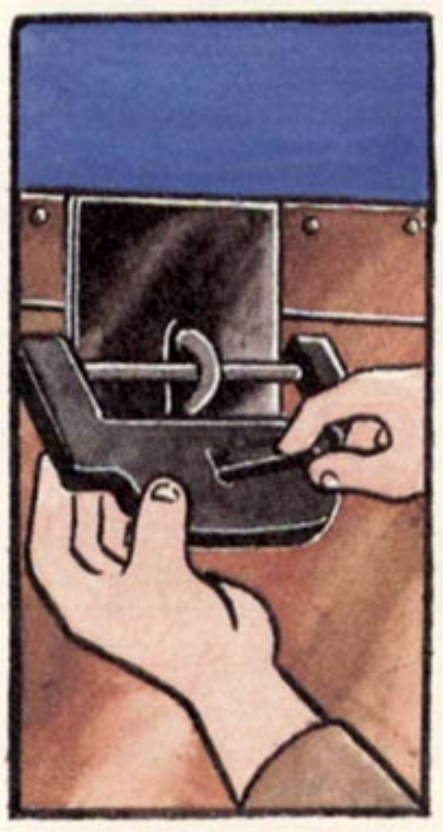
*芝…東京都港区　*神田…東京都千代田区　*半鐘…小型のつりがねで、火事のときなどにうちならす。

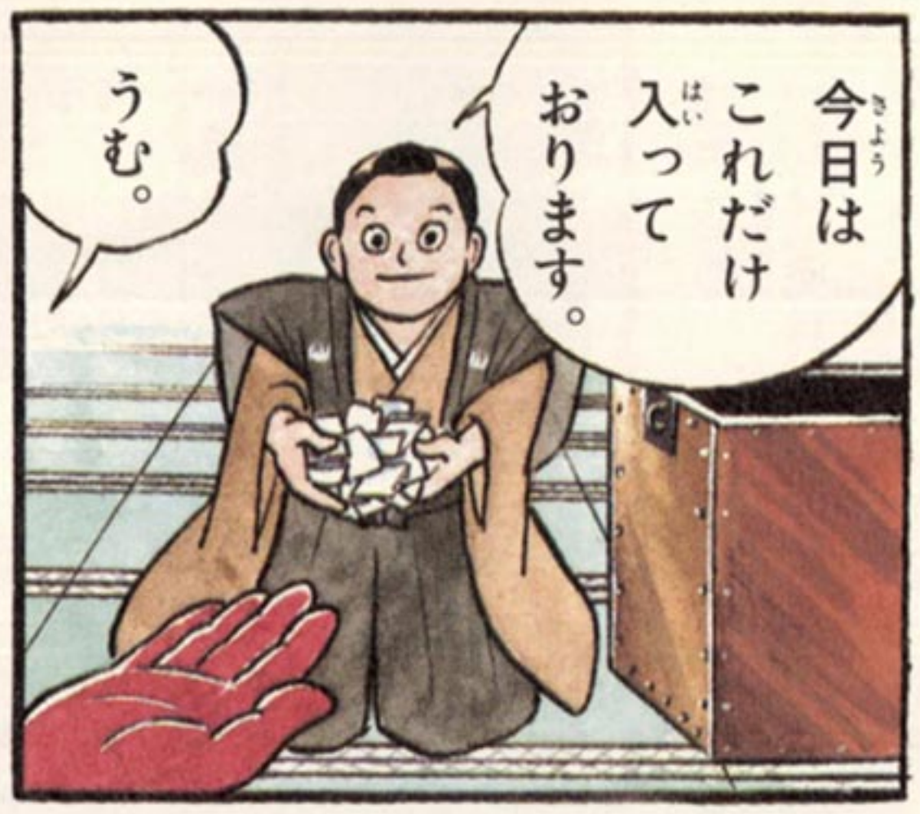


その後、吉宗は神田に天文台を設置し、じっさいに役だたせようとしました。

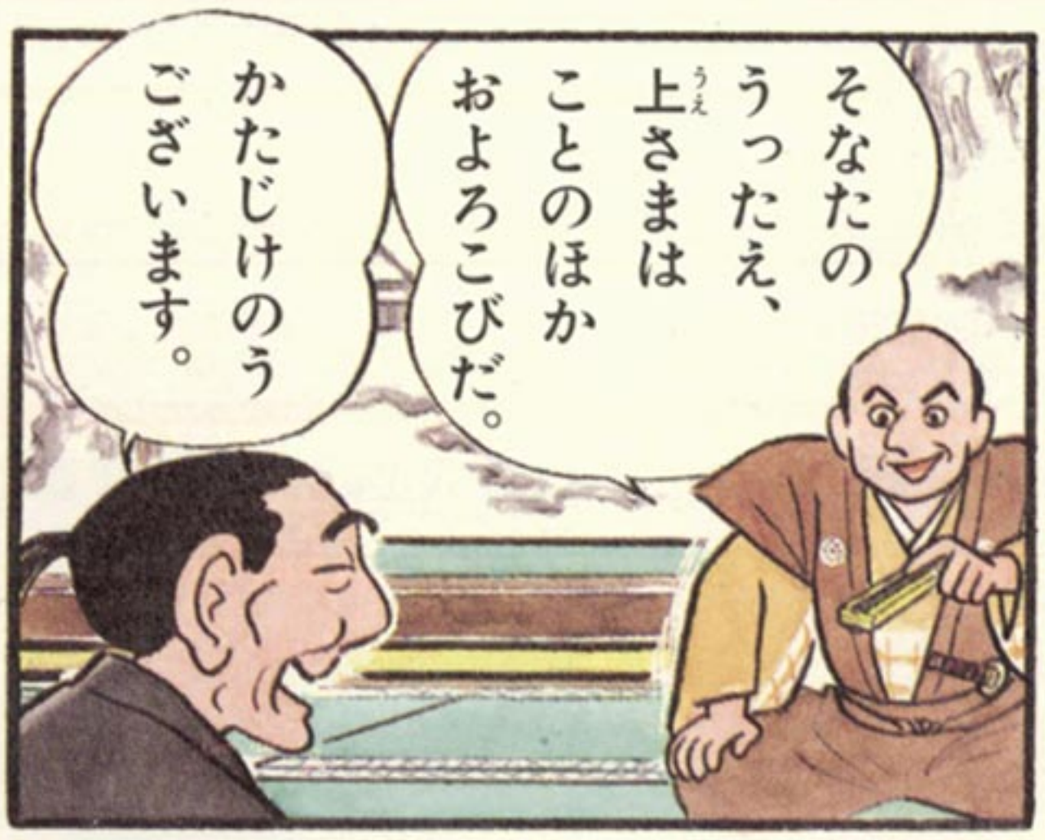


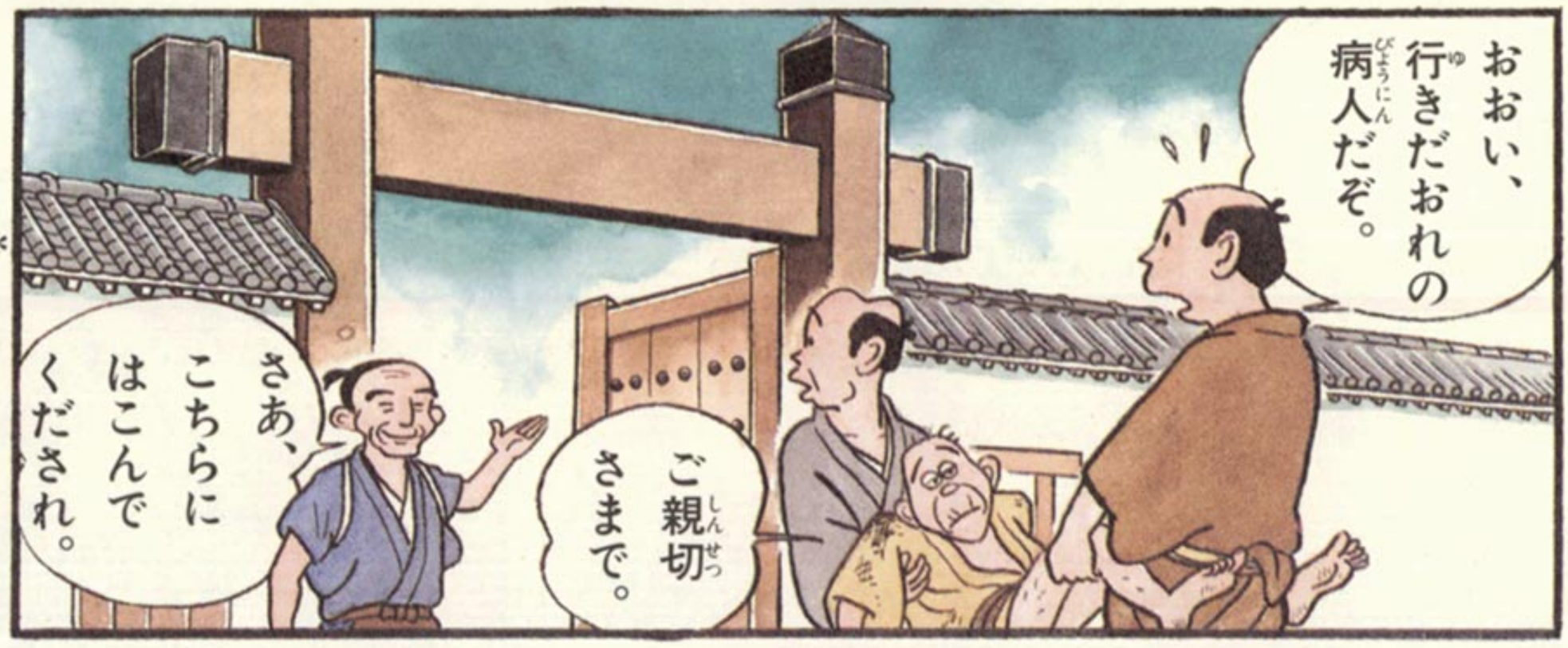






*直訴…手続きをふまず、直接君主などにうったえること。

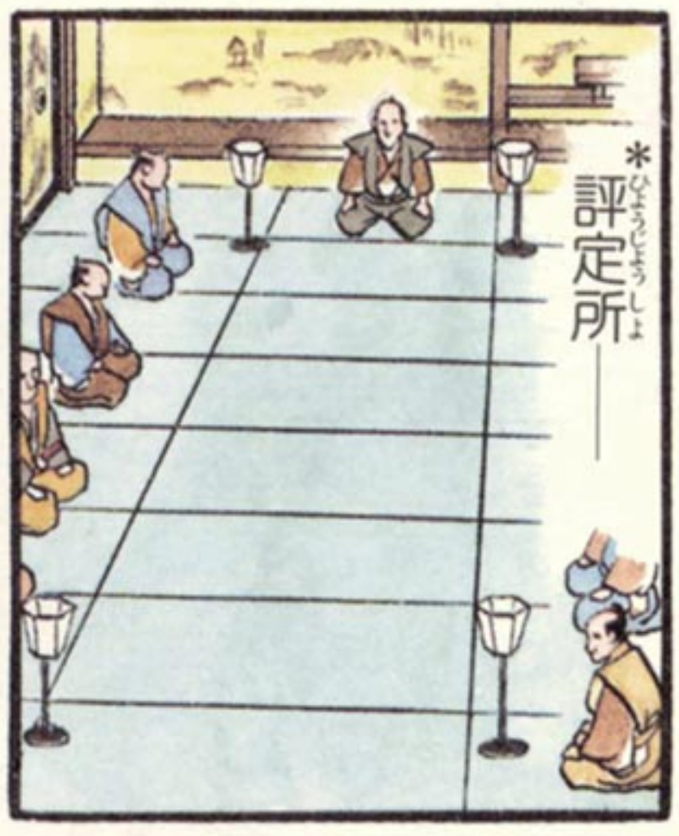


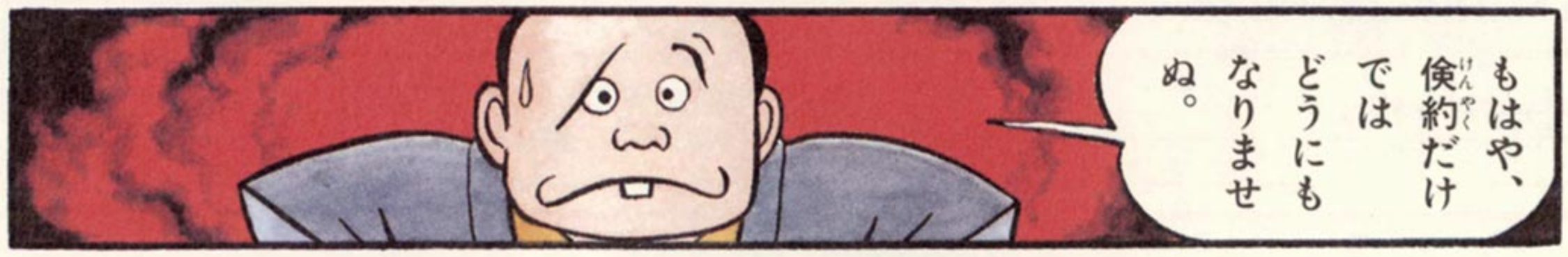


まもなく*小石川薬園内に養生所がつくられ、江戸の市民に利用されることになりました。

*伝通院…東京都文京区にある寺。

*小石川薬園…東京都文京区にあった薬草をつくる所。現在の小石川植物園。



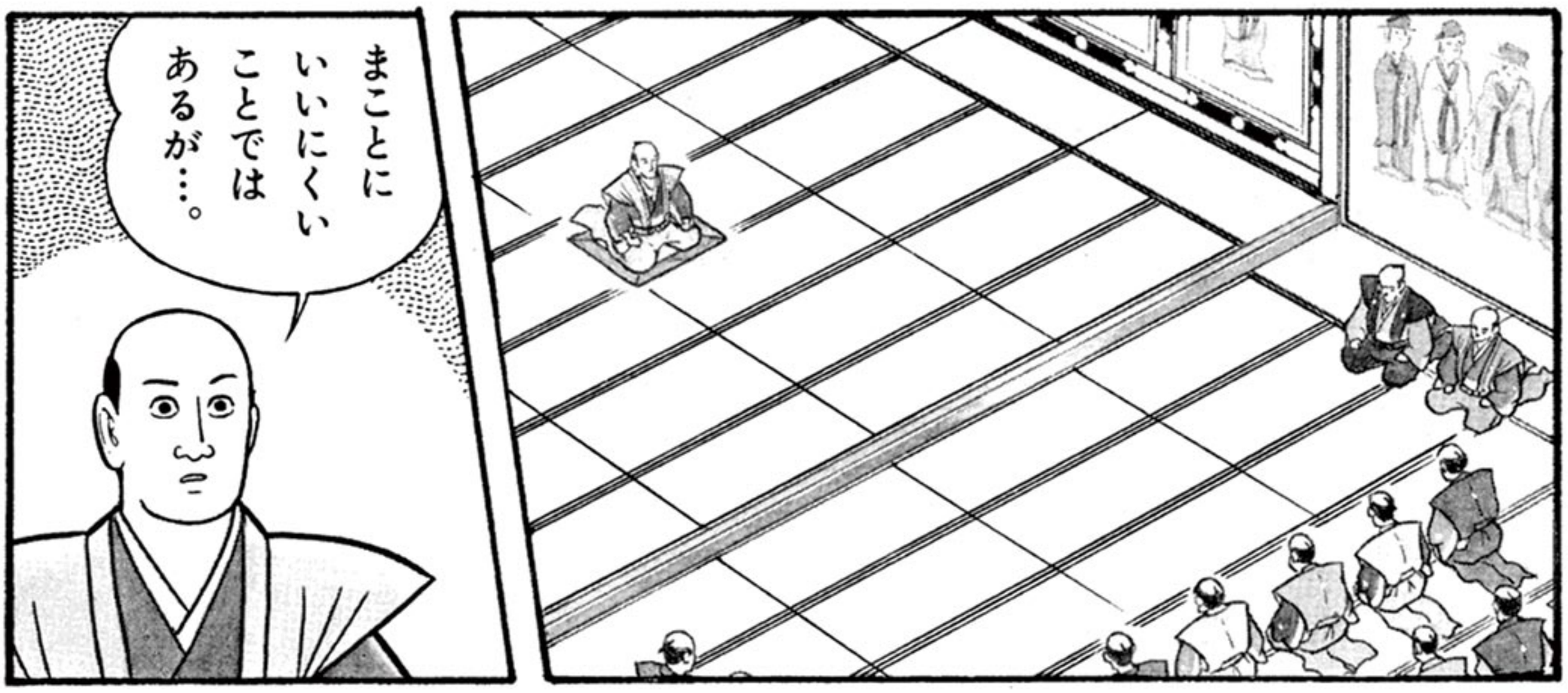


*評定所…幕府の重要な政治の会議や訴訟を裁決するところ。

*御金蔵…幕府の金をしまってある蔵。

*蔵米…幕府が浅草の米蔵にしまい、旗本・御家人に支給していた米。

一七二二年七月、諸大名に登城が命じられました。



＊八木…米のこと。＊天領…幕府が直接支配する領地。

これを「上米の令」といいます。幕府はこの収入により当分の間財政難を切りぬけられました。この制度は一七三〇年までつづきました。

一方、＊天領の村では——

定免法だと、おまえたちは得をするのだ。

へえ!?

では、わたしが検見法と定免法について説明しよう。

検見法というのは、その年の収かく高によって、年貢をきめる方法だった。

●豊作の年

収かくが多い。

年貢が多い。

●凶作の年

収かくが少ない。

年貢が少ない。

これにたいし、定免法は、過去数年間の収かく高の平均によって、一定の年貢高をきめる。

凶作でも豊作でも、年貢は　　で かわらないのだ。

でも、それでどうしてわしたちが得をするのかね?

豊作になっても年貢の額が多くなるわけではないから、得をするということらしいが…。

凶作の年はどうなりますか?

うむ。年貢をへらしたり、貸付米をあたえたりするぞ。

わかったようで、よくわからない……。

なんとなく、幕府の都合ばかりという気もするが…。

定免法によって、幕府は毎年の農作物のでき、ふできにかかわらず、一定の年貢の収入を期待できるようになったのでした。

ここは江戸の日本橋――

あと、一往復だぞ。

エッホウ！

ヨイショ

ざざざ…

おいしいところてんだよ。

ワイワイ

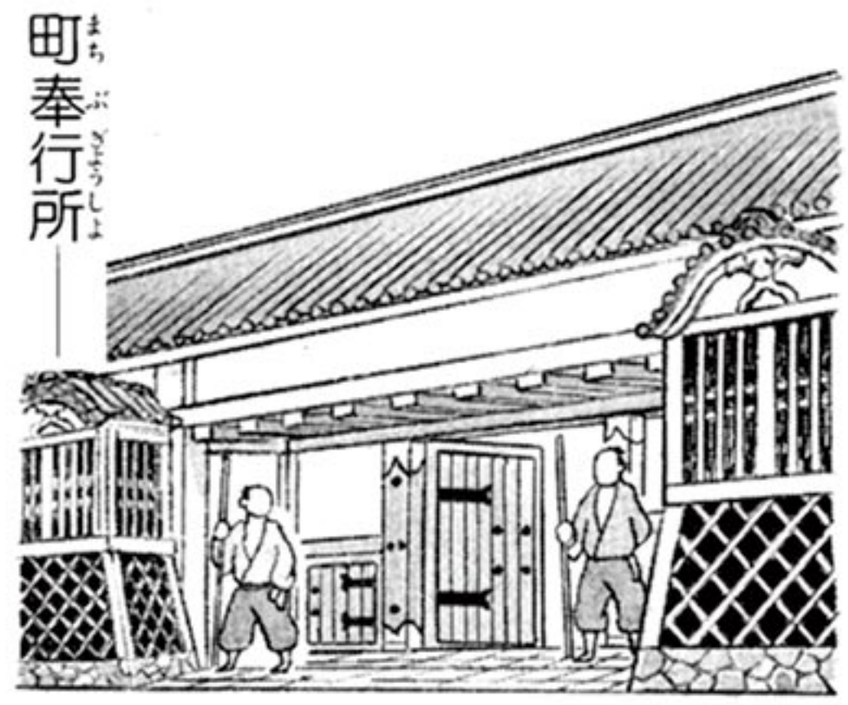
新しいおふれが出たぞ。

このへんが魚河岸だよ。

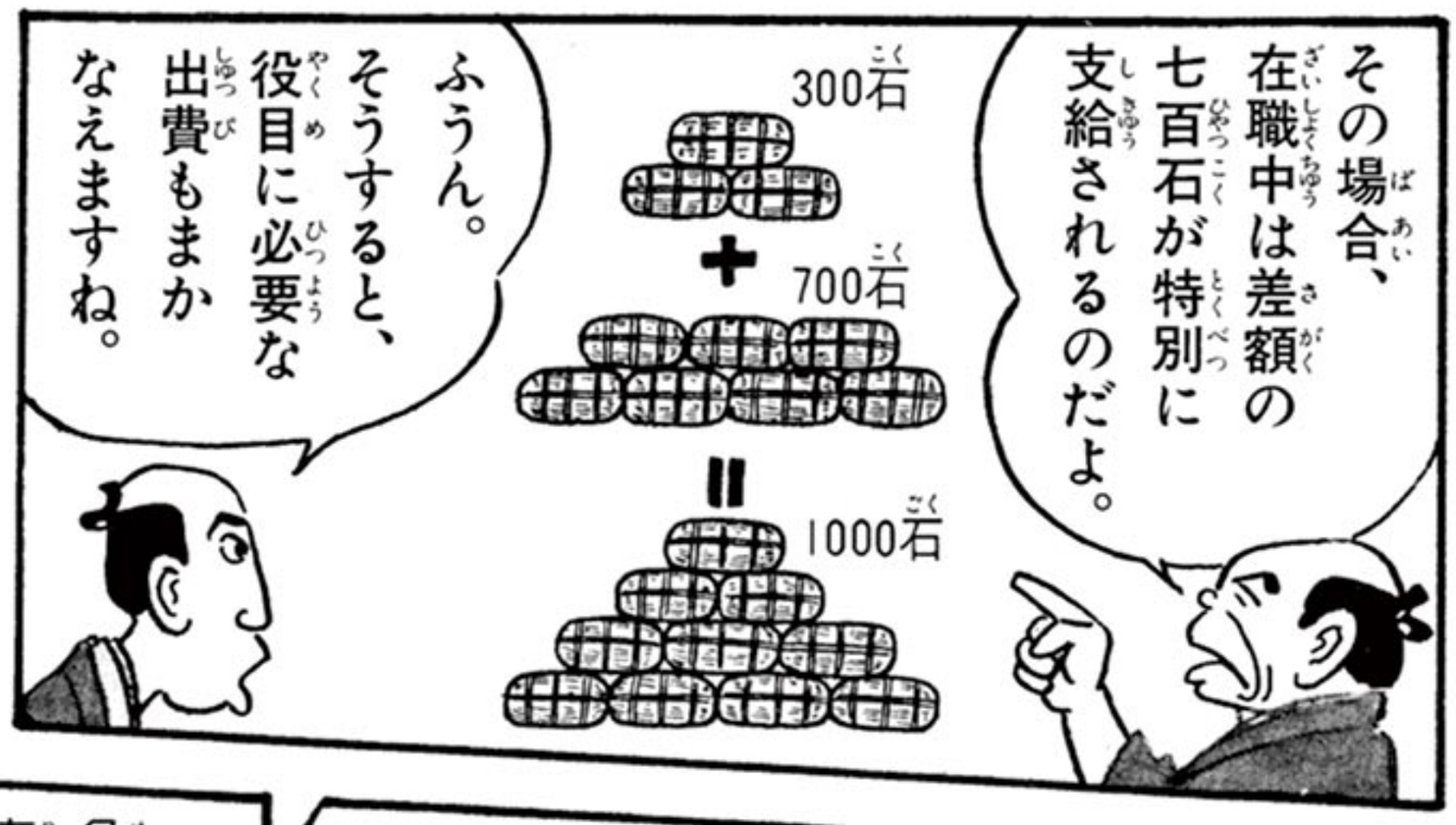
*家作料…家をかりている代金。

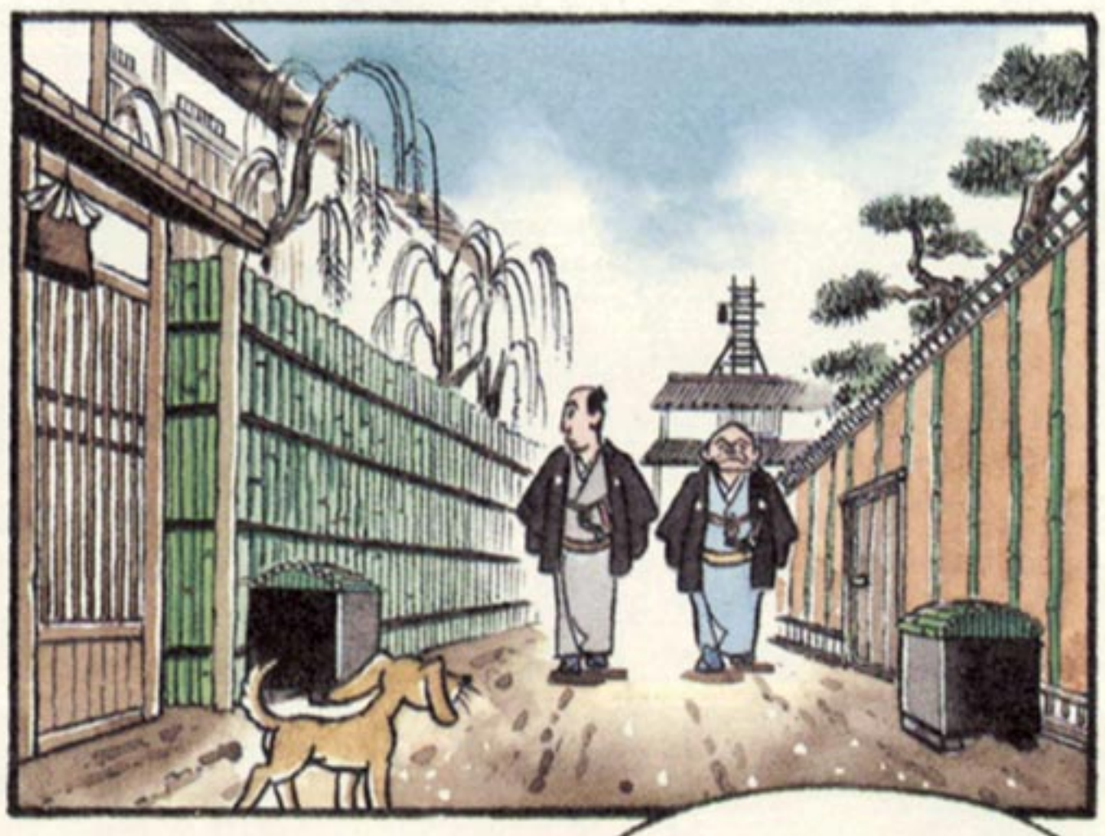
このようにして開発された新田の一つに武蔵野新田があります。現在の東京都西部に広がる一帯です。

町奉行所——



*禄…武士のうける給与。禄高。家禄。





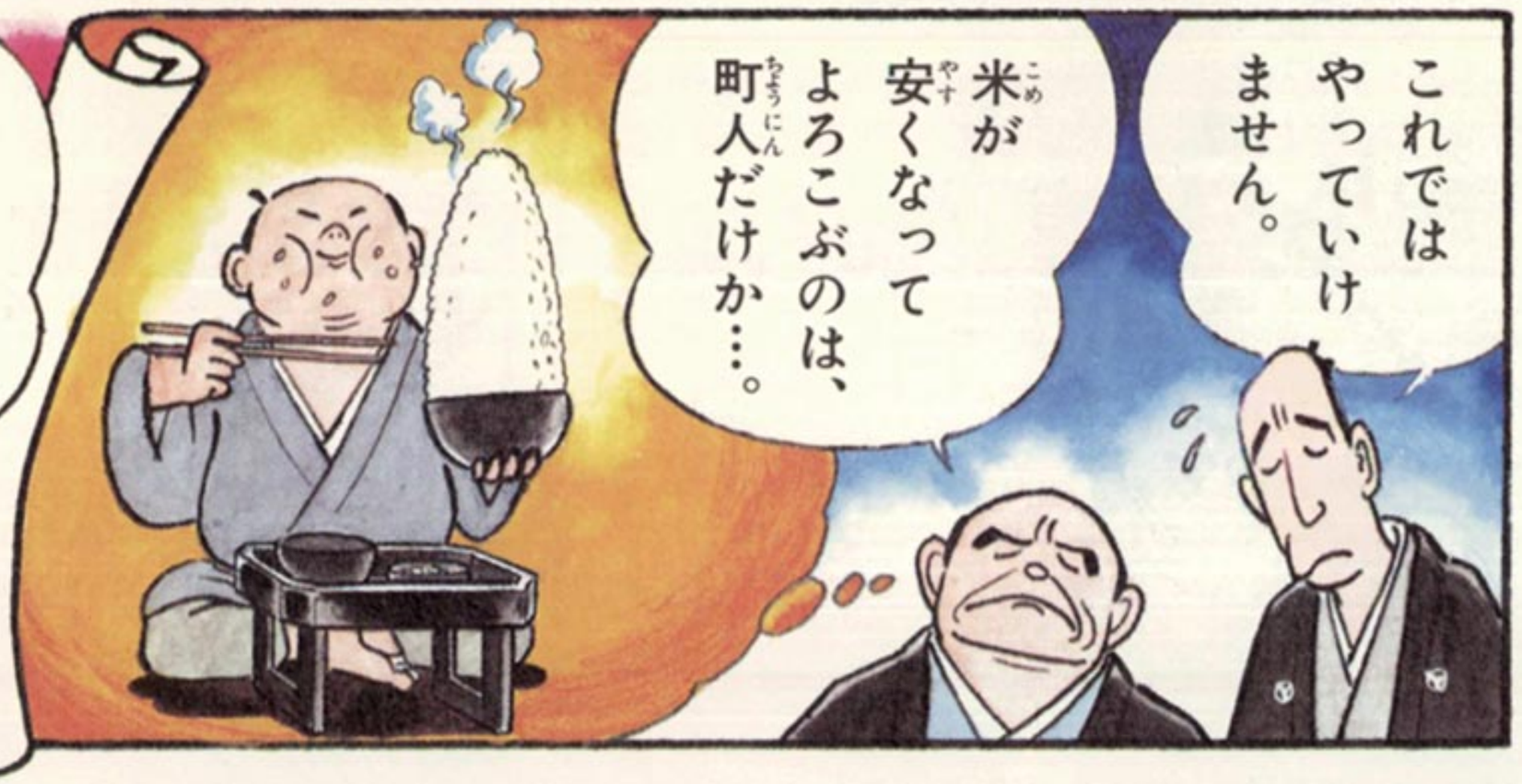
質
……。
どうした？

はい、この刀がいくらで質に入るかと思って。
め、めっそうもない！刀は武士の魂だぞ！

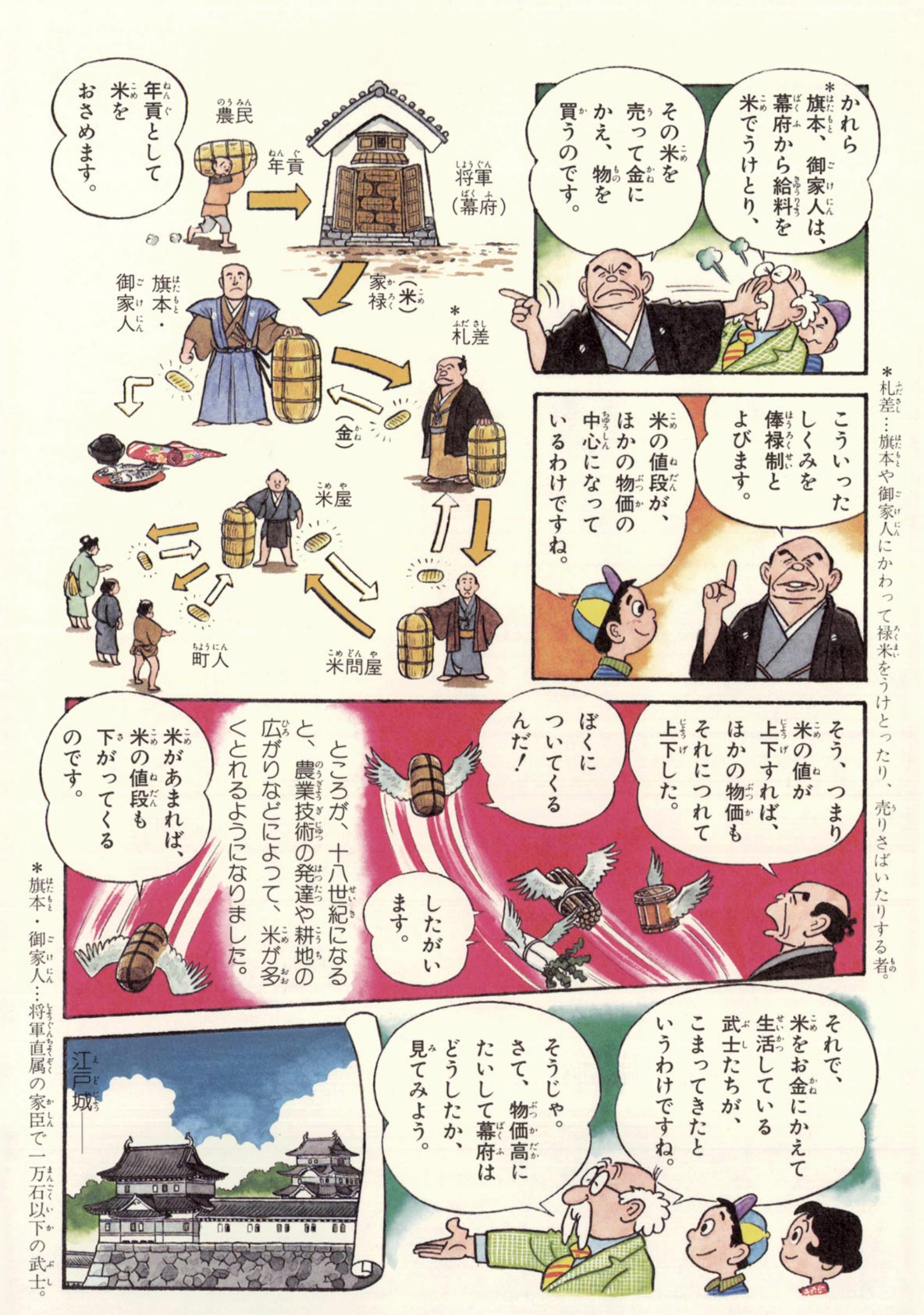
うう…、このところ生活が苦しくて…。
やはりな…。わしも借金だらけだよ…。

これも、米の値が下がってきたせいだ…。
二、三年前にくらべて、米の値が半分くらいになりました。

つまり、収入も半分にへってしまった。
ところが、どういうわけか米以外の物価は高くなるばかり…。


これではやっていけません。
米が安くなってよろこぶのは、町人だけか…。

さて、どうしてこういうことになったのか、わたしが説明しましょう。



*札差…旗本や御家人にかわって禄米をうけとったり、売りさばいたりする者。

*旗本・御家人…将軍直属の家臣で一万石以下の武士。

ううむ…。豊作でよろこべば、米が安くなる…。なんということだ。
上さま、このままでは御家人たちが生活できなくなります。
幕府の財政もまたまた苦しくなります。
……。
どうすれば良かろう……。
はっ…、まず*諸色の価格調査をし、不当なものの値下げが必要と思われます。
*諸色…いろいろな品物、商品。
うむ、そうだな…。
それにしても……弱った。
米の値が下がり、他の物価が高くなるのを「米価安の諸色高」といいます。
一七二四年二月、物価引き下げ令が出されました。
酒やしょう油などは、米を原料としているのになぜ値が下がらぬのか。また、炭、まき、油などは、米を原料とはしていないが、それをつくる職人の賃金は米をもとにしているのだから、それらのねだんも米価にしたがうのが当然であると考えられる。
米の値が下がっても諸色が値下がりしないのは、商人たちが不当な利益をえようとしているからだ。
ここに、値下げを命ずる!! 値下げをしない場合は処罰する!!

しかし、物価はなかなか下がりませんでした…。

おい、奉行所に出頭しろ。

へい、な、何でございましょうか。

町奉行所――

油は、生活にかかせぬもの。しかるにそのほうたちは法令にそむき、なおも値上げをたくらんだ。

であるから、もうけはすべて罰金として没収する。

ええっ!!

それはひどい!

これは、まいった。

また、同じ年の五月、幕府は、塩、しょう油、酢、みそなどの生活必要品をあつかう商人たちに、同業の組合をつくらせました。

組合で仕入値をおさえて、商品の値を下げよ。

自由にあきないすることは、ゆるさん。

江戸城内――

上さま、さ、どうぞ。

うむ……。

……市場に出まわる米を少なくすれば、米の値は上がるわけだが……。

中国、四国地方の稲が、害虫によって大きな被害をうけました。

このため、江戸にも米が入らず、たちまち米の値が上がりました。その結果――

悪どい米屋を打ちこわせ!!

ガー!

米よこせ、米よこせ。

ガー!

一つぶのこらずすてろ!

ガー!

町奉行所――

大岡忠相

将軍さまのおひざもとで打ちこわしとは……。

なんとかせねば…。

青木昆陽という浪人学者がまいっております。

例のもの、もってまいられたか。

はい。さいばいの研究をしてきた*甘藷とは、これでございます。

これで、人びとをうえからすくえるかな。

はい、そだてるのはやさしく、味も格別です。

*甘藷…サツマイモのこと。

ふむ。幕府も援助をするから、甘藷のふきゅうに力をかしてほしい。

はい、承知いたしました。

青木昆陽は小石川養生所内に土地をあたえられて、サツマイモづくりを指導したので、甘藷先生とよばれました。

江戸城――

*改鋳…鋳造しなおすこと。つくりなおし。

こうして吉宗は、その政治の大部分を、米や物価の問題についやしたのです。

一七四五年、吉宗は子の家重に将軍職をゆずりました。
引退しても、大御所として政治をみることにしよう。
……。
幕府の財政を黒字にできたとはいえ、つかれたのう。
名君といわれた吉宗がなくなったのは、六年後の一七五一年でした。
吉宗の行ったいろいろな政策は「享保の改革」とよばれ、「寛政の改革」「天保の改革」とならんで、江戸時代の三大改革の一つとされています。
それは成功したものと評価され、幕府の財政はいちおう安定しました。
しかし、このころから農業や商業の発達により経済のしくみがかわり、幕府の土台はゆらぎはじめるのです。

小学館 eBooks

第二章

田沼時代

——江戸時代中期——

一七六〇年、江戸城――

徳川家治
父上、ごきげんはいかがですか。

九代将軍 徳川家重
おお……い、家治か……。

父上のおことばがはっきりしない。……何とおおせられたのか!?

側用人 大岡忠光
上さまの小姓などをつとめた田沼意次を、たいせつにせよとのことでございます。

意次は切れ者。
わたくしもそのつもりでございます。
う…、うむ……。

この年、家重が将軍の座をしりぞき、その子家治が十代将軍となりました。家重は翌一七六一年になくなりました。

一七六七年、江戸城――

お、田沼どの…。

リリペ

うっ！老中のわたしにたいし、礼もないとは……。

最近側用人にとりたてられて、ますます図にのってきた。
ムゥムゥ

＊軽輩…身分が低いこと。

そもそも側用人は、上さまと老中との間をとりつぐ役……。
……なのに田沼のやつ、上さまのお気に入りをよいことに、われわれ老中を政治から遠ざけ、権力を自分一人にあつめようとしている。

＊軽輩の出のくせに……。
カッカッ

上さまのおよびとは、何事であろうか……。
毎日毎日、いそがしいことだ。

上さま、まいりました。
うむ。

上さまは、将棋がおすきですね。
将軍徳川家治

しかし、政治向きのことも おろそかにできませぬ。

老中たちと相談するのはにがてでな。

余にかわって、そちの手腕を発揮してほしい。

はは！

吉宗さまのおかげで、幕府の財政は安定し、これまで切りぬけてまいりました。しかし…。

うむ、このままでは幕府はまた、危機におちいるだろう。

今日は、そのほうの考えをゆっくりと聞いてみたくてな。

倹約令はよくまもられているかな。

はっ、しかしながら…。

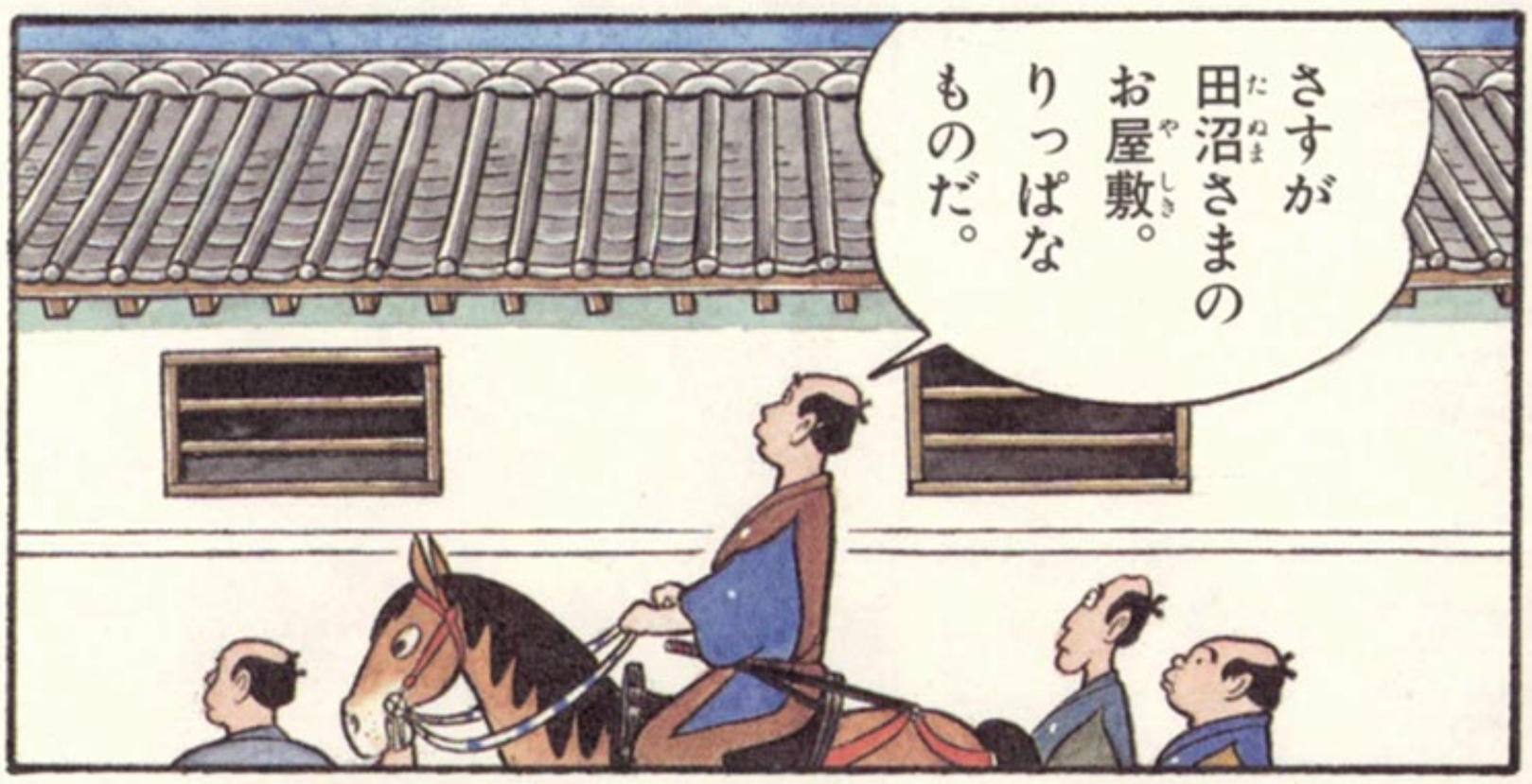
これからは、倹約だけではどうにもならないと思います。

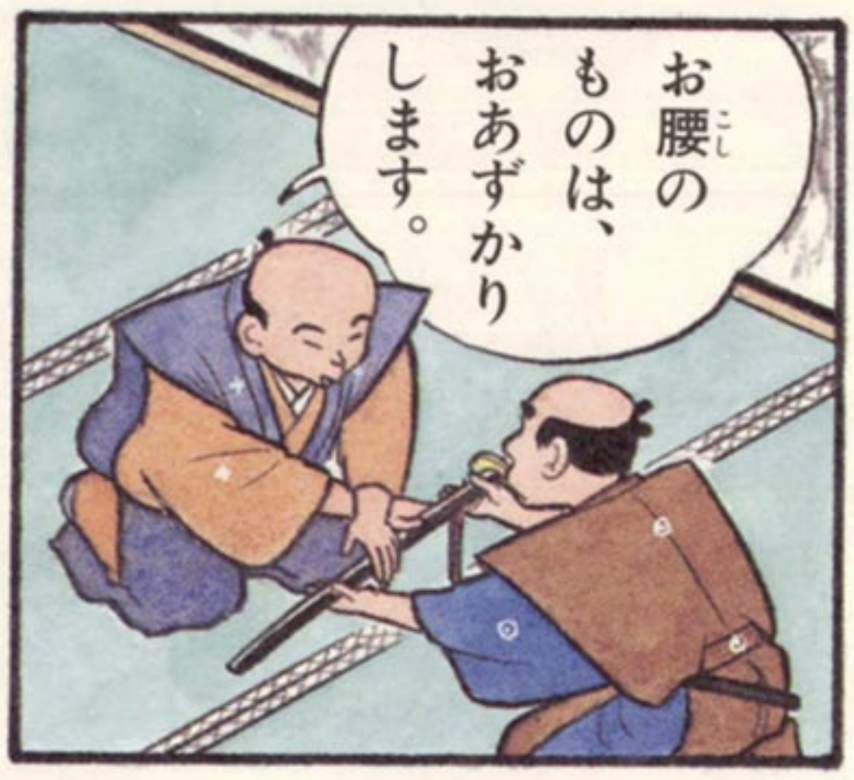
うむ、うむ。

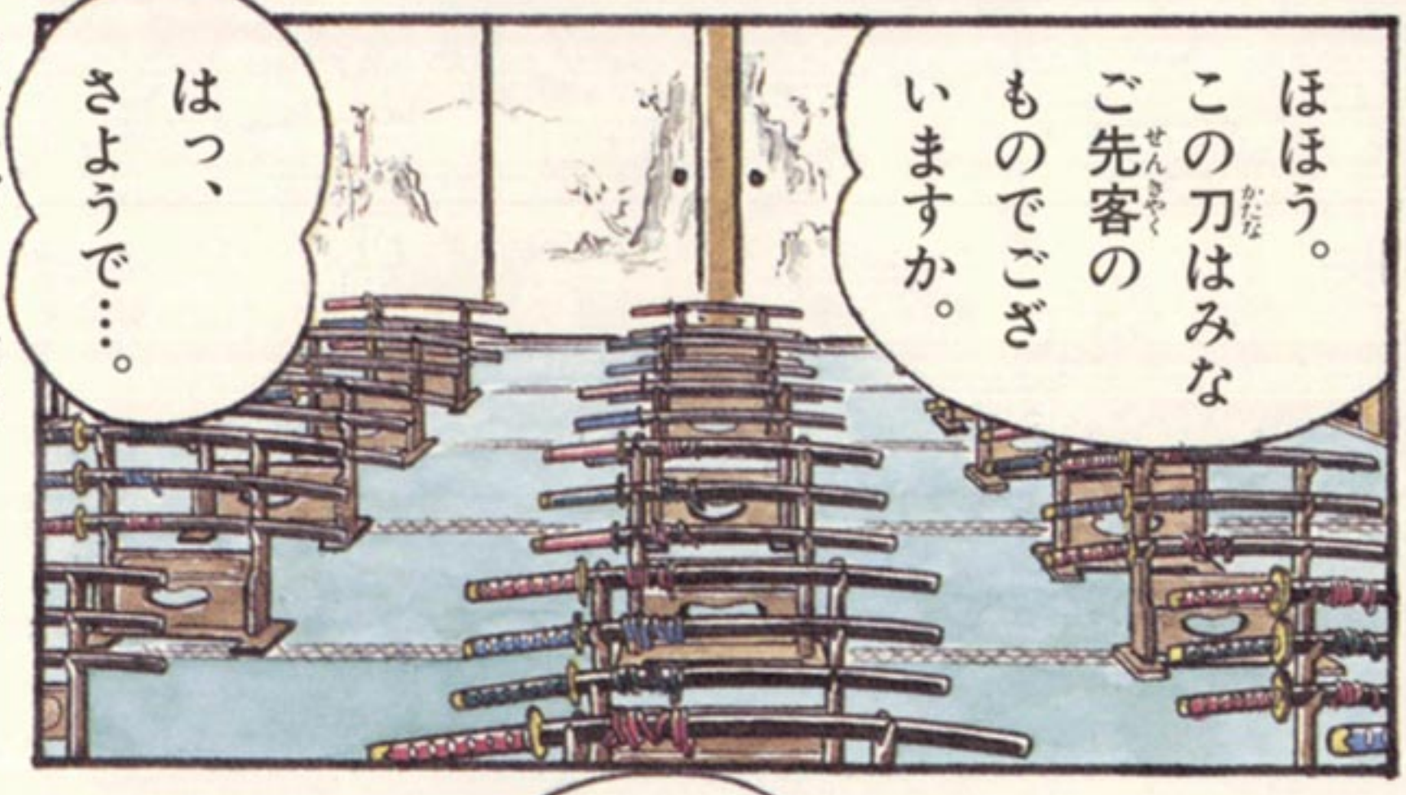
それに、幕府の収入を米だけにたよるのも限界にきております。

商業などをさかんにし、民の力をたくわえることがたいせつだと思います。

なるほど……。







*肥前国平戸…長崎県平戸市

*留守居役…諸藩が江戸の藩邸に置いた職名で、幕府との連絡や、他の大名の留守居役との連絡をとる職。

田沼さまがおみえだ。
みなさま、おまたせいたしました。

おたがいにえんりょぬきでまいりましょう。
ううむ。なかなか人あつかいのうまいおかただな。

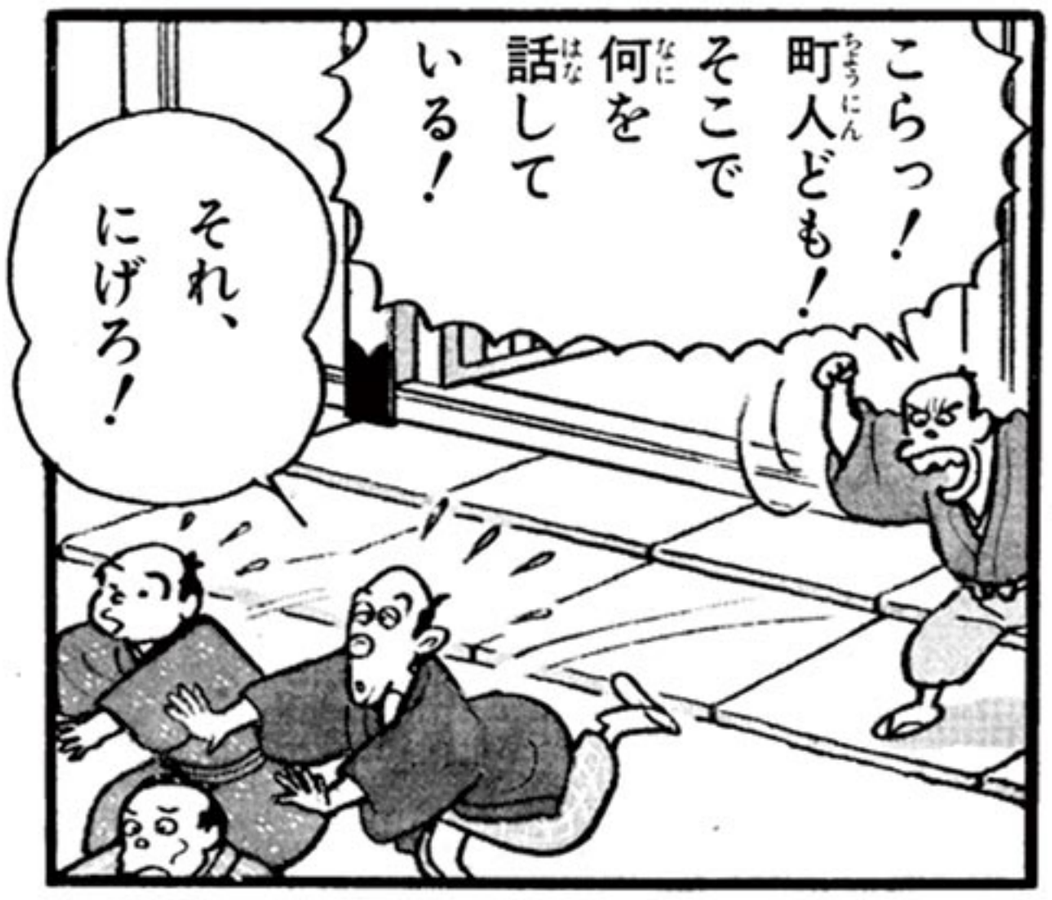
個人的な相談がおありのかたは、後ほどお聞きいたします。
では、ごあいさつをおうけいたしましょう。

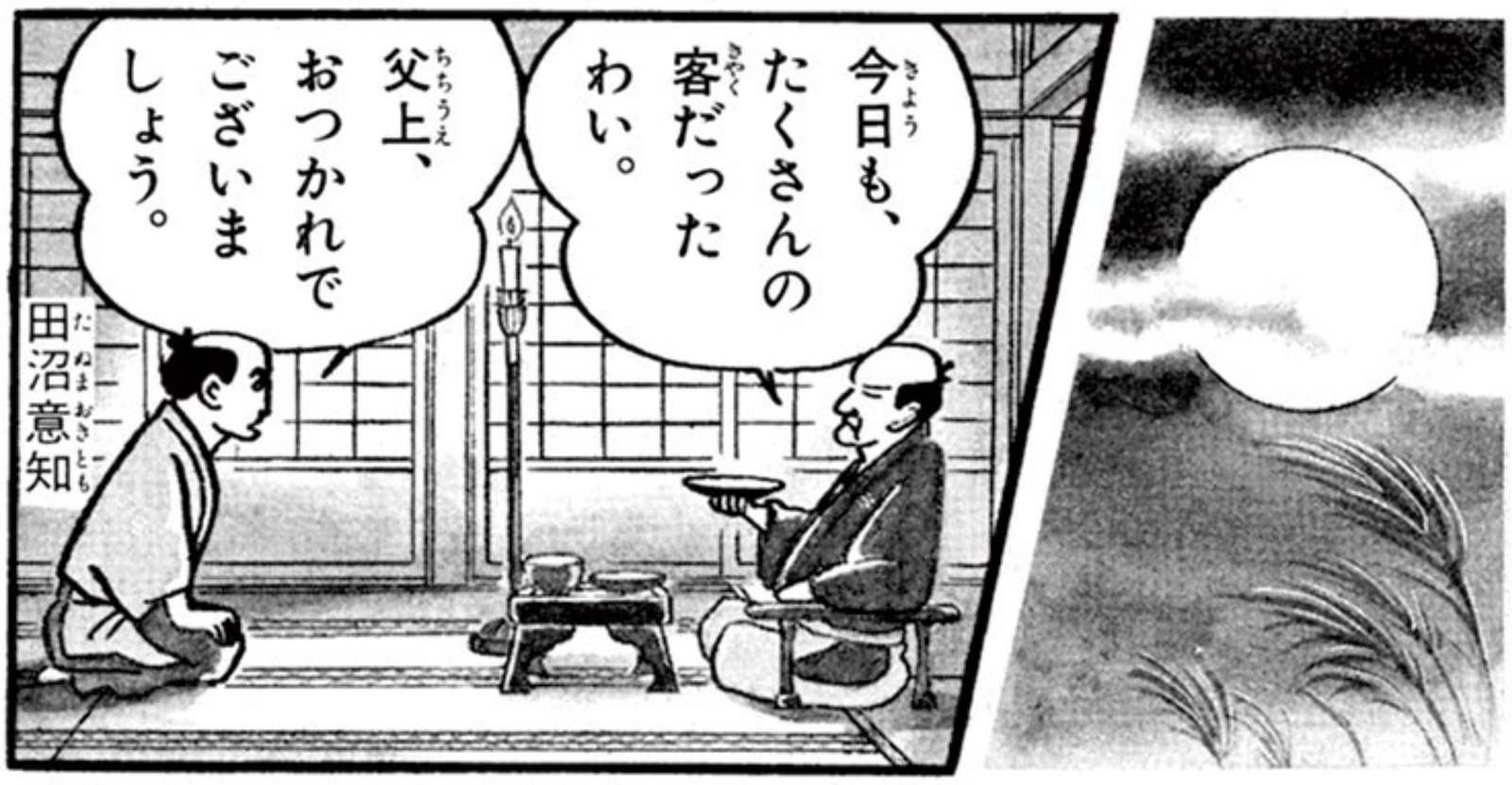
いやはや、田沼さまの人気はすごいものだ。

あれは田沼さまの客だ。
また、ごまをすりに来たのだろう。
しいっ！聞こえるぞ。

田沼さまはわずか六百石の旗本出身というが、ほんとうか。
ほんとうだ。

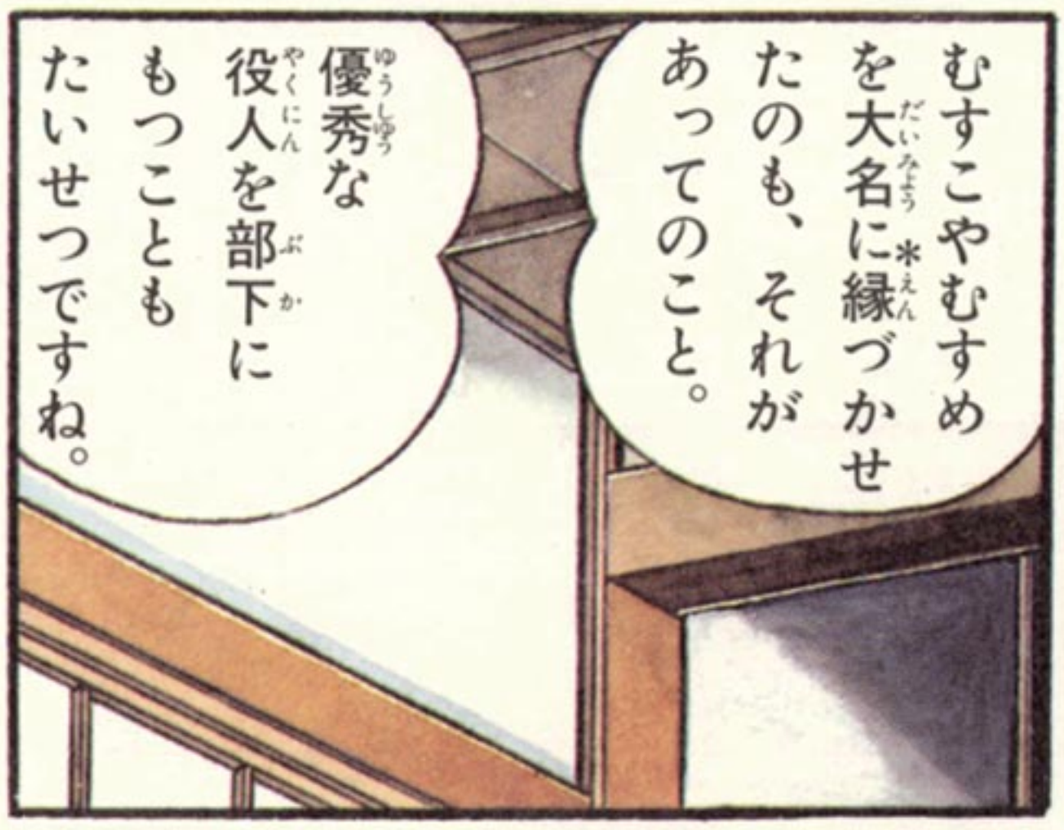
田沼さまの父ぎみが、吉宗さまについて和歌山から江戸へ来て、旗本にとりたてられたのだ。
それが今では、とぶ鳥をおとす勢い。

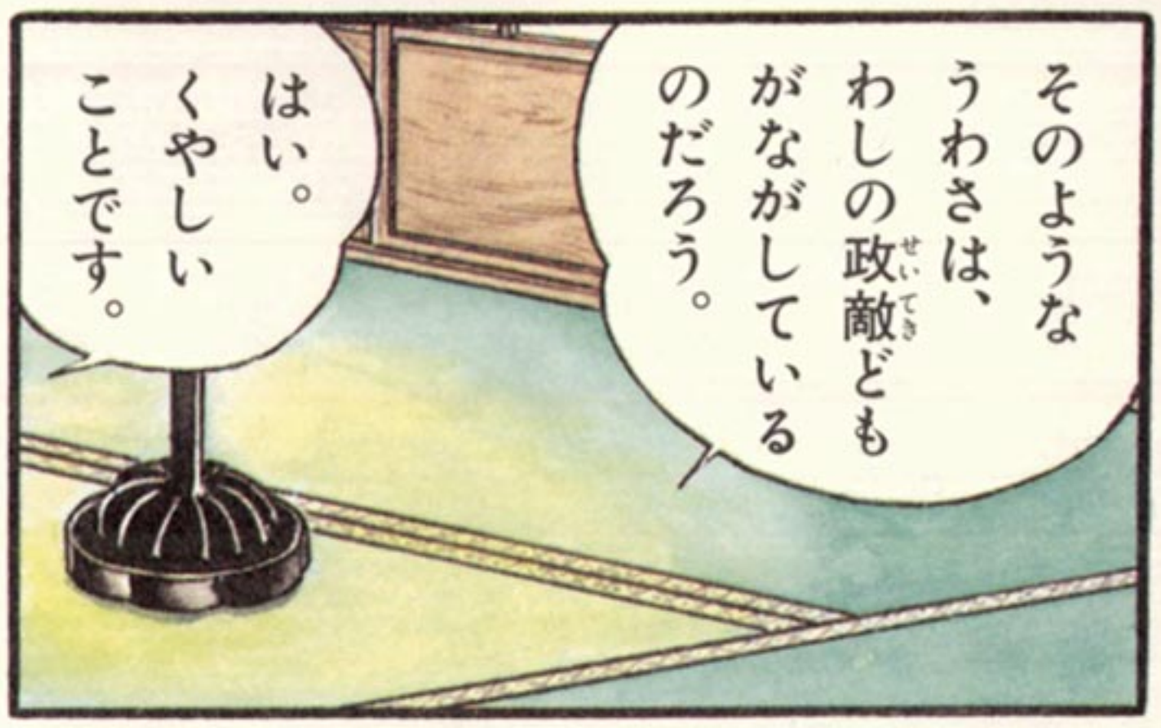




＊遠州相良…現在の静岡県牧之原市

*縁づかせる…結婚させること。





このころ、日本の各地ではいろいろなことがおきていたのじゃ。

江戸では、「行人坂の大火」とよばれる大火事。

各地で農民の一揆が発生。

全国的には、日照りや洪水などの自然災害。

ギラギラ

疫病の流行。

はげしい物価の値上がり。

田沼意次は、たいへんな時代に老中になったのですね。

これからは、経済を発展させなければいけない。

経済の発展をさまたげているのは何だろう…。

わたしたちは、金貨で商売をしています。

江戸の商人

わしらは、銀貨をつかっています。

大坂の商人

もっぱら銅貨だよ。

庶民

そうだ！貨幣制度を全国共通にしよう。

こうして、国内の経済活動を活発にするために、全国共通の貨幣「南鐐二朱銀」がつくられました。

南鐐八片 換小判一両

新銀貨八枚で金一両になるのです。

金と銀の貨幣の換算が、簡単になりました。

江戸城

収入をふやす良い方法はないだろうか。

はてと…。

ぬれ手でアワという方法でもあればのう……。

それにつきましては、考えがあります。

商工業者に株仲間をつくらせて、そこから収入をえるのです。

何を今さらそのようなこと……、反対じゃ。

この案は、すでに上さまもごぞんじ。

さっそくおもな商人たちにつたえよう。

*株仲間…商工業者の同業組合。

町奉行所

わかったな。

しかし、お奉行さま……。

商売は自由競争のほうがよろしいです。

だが近ごろは、競争がはげしすぎて、そなたたちは苦しくなっているではないか。

株仲間は、幕府がそなたたちを保護しようというものなのだぞ。

へい…。

株仲間以外の者は、新しく商売をはじめることができないという。

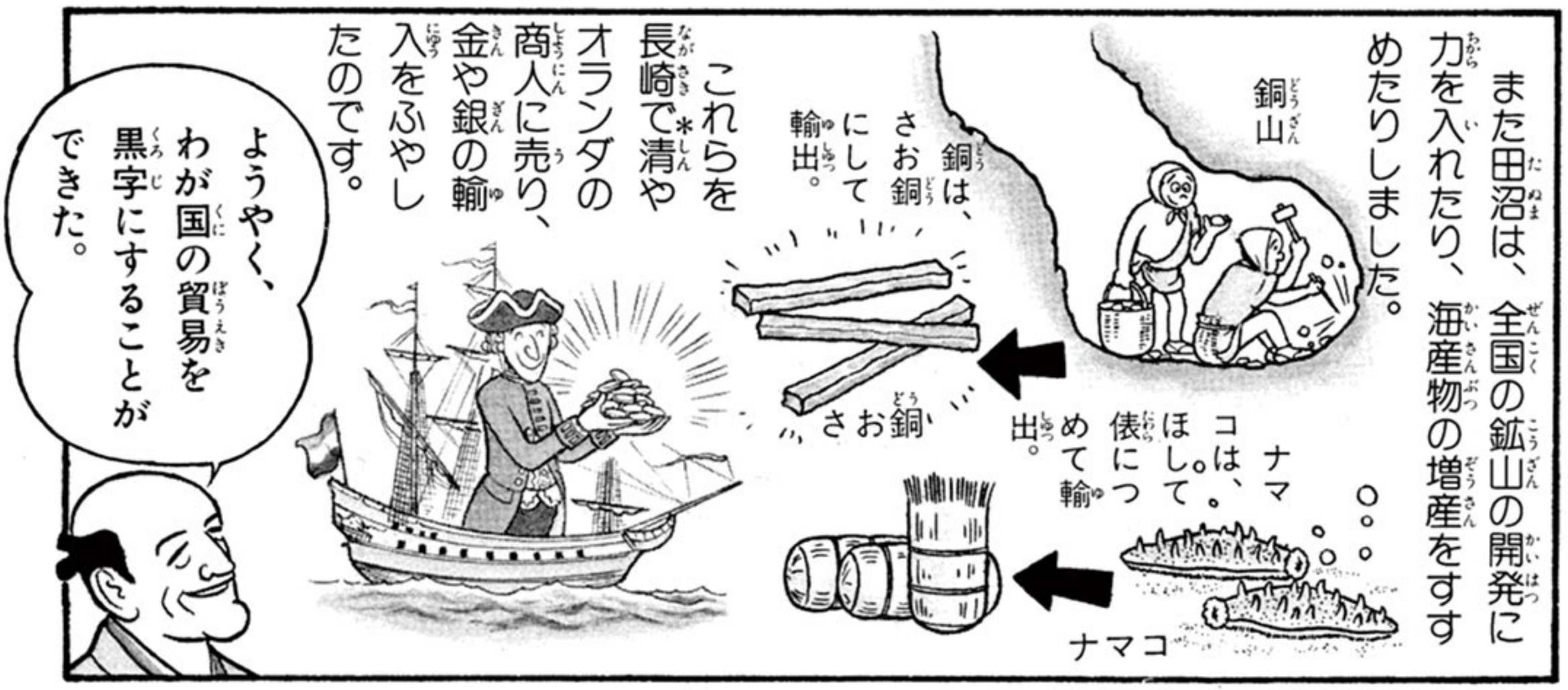
株仲間で品質や値段を協定してよいそうだ。

すると、同業者どうしのむだな競争もさけられるし…。

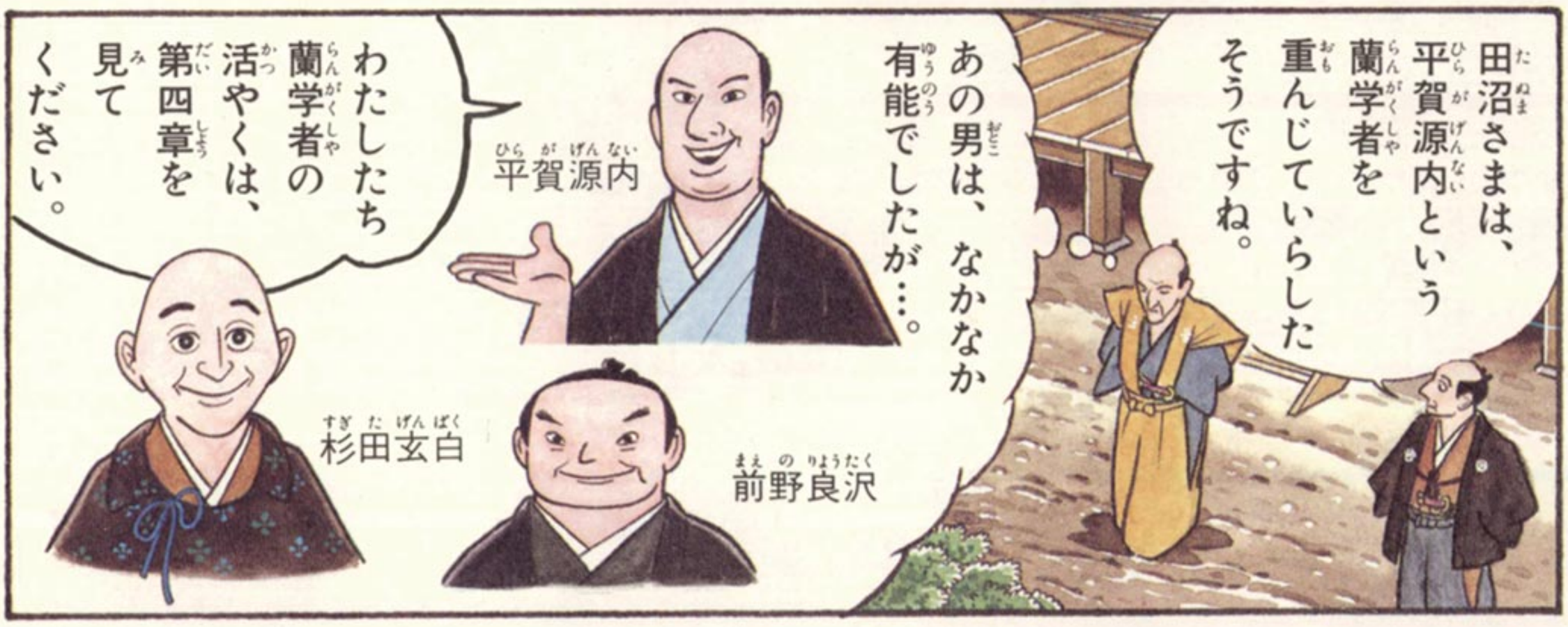
*冥加金…営業を許可されたものがおさめるお礼のお金。

こうして、水、油、しょう油、酢、酒などの日常生活用品をはじめ、さまざまな商工業関係の株仲間ができました。

*清…一六一六年から一九一一年までつづいた中国の国家の名。



*薩摩…鹿児島県西部



*蘭癖…オランダの品物をこのむこと。

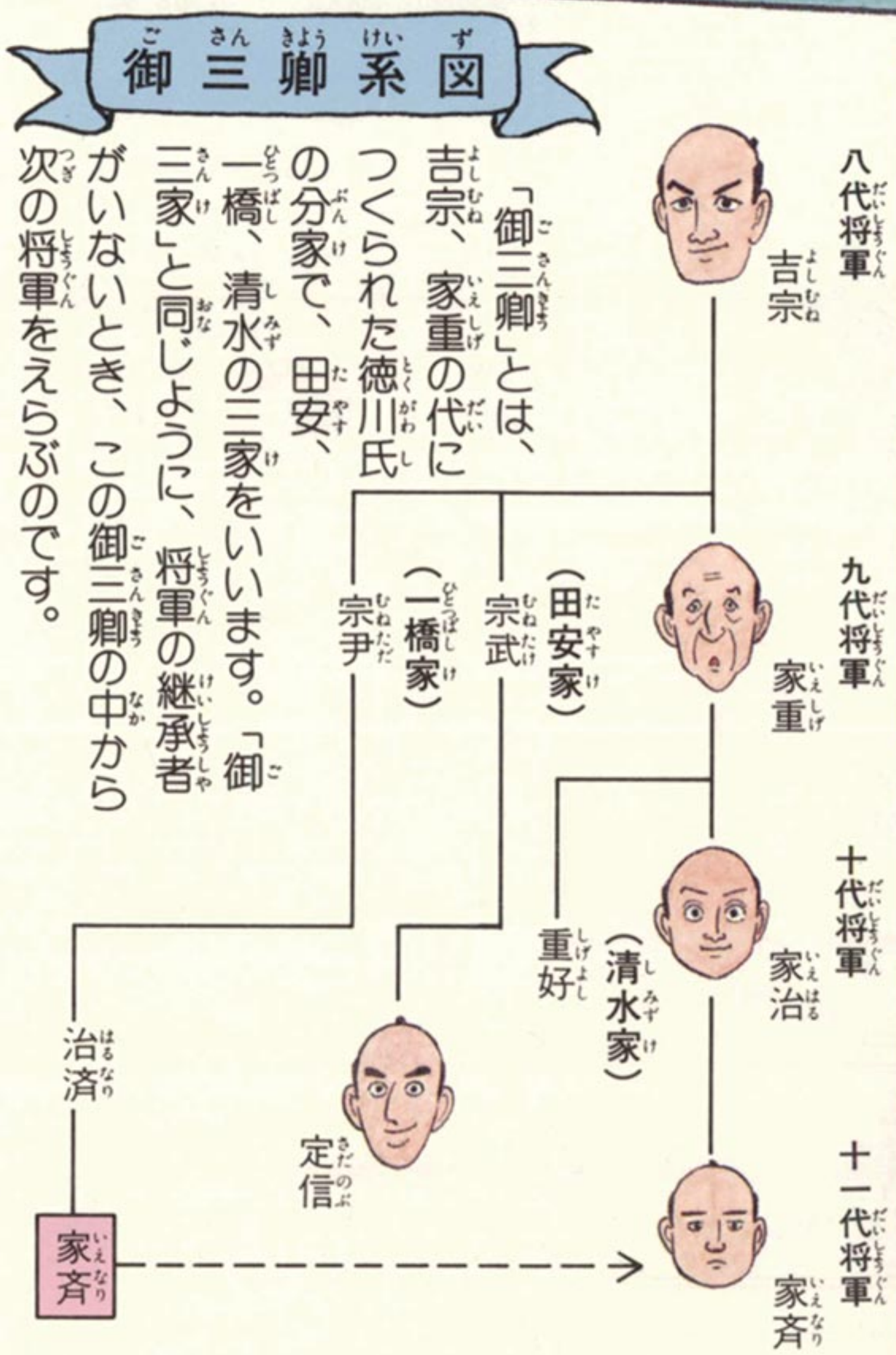
*黄表紙…さし絵つきの読み物。表紙が黄色だった。

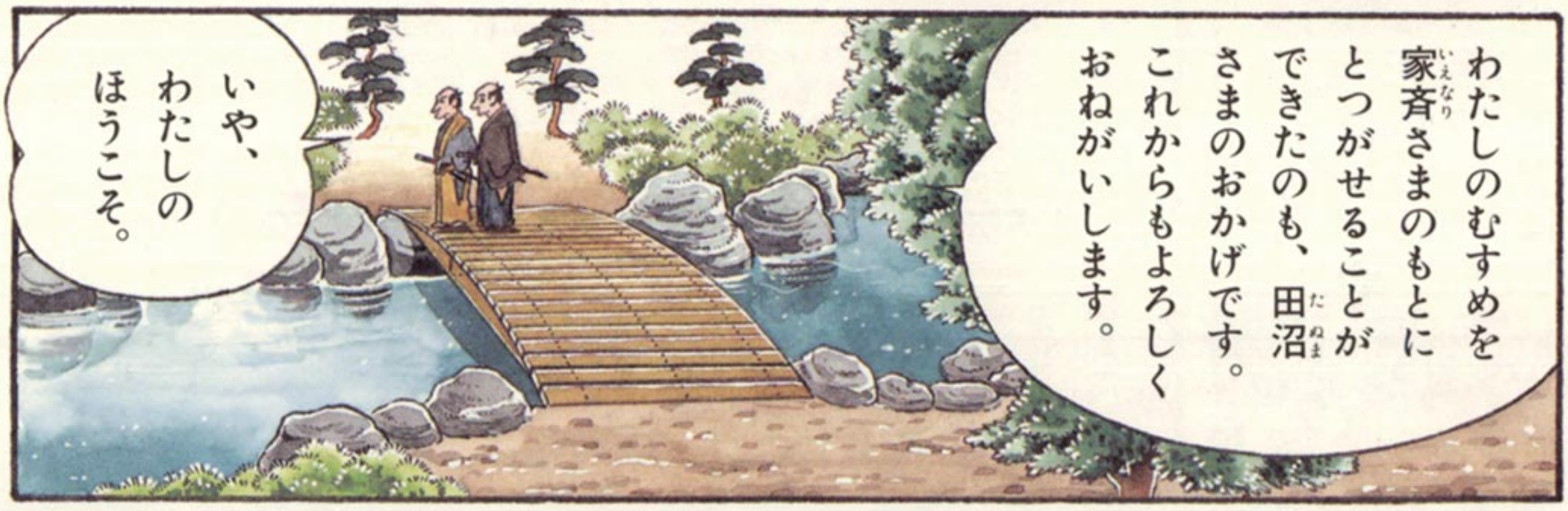
旗本は苦しくなるいっぽうで、札差から借金する者がふえています。

わが薩摩も、いずれ経済的な改革にとりくむ必要があります。

御三卿系図

「御三卿」とは、吉宗、家重の代につくられた徳川氏の分家で、田安、一橋、清水の三家をいいます。「御三家」と同じように、将軍の継承者がいないとき、この御三卿の中から次の将軍をえらぶのです。





一七八二年、江戸城――

印旛沼の開発計画は、どうなっているかな。

はっ、着工はいつでもだいじょうぶです。

この計画は、吉宗さま以来のものだ。

はい、ぜひとも完成させたいものです。

さっそく、工事にかかるのじゃ。

はっ。

一七八三年、印旛沼――

ワイ ワイ ワイ

この図のように、運河をつくるのじゃ。

利根川
印旛沼
これからつくる運河
江戸
江戸湾

これが完成すれば、どうなるのですか。

まず、洪水の被害がなくなる。そして、沼のあとの広い土地が水田になる。

それはすごい！

しかも、利根川と江戸を運河でむすぶので、交通の便が良くなるのじゃ。

こうして、印旛沼と江戸湾をむすぶ全長約十七キロメートルの運河づくりが、はじめられました。

運河づくりは、たいへんだなあ。

ところが工事が半分おわったころ、この地方は大豪雨にみまわれました。そのため、堤防がくずれて大洪水となったため、工事は中止せざるをえませんでした。

ザー

印旛沼の干拓工事がはじまった一七八三年、浅間山が大噴火をおこしました。

ドドドド

その後の天候不順によって東北、北陸地方を中心に大ききんがおこりました。

それによって引きおこされた社会不安は、田沼の政治にたいする批判をよびました。

このときの様子は、第三章で見てみよう。

そのころ江戸では——

お米もどんどん値上がりしてるわ。

世の中はどうなるのだろう。

田沼が悪いんだよ。

田沼、引っこめ。

そうだそうだ！

一七八四年、江戸城——

父上が悪くいわれる道理はない。すべて天災のせいなのだ。

若年寄 田沼意知

あの若さで、若年寄に出世ですぞ。

意次どのが、わが子かわいさにやったことでしょう。

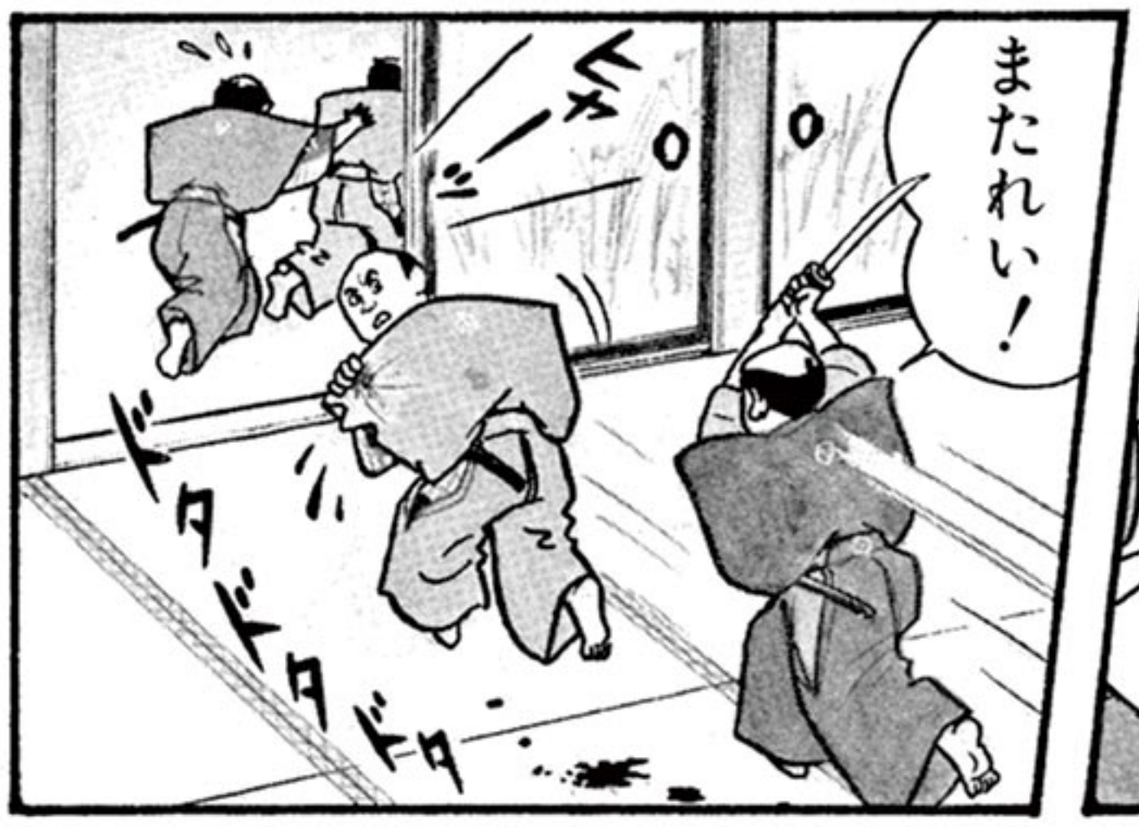
ゆるしがたいですな。

そろそろ、退出の時刻でござる。

うむ。

今日のお役目はつかれましたな。

スッ



*大明神…神さまを尊敬していうことば。

世直し大明神。
ありがたやありがたや。
みんなでお墓まいりに行こう。
大明神さま。
ガヤガヤ
ワイワイ

あのさわぎは？
例の佐野の一件らしゅうございます。
田沼のやつ、このわたしがうちたい。
松平定信

御三卿田安家出身のわたしは、次の将軍ともいわれた…。
それが、田沼のたくらみで、*白河松平の養子にさせられてしまった。
しかしながら、田沼をうてばわたしの地位もそれまで…。

*白河…福島県白河市

今は、やつにわいろをおくってでも、自分の地位を高めるとき。
がまんがまん……。
わたしが実権をにぎったら、田沼のよごれきった政治をたたきなおしてくれるぞ！

一七八六年八月、将軍家治は重い病にかかりました。

田沼を追いおとす機会がやってきましたぞ。

田沼め！譜代の大名をばかにしおって…。

あの成りあがり者が…。

御三家もわれわれの味方です。

田沼と親しかった一橋家も、こちら側についたようです。

家斉さまを説得するのも、むずかしくありませんな。

われわれの中心にはだれが…。

それは、松平定信どのにきまっている。

あのかたは家がらもりっぱだし、人格もすばらしい。

では、おのおのがた…。

うむ、心えた。

家治の病気は良くならず、後ろだてをうしなった田沼は、たちまち失脚してしまいました。

老中をやめさせられ、家禄を没収され、領地の相良城はうちこわされてしまいました。

一七八七年四月、家斉が十一代将軍になりました。

このころ、前年の凶作のため、江戸をはじめとして全国の都市で、打ちこわしがおこっていました。

ビリッ
ゴン
ドッ

そのため、政治がうまくゆかなかったので、幕府内にのこっていた旧田沼派の者は、すべて追い出されました。

松平定信は国内がみだれている時期に老中となり、翌年将軍補佐役となったのです。

おまかせください。

たのむぞ。

数年前の大ききんのとき、わが白河の領民には、一人の餓死者も出さなかった。

この経験を大いに生かしたいものだ。

祖父吉宗さまの政治が、わたしの理想…。

政治は清潔でなくてはいけない。

一七八八年正月二日、江戸*霊巌島吉祥院——

わたしの力をすべて、新しい政治にぶつけます。

*霊巌島…東京都中央区新川の一部

なにとぞ、世の中がおだやかになりますように…。

もし、わたしのねがいがかなわないのでしたら、今、この場でわたしをころしてください。

現在の幕府の財政はどうかな？

このままでは、来年の予算は百万両ほどの不足となりましょう。

これは容易なことではございませぬ。

さて……。

ううむ……。

弱りましたな。

……。

よし！まずは株仲間の一部を解散させるのだ。

えっ!? わたしどもの株仲間を!?

どうしてでございます。

たわけ!! そなたたち、特権をよいことに、商品の値をつり上げてばかりいたではないか！

その後、松平定信の改革は矢つぎばやに実行されていきました。これを「寛政の改革」といいます。

何だ何だ。

新しいおふれが出たぞ。

ガヤガヤ

ワイワイ

衣服や
かみかざりなど、
ぜいたくを
禁じるそうだ。

おかしや
料理なども、
ぜいたくは
いけないそうだ。

銭湯の
男女混浴も
禁止。

かけごとも
いけない
そうだ。

えらく
きびしいな。

なにもかも
禁止では、
世の中
つまらなく
なるなあ。

ワイワイ
ガヤガヤ

わたしのした改革は、
まだまだたくさん
あります。
ここでまとめて
しょうかいしよう。

出版物や学問について
統制しました。

これからは、
朱子学以外の
学問はならぬ。

また、
お上を批判したり、
風俗をみだすような
本を出してはならぬ。

なんと
むちゃな。

塾が
つぶれて
しまう。

みんな
よろこんで
読んでくれて
いるのに…。

江戸の石川島に浮浪者を
収容する「人足寄場」をつく
りました。

仕事を
おぼえてから、
ここを出る
んだぞ。

この
施設は、
わたしの
提案で
生まれた
のじゃ。

＊火附盗賊改
長谷川平蔵

＊火附盗賊改…江戸幕府の職名。町奉行から独立した機関で、犯罪者を検挙するのが役目。

ききんにそなえて、大名、旗本、町人に、もみをたくわえさせました。

これを囲いもみというんだよ。

地主たちに町費を節約させ、そのうちの*七分をつみたてさせました。

七分積金のこと、あいわかったな。

へい、その金は災害のためにたくわえるのでございますね。

*七分…この場合、十のうち七、つまり七〇パーセントのこと。

商品の仕入れの値をしらべて、物価引き下げ令を出しました。

いくらでおろしているのかな。

小売りはもっと安くしなさい。

旅費も食糧も農具代も、お上でめんどうをみる。

村に帰って畑仕事にはげむのじゃぞ。

おれ、やっぱりお江戸のほうがいいよ。

出かせぎ人を村に帰そうとする「人返しの法」も出しました。

生活が苦しくなっている旗本や御家人たちのために、「棄捐令」を出しました。

五年前までの借金は、すべてなかったことになるのだそうだ。

これでもう、内職をしなくてすむぞ。

定信さまこそ、世直し大明神です。

棄捐令では、札差からずいぶんうらまれた。

江戸の町――

しかし、お上はうるさくてしようがない。

あれもだめ、これもだめっておふればかりだ。

わしたちをしめつけさえすれば、政治が良くなるってわけでもあるまい。

そうともよ。

ジャー

白河の清きに魚のすみかねてもとの濁りの田沼こひしき

という*狂歌を知っているかい？

知ってるよ、「白河」ってのは松平さまのことだろ。

*狂歌…しゃれやこっけいを主とした和歌。

その歌は、「松平さまのように きれいすぎる政治には ついていけない。 にごってはいても、田沼さまの時代がこいしい」という意味だよ。

ほんとに、田沼さまの時代がこいしいよな。

もううんざりだ。

一七八三年――

……。

この六年間、いろいろと政策を出してはみたが…。

思うように効果は上がらなかった…。

こうして、田沼政治の批判から出発し、吉宗の政治を理想とした松平定信の諸改革も失敗におわりました。その後、将軍家斉がみずから政治を行いましたが、幕府の財政はいっそう苦しくなり、危機の時代をむかえることになるのです。

小学館 eBooks

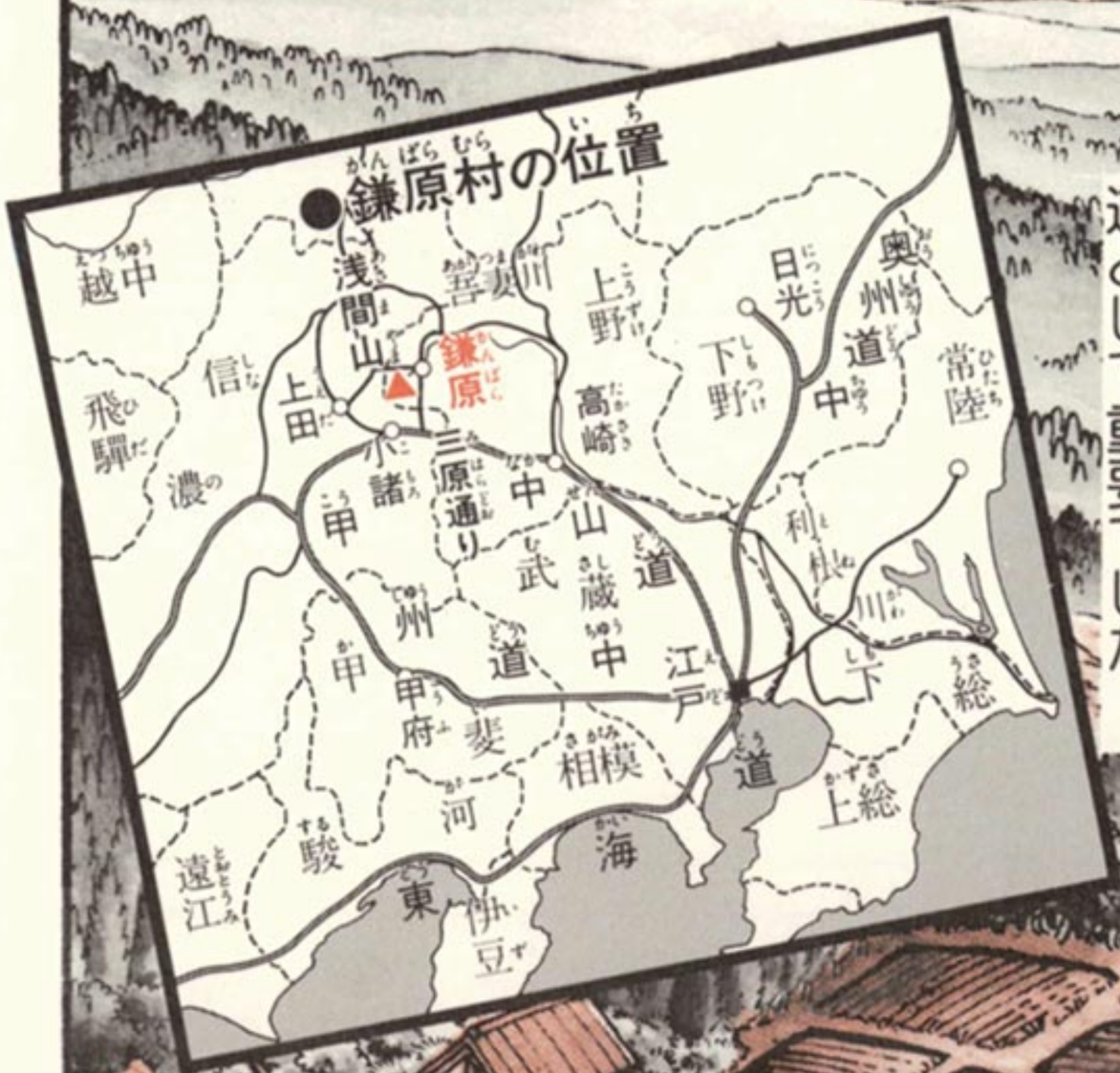
第三章

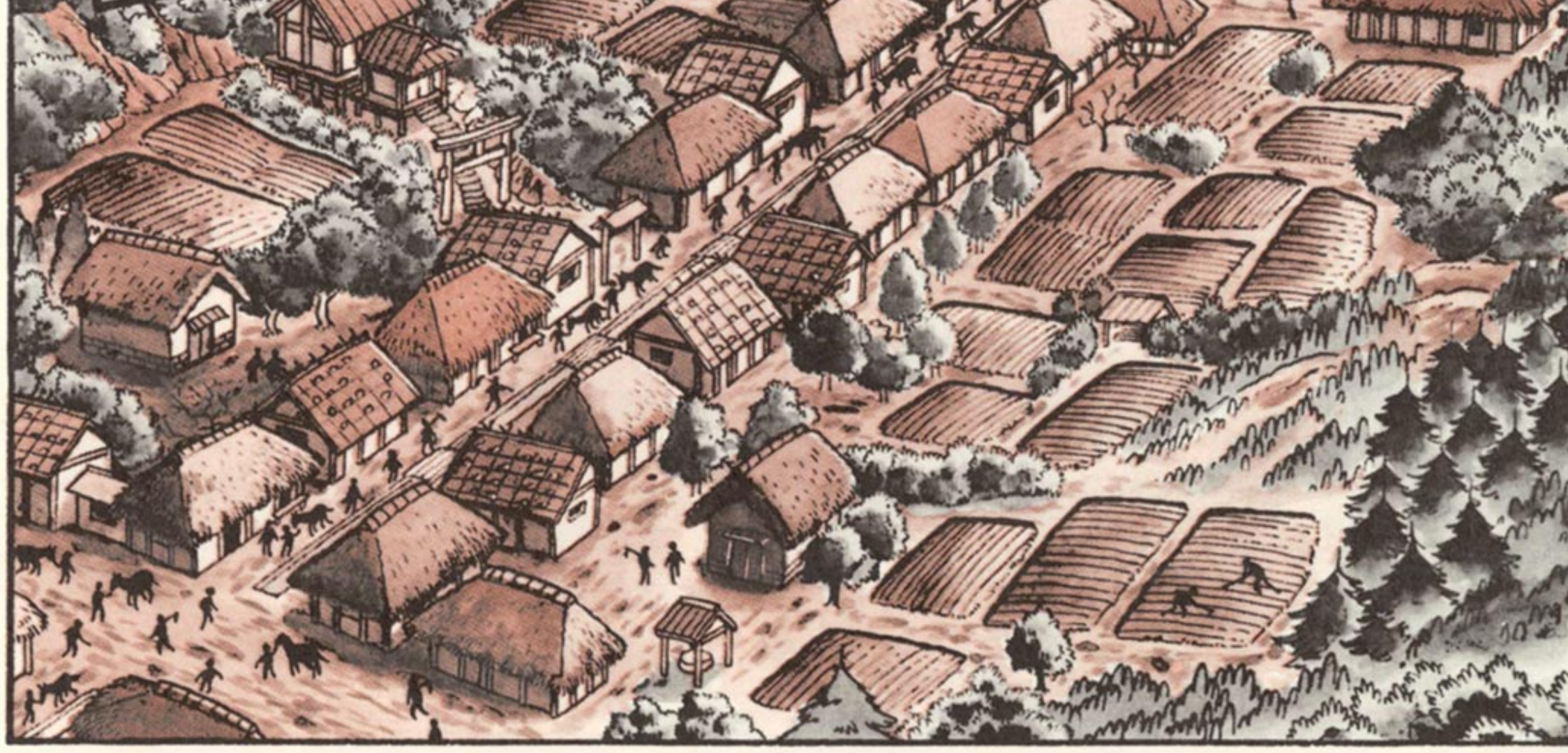
一揆とききん

——江戸時代中期——

一七八三年、*上野国鎌原村―

中山道のわき道で、浅間山の東側から鎌原村を通過する三原通りは、*信濃からの産物や諸国の荷物をはこぶ街道として重要でした。





*上野国鎌原村…群馬県吾妻郡嬬恋村鎌原

*信濃…長野県

*高崎…群馬県高崎市

*追分…長野県北佐久郡軽井沢町追分

*沓掛…長野県北佐久郡軽井沢町中軽井沢

*小諸…長野県小諸市

早く、爆発がおさまってくれればのう。

ほんとに。家の中にまで灰が…。

見はりはおれにまかせて、おめえは休んでな。

ゴロゴロゴロ

おや、あの音は…!?

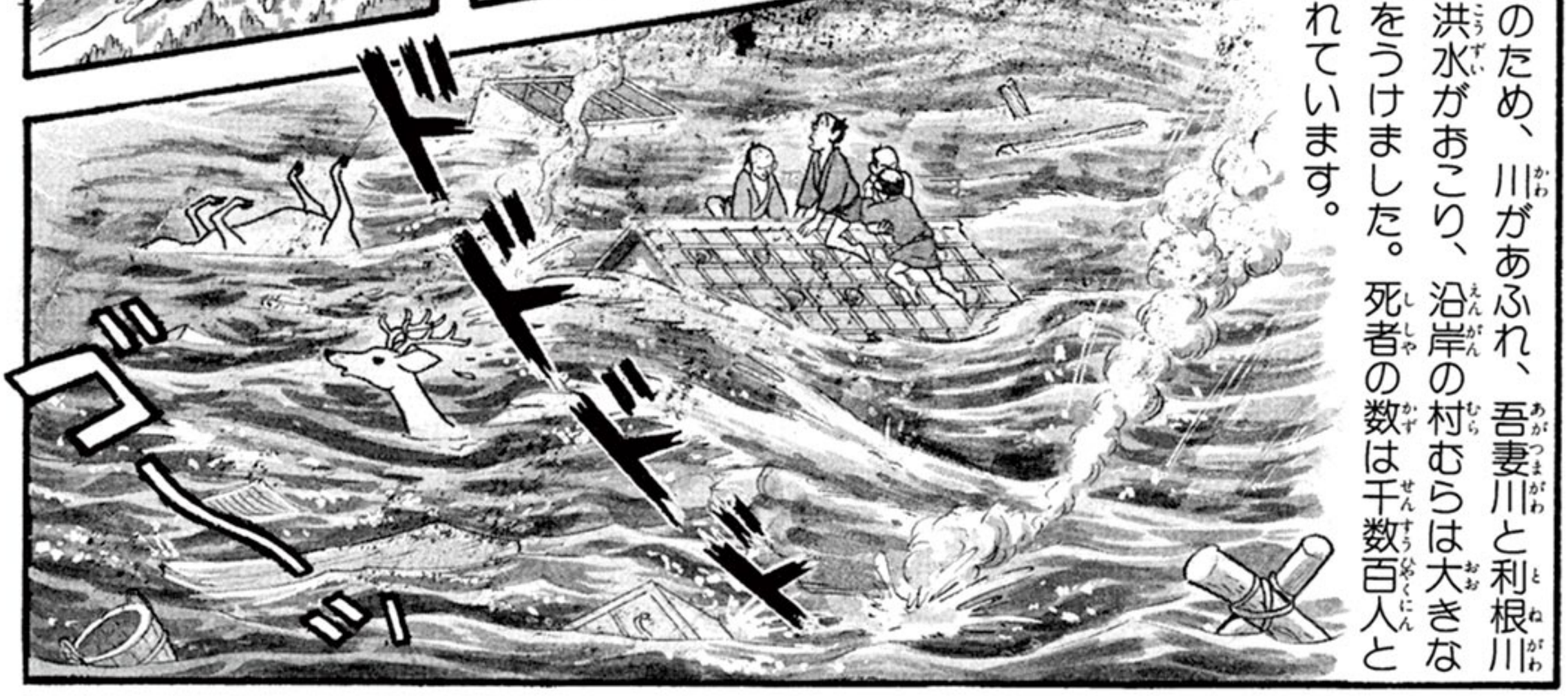
その日七月八日、浅間山は、最後の大噴火をおこしました。

ドドド

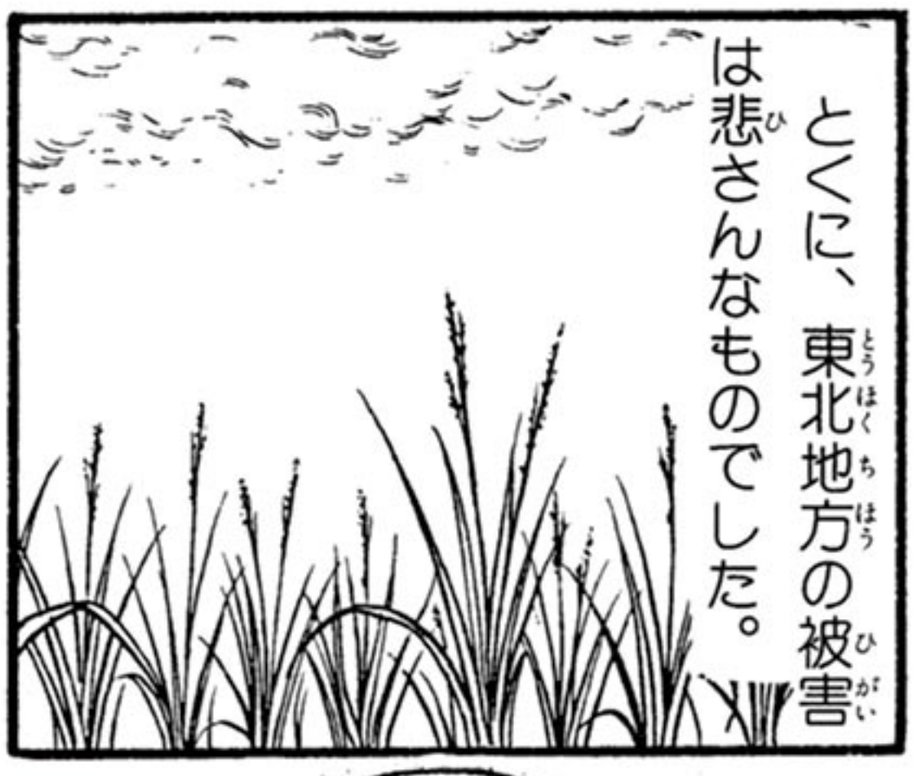
鎌原村の人口五九七人のうち四六六人と、一七〇頭以上の馬がぎせいとなりました。

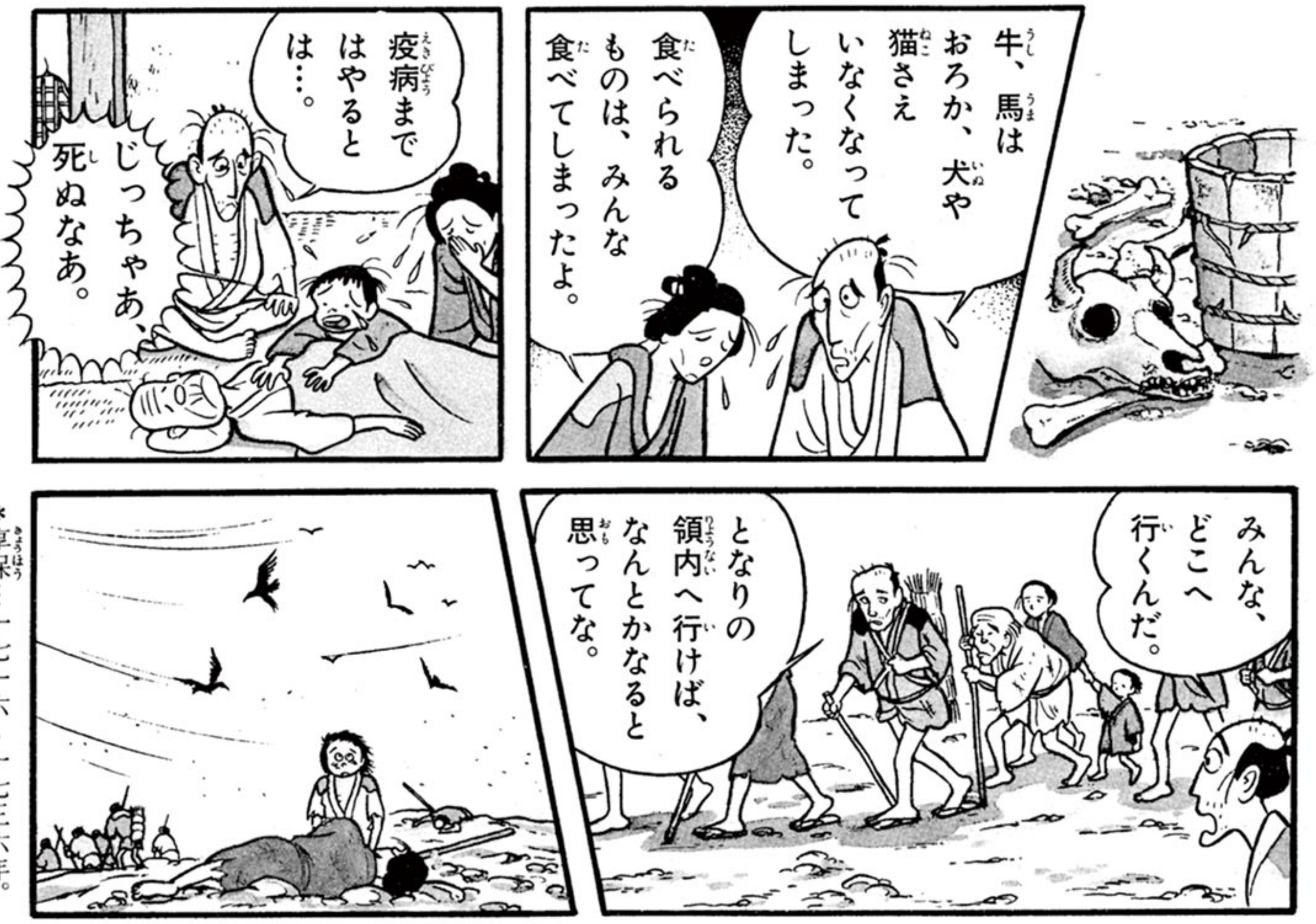
火砕流は、村の北にある吾妻川にながれこみました。

そのため、川があふれ、吾妻川と利根川で大洪水がおこり、沿岸の村むらは大きな被害をうけました。死者の数は千数百人といわれています。



その後、空中高く上がった浅間山の火山灰は、太陽光線をさえぎって天候不順をよび、作物の成長をさまたげ、何年間にもわたって全国的な凶作がつづくことになりました。





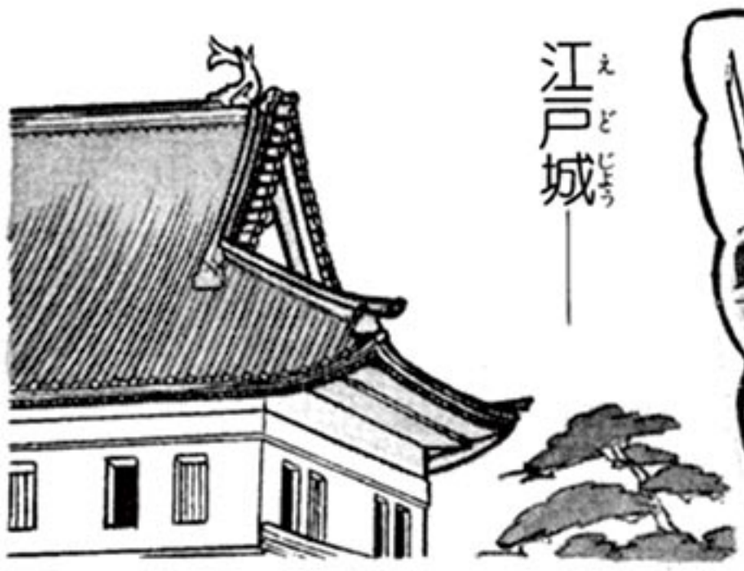
*享保…一七一六～一七三六年。

*天保…一八三〇～一八四四年。

この「天明の大飢饉」は、*享保や、*天保の時代のききんとともに、「江戸時代の三大飢饉」とよばれます。東北地方だけでも、数十万の人がうえ死にしたといわれています。

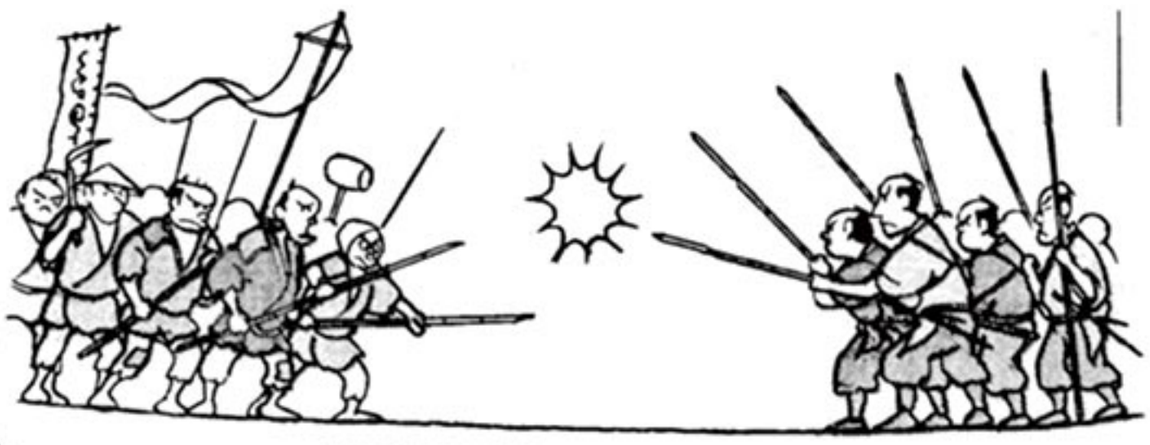
生活苦に追われた農民は、東北、関東地方をはじめ、全国各地で一揆をおこしました。

たとえば、*津軽領内の各地においても——



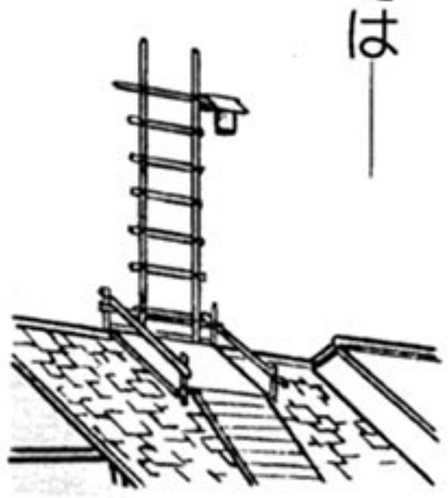
江戸城——

浅間山に近い中山道ぞいの村むらにおいても——



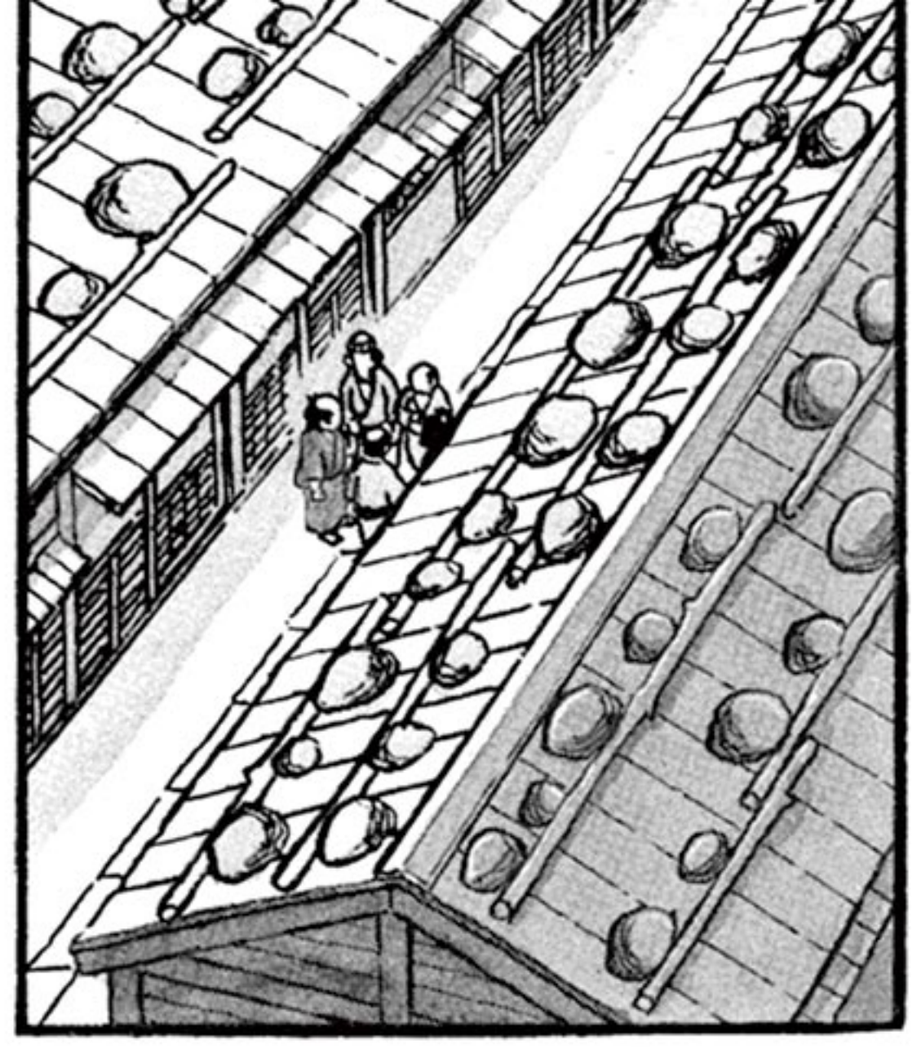
また、*備後国福山においても——

関東では、村をすてて、江戸へ出かせぎに行く農民が少なくありませんでした。

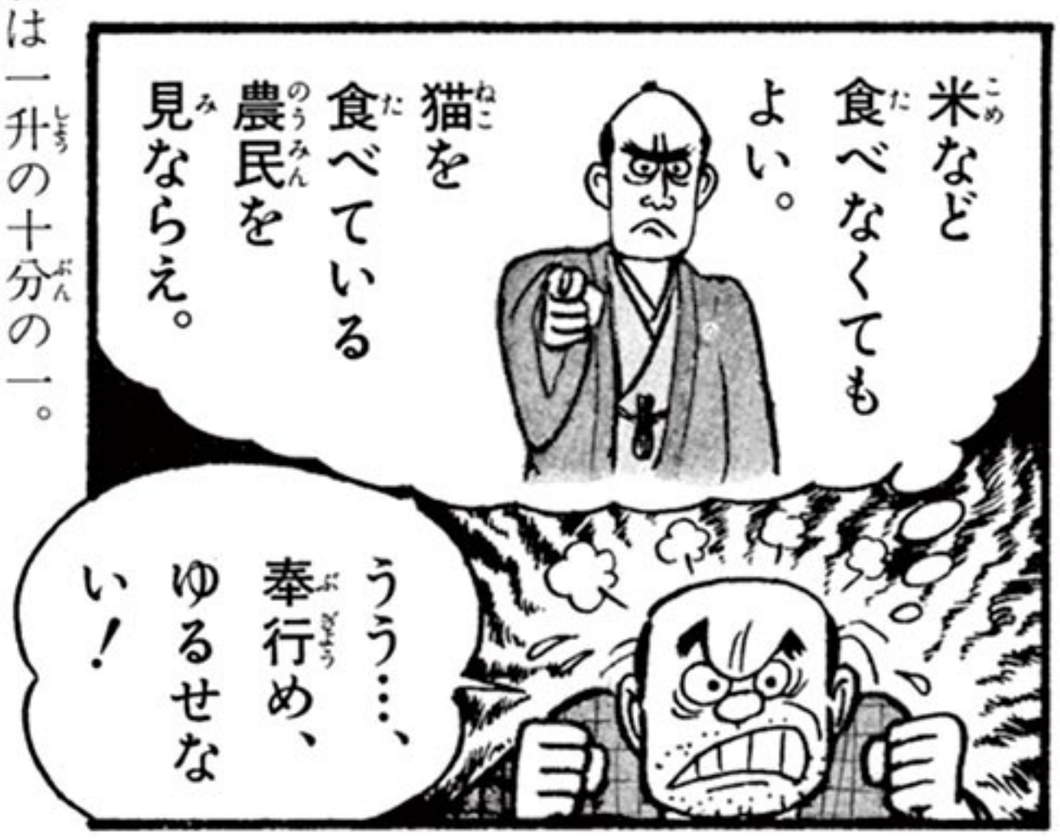


江戸の町では——

*津軽…青森県の西部　*備後国福山…広島県福山市　*田沼意次…第二章参照。



*三合…約〇・五四リットル。一合は一升の十分の一。



*赤坂、青山…東京都港区

こうして、江戸のあちこちで連日はげしい打ちこわしがおこりました。

参加した人たちの行動は、ひじょうに統制がとれていて、打ちこわした店のものをぬすむことなどけっしてしませんでした。

このとき、打ちこわしにあったのは、米屋が千軒近く、その他の商店が八千軒あまりでした。打ちこわしは、五日間もつづいてようやくしずまりました。

ここで、この当時の農民一揆について見てみよう。

これからしようかいするのは、「上田騒動」とよばれる有名な事件なんじゃよ。

浅間山の爆発より、二十年ほど前のことですね。

一七六一年、*信濃国上田領――

浦野組*夫神村――

*信濃国上田…長野県上田市

*夫神村…長野県小県郡青木村夫神

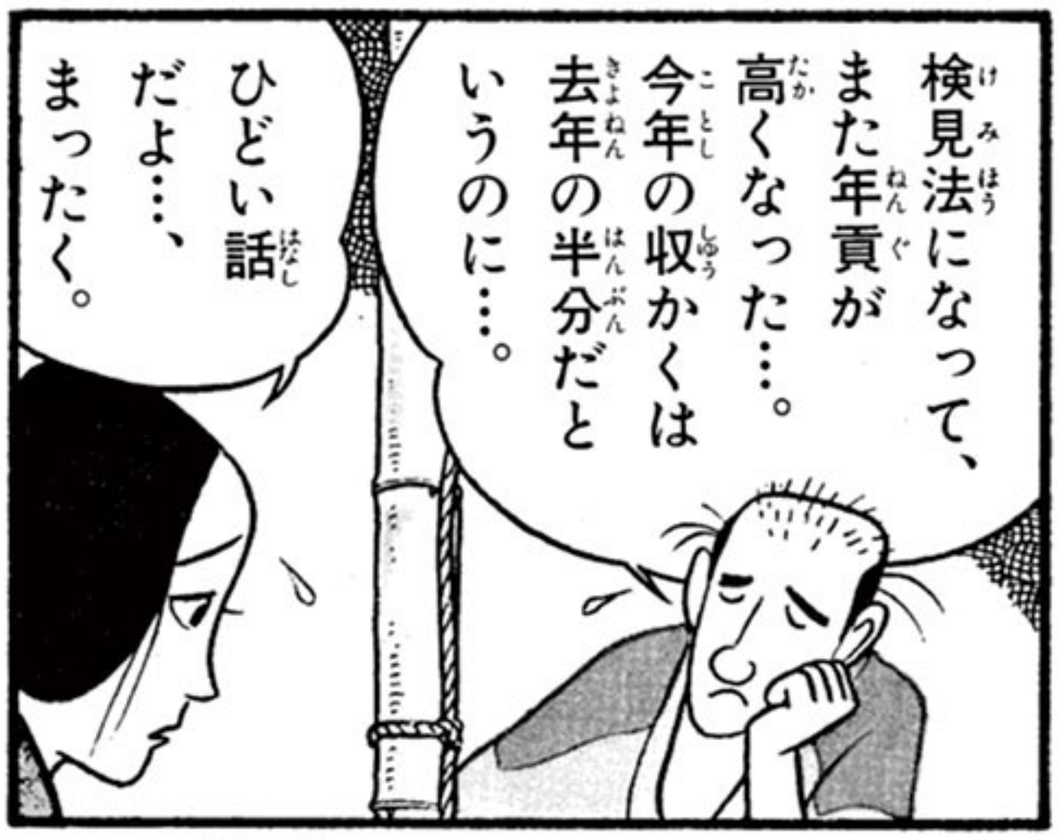
＊入奈良本…長野県小県郡青木村奈良本

＊郡奉行…領内の村むらをとりしまる役人。

＊庄屋…村をおさめる農民。名主ともいう。

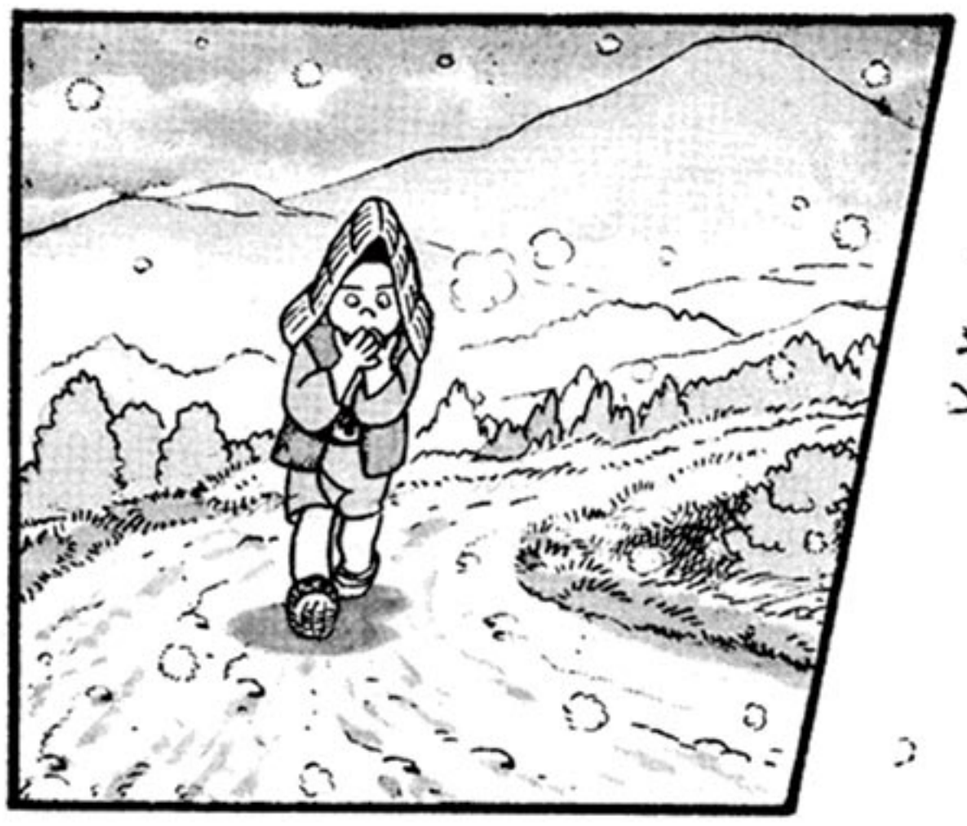
入奈良本村――

おっかあ、おかわりだめかい。
もっと食べたい。
ごめんよ。今年は節約しなければいけないんだよ。


検見法になって、また年貢が高くなった…。今年の収かくは去年の半分だというのに…。
ひどい話だよ…、まったく。

年貢のほかにも、わしたちにがまんできないことが、たくさんあるぞ…。
……。
このままだと、わたしたちみんなひぼしだよ。

さてと、ちょいと庄屋さんのところへ行ってくる。
また、寄合かい？

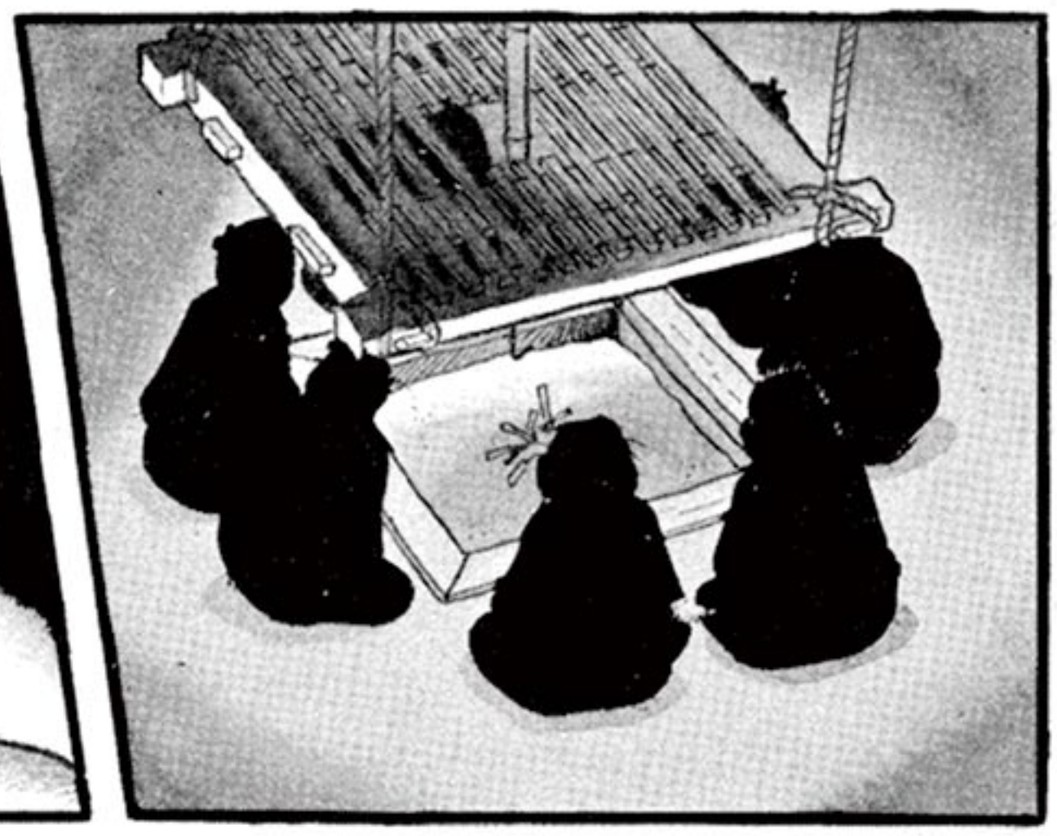


姉ちゃん、遊びに来たよ。
寒かったろ、お入り。

勇吉、いもを食え。
うん、ありがとう。

よお、半平じい。
おう、浅之丞か。何だい。
ヒソヒソ
フムフム
じゃあ、今夜。
たのむぜ。
おじい、寄合のことなんだろう。
ビクッ
うっ…。
何を相談しているんだい？
子どもは知らなくていいのよ。
…勇吉…、おめえも十一歳、かしこそうだ。……よし、教えてやろう。
ええっ、騒動!!
しっ、声が大きいよ。
ふふ。
まあ聞け、……あれはわしが十七歳のときだった。今から四十年も昔のことよ…。
そのころも、ご領内の農民は年貢に苦しめられてな…。
年
貢
この土地は、検地をおゆるしください。
ここだけは、昔からお年貢がめんぜられているのでございます。
うるさい！
ビシッ
ヒッ！

そのとき、となりの*中挟村の新七という者が…。
あ、あまりにもひどい。
うわあ。
もちろん、新七どんは死罪をもうしわたされた…。
*中挟村…長野県小県郡青木村中挟
新七どん……。
わしには、勇気のあったあの新七どんの最期が、今も目にやきついている。
新七どんは、村のためにぎせいになったのか…。
勇吉、よく聞け。わしらの村には、お上の悪政にたいして立ちあがるという伝統があるんじゃ。
今度の騒動では浅之丞と…、ふふ…わしが中心になっているんじゃ。
いいか勇吉、わしらの戦いぶりを、その目でしっかりと見とどけてもらいたい。
うん。
おじい、よくわかった。



*田沢村…長野県小県郡青木村田沢

*当郷村…青木村当郷

*村松郷…青木村村松

*川西…千曲川の西側の村。

十二月十一日の夜――

そろそろ、出かけるか。

おとう！気をつけてな。

なに、すぐ帰ってくるさ。

じゃあな。

藤兵衛か。

うむ。いよいよだな。

ビタ

ビタ

おお、あれは入奈良本の連中だぞ。

がんばろうぜ。

やあ、夫神のみんな！

*諏訪部…長野県上田市常磐城

*塩田村…長野県上田市塩田

*舞田…上田市舞田

*福田…上田市福田

*別所…上田市別所

ワーワーワー

朝になったら、城へおしかけるぞ！

ワー

ワー

ワー

お城の大手門へすすめえ。
ワーワーワー
＊大手門…城の正門。
帰れ帰れ!!
もどらぬか！
わしらのねがいをうったえるのだ!!
ワーワーワー

じゃまだぞ！

役人どもはどけどけ！

引っこめ。

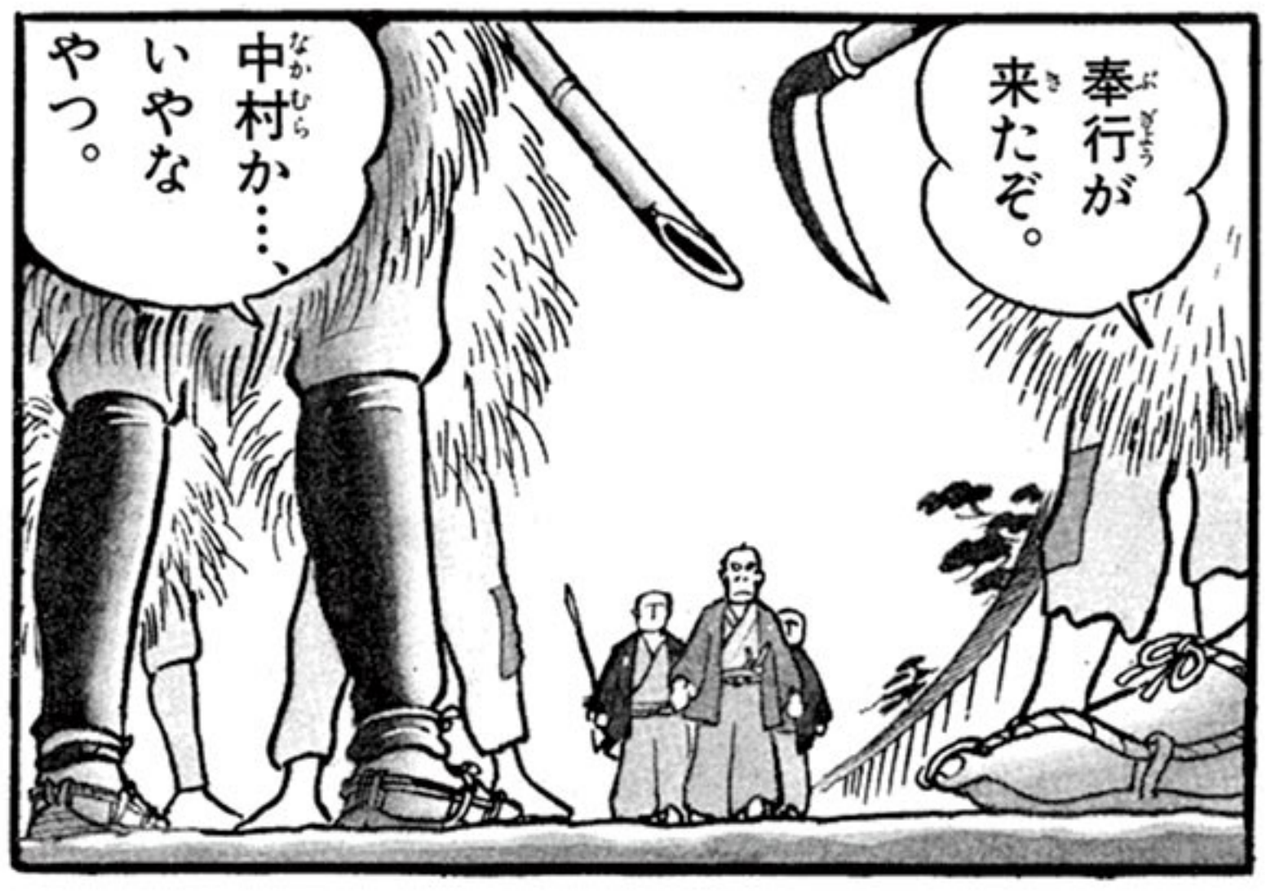
どんどんすすめ！

うわあ。

ひ、引けえ!!

それっ、今までのうらみをはらすぞ!!

われわれのうったえを聞いてくれ。
責任ある者を出せ。


奉行が来たぞ。
中村か…、いやなやつ。

しずまれ!!
そちたちのいい分は、わたしが聞こう。

へぼ奉行、引っこめ!
引っこめ引っこめ。
おまえじゃ、だめなんだ。

くそっ、ぶれいもの!!

おもしろい。つくならついてみろ。
さあ、やってみろ。
うっ…。

スス
ゴゴ
わあい、ざまあみろ!
とっととにげろ!

ワーワーウォーワー
何だ?
*川東の村の衆だ!

ワワワワー
すごい!ざっと見ても一万三千はいるぞ。

*川東…千曲川の東側の村。

ワーワー

いくさの準備だ。
オロ
農民ども、これ以上あばれたらようしゃはせぬ。
オロ
しかし、あの人数では歯がたちそうもない。
オロ

ご家老、いかがいたしましょう。
うむ…。
城代家老 岡部九郎兵衛

もはや夕刻、なんとかせねばならぬ……。
あいにくと、殿は江戸表にご出府中…。

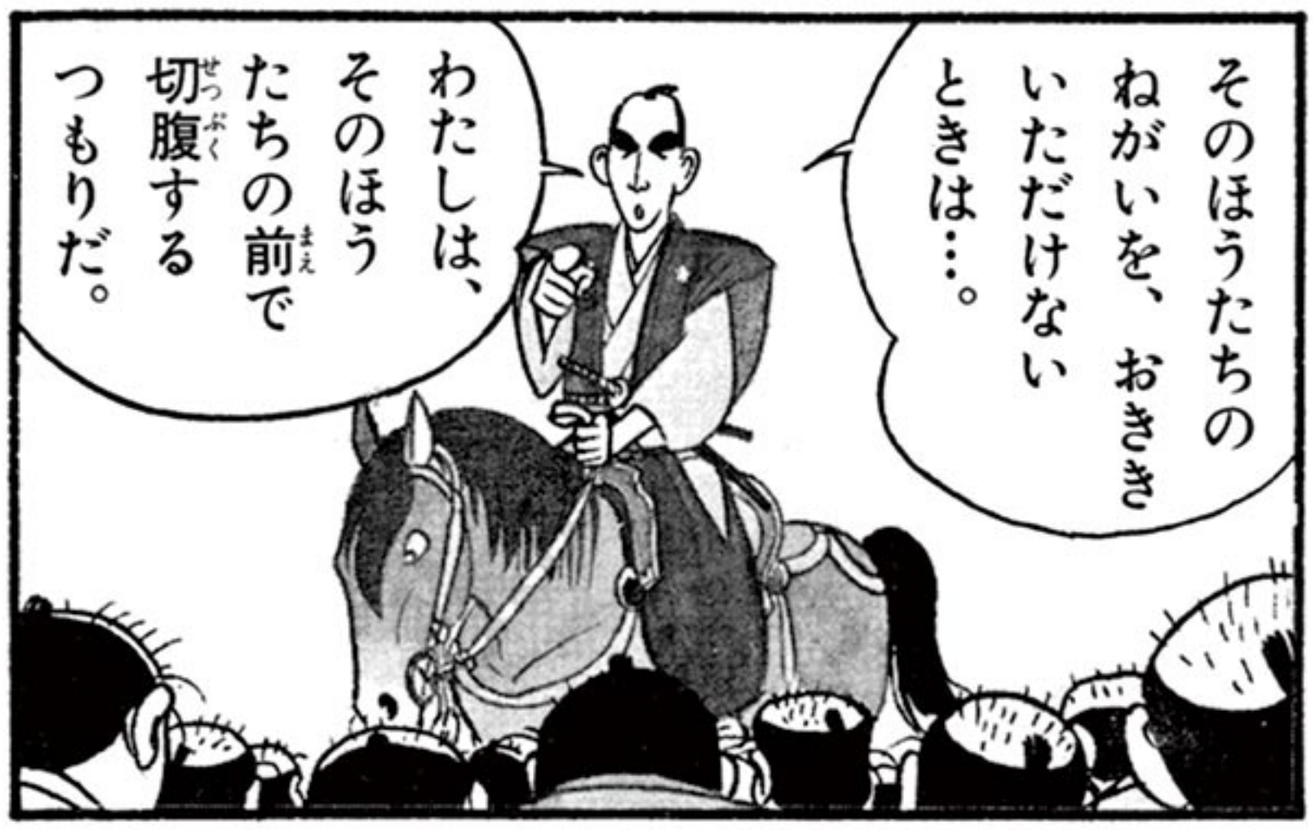
わたしが農民たちに会おう。

ザワ
ザワ
おお、ご家老さまだ。

おまえたちのねがいをもうしてみよ。
はい、お聞きくだせえ。

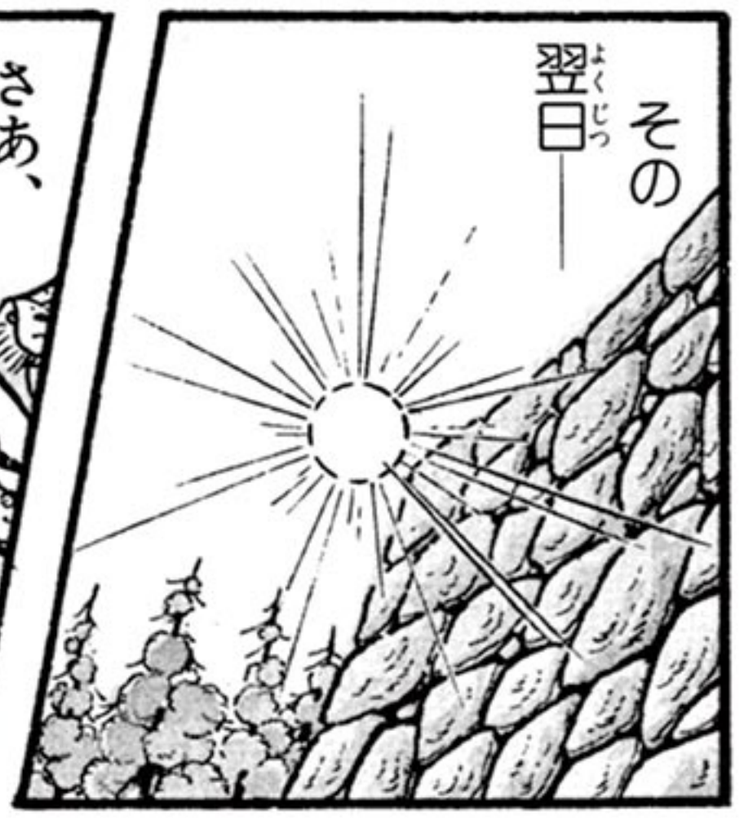
まず第一に、年貢を軽くしていただきとうございます。
家中のおかたがわしらを人足につかうのを、やめてください。
それに、検見のお役人の不正をとりしまってください。
まだまだあります。
うむ、うむ…。

ねがいごと、よくわかった。
わたしは…、これからすぐ江戸へ行き、殿にお会いしてくる。

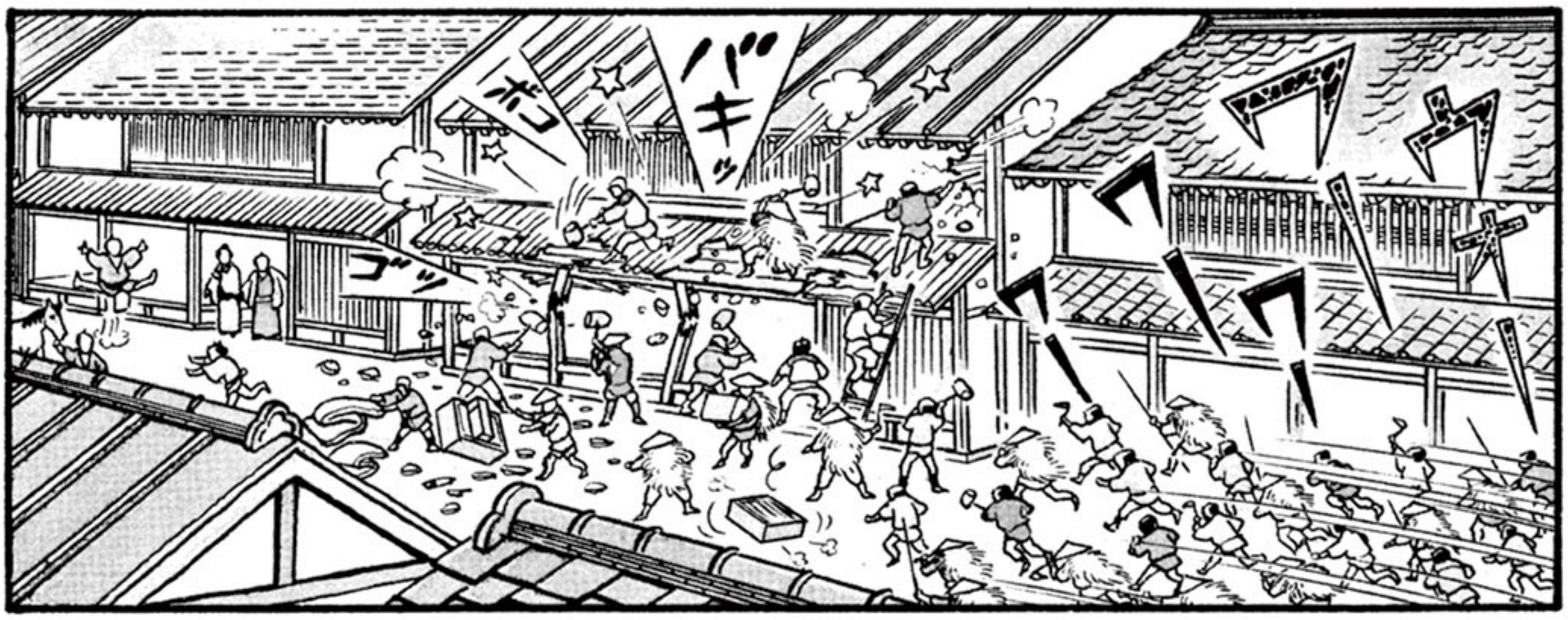

そのほうたちのねがいを、おききいただけないときは…。
わたしは、そのほうたちの前で切腹するつもりだ。

わたしがもどるまで、まってもらいたい。よいな。
わかりました。

ありがとうございます。
よろしくおねがいします。


その翌日――

さあ、村へ帰ろう。
まだ、やることがあるぞ！
打ちこわしだ！
町へくり出して、強欲な商人をやっつけよう。


ボコ
バキッ
ゴッ

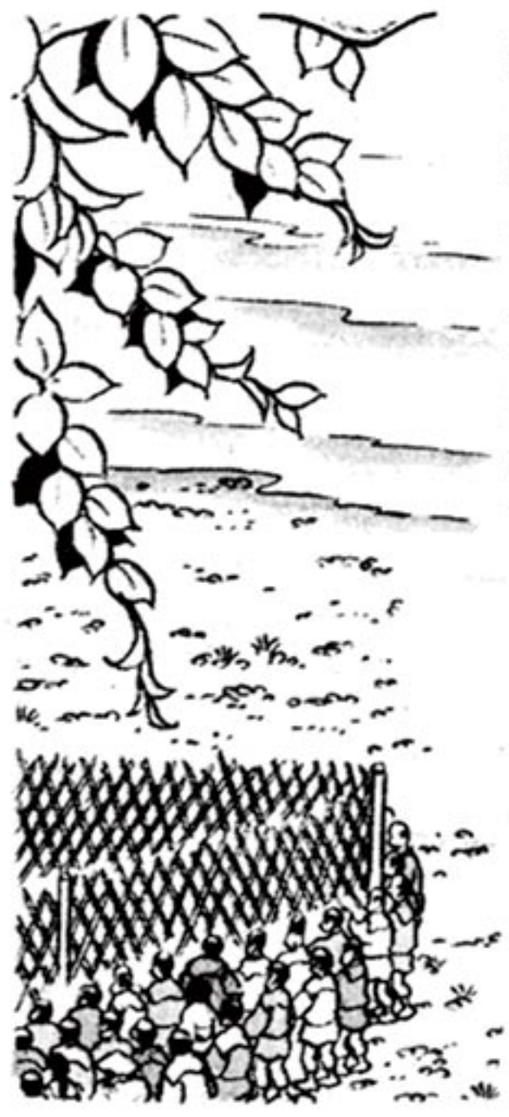
*あこぎ…よくばりで、やり方がひどいこと。*小牧村…上田市小牧　*下肥…人のふん尿を肥料としたもの。

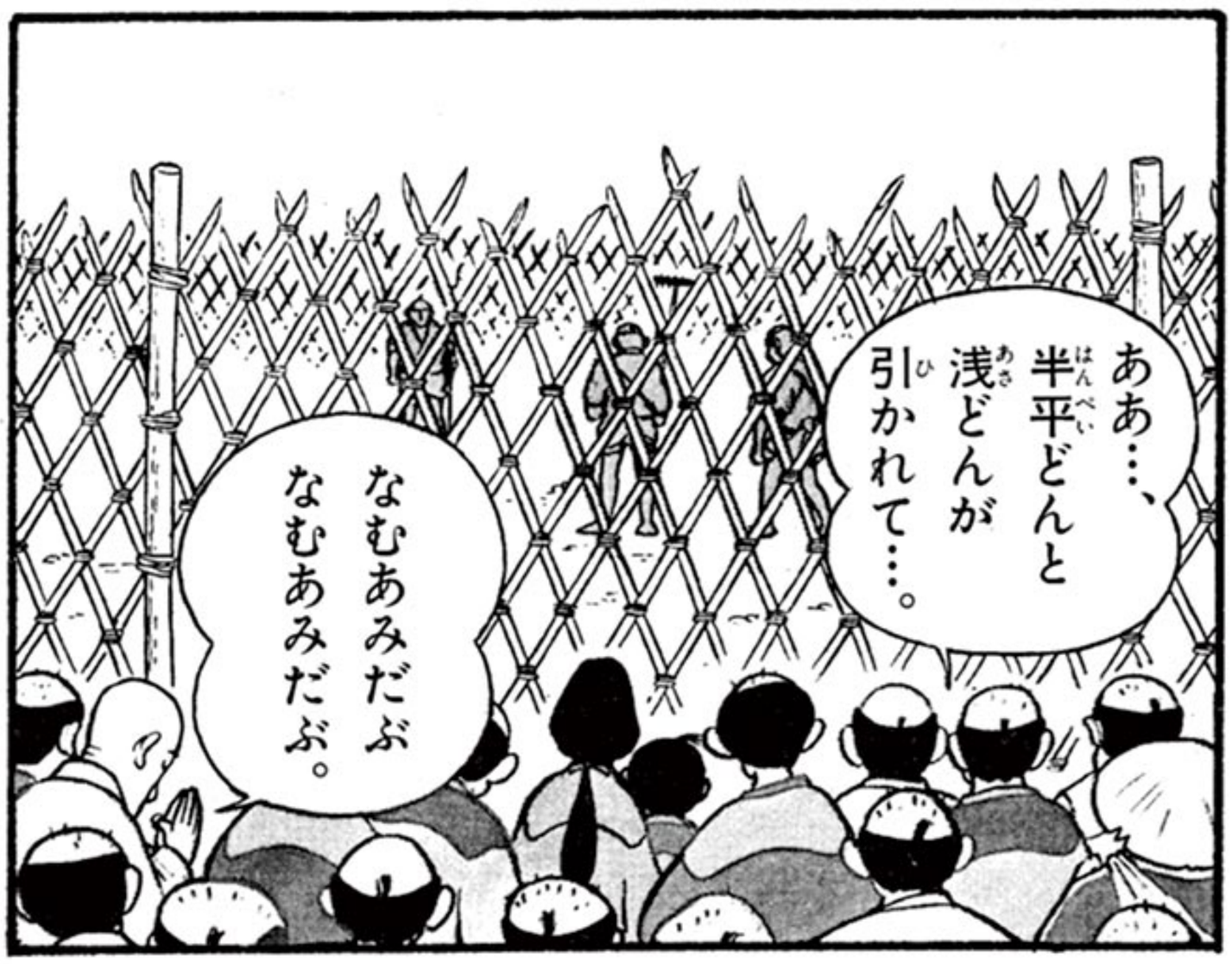
*公儀…ここでは幕府のこと。

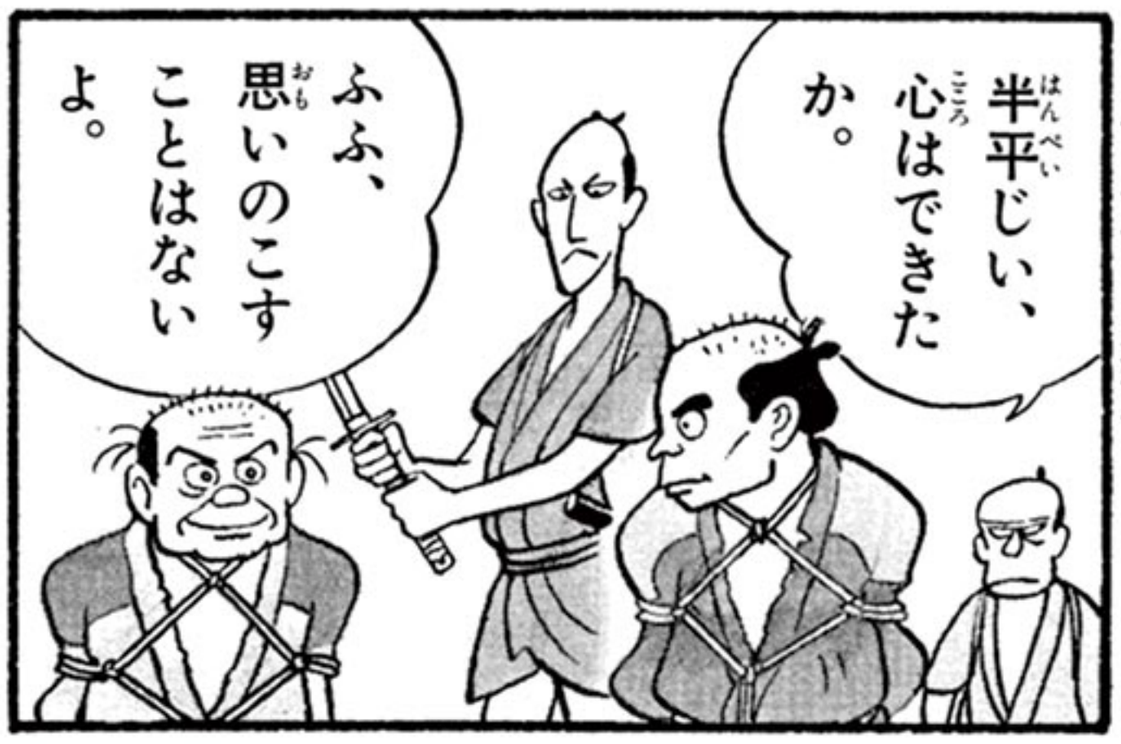
こうして、半平たちは役人の追及をうけることになりますが、ねがいのほとんどがききとどけられたのですから、一揆は成功したわけです。

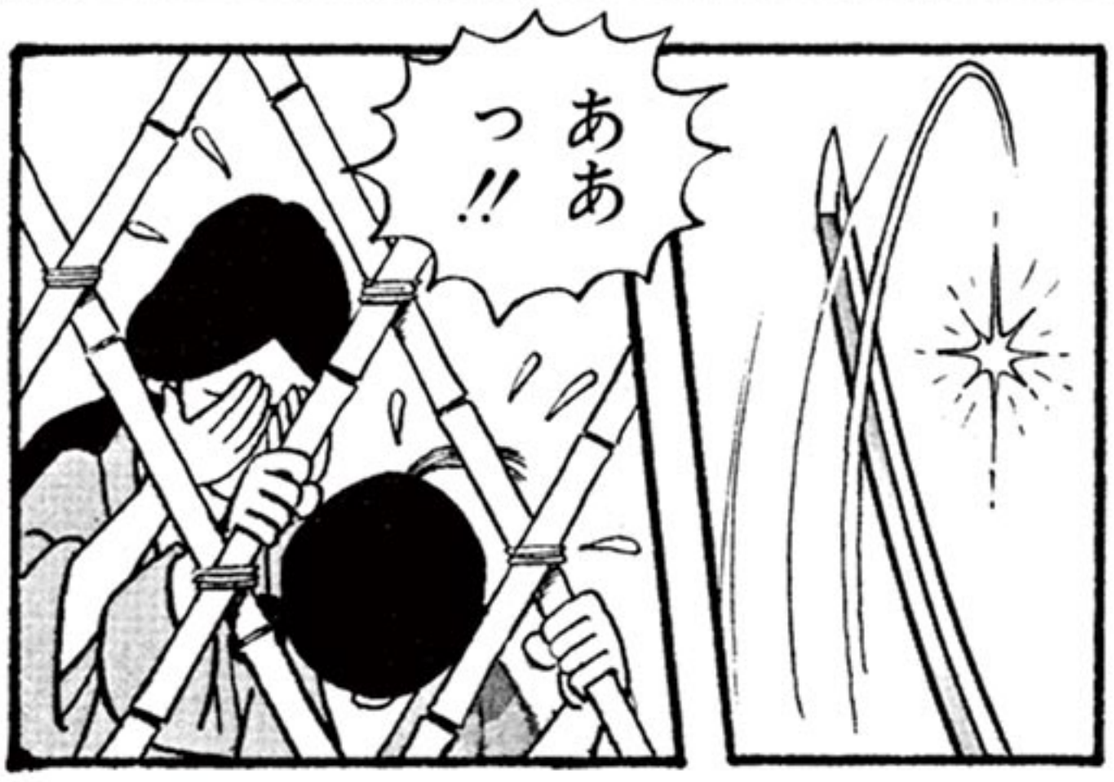
半平どん。お役人がやってきたぞ！
ガラッ
うむ、かくごはできている。
あんたは、庄屋さんにそそのかされただけじゃ。
そうよ、おとうは主謀者じゃないわ。
ばか、何をいうか。わしが中心になったのじゃ。

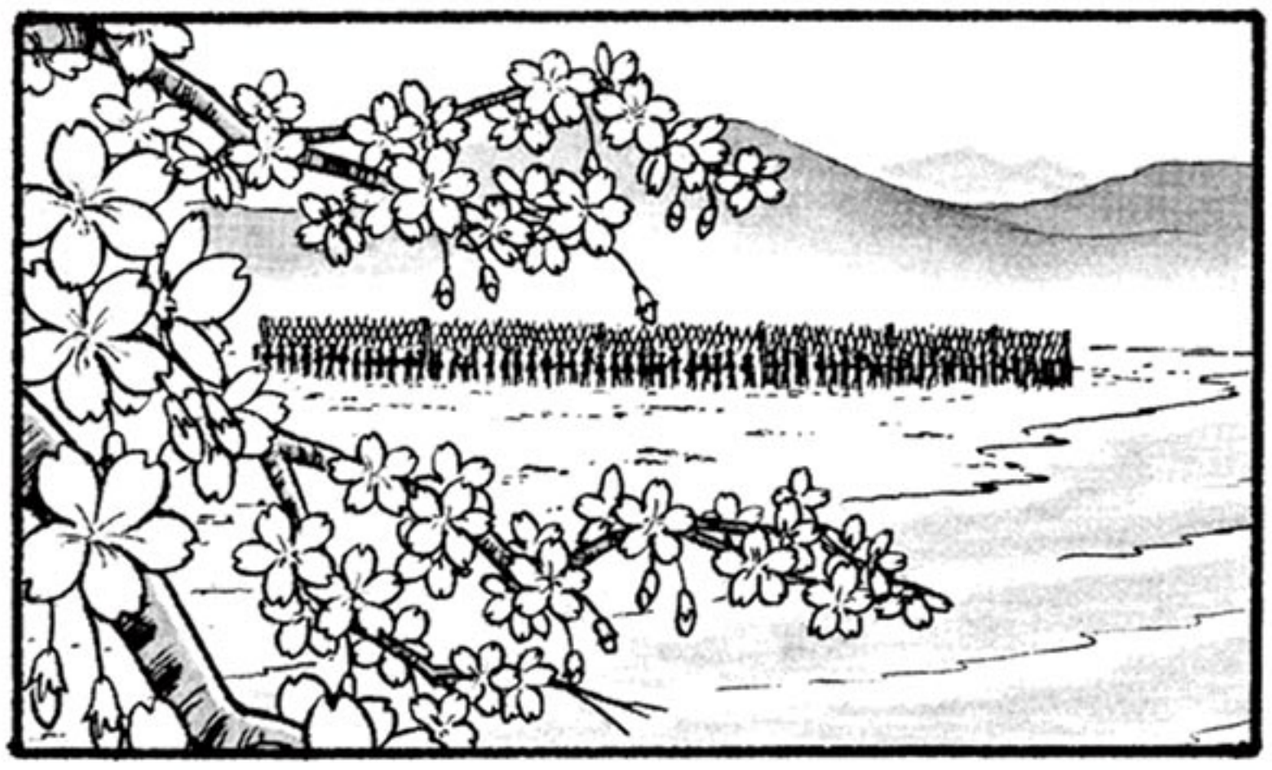
一年後の三月、きびしいとりしらべの結果、多くの者が罪をとわれて、半平と浅之丞は死罪、太郎兵衛*は永牢となりました。











*永牢…江戸時代の刑罰の一つで、一生牢に監禁すること。

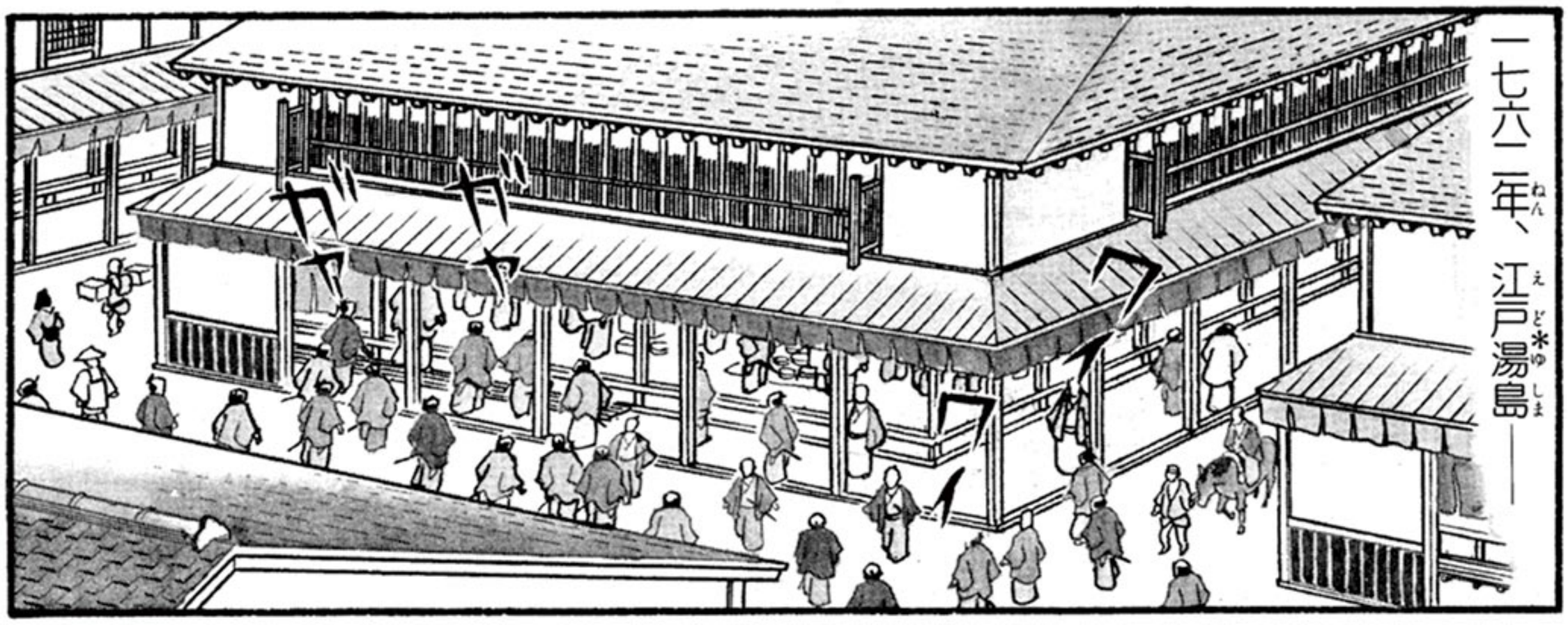
半平のように、人びとにかわってぎせいとなった「義民」の話は語りつがれていき、民衆は領主や役人の悪政にたいして勇かんにたちむかいました。事実、約五十年後、上田領でまたもや一揆が生じました。その指導者は、入奈良本村の勇吉という老人でした。それがこの物語の勇吉少年であったかどうかはご想像におまかせしましょう。

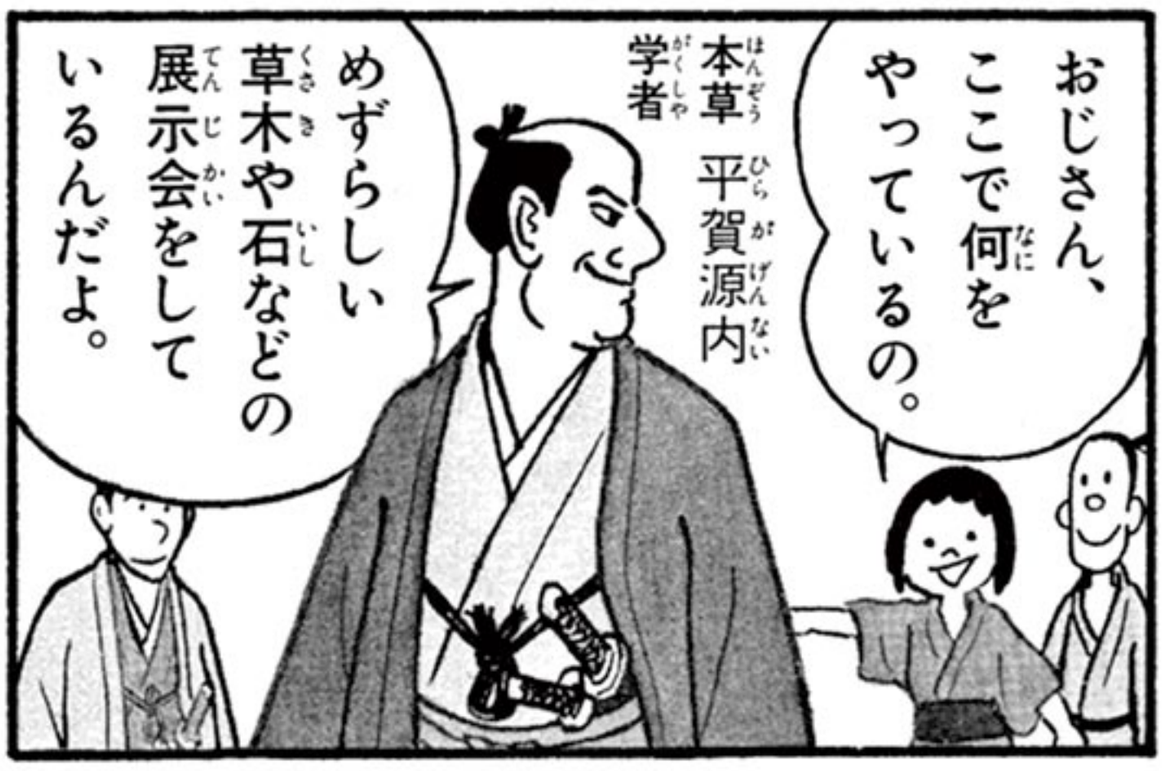
小学館 eBooks

第四章

蘭学と国学

——江戸時代中期——





*湯島…東京都文京区湯島

*本草学…薬用となるもの（おもに植物）を研究する学問。

*酒井家…若狭国小浜（福井県小浜市）の領主。

*薬品会…薬用となる物産の展示会。

ほう、これはめずらしい草だ。

*駿河でとれたものですな。

オランダ渡来の香水もあるぞ。

ガヤ

ガヤ

はて、この石ころは何だろう。

血止めにきくそうですよ。

酒井家の医師杉田玄白

やあ。

オランダ外科医の杉田さんです。

あなたが、有名な本草学者の源内さん…。

ご出品ありがとうございます。

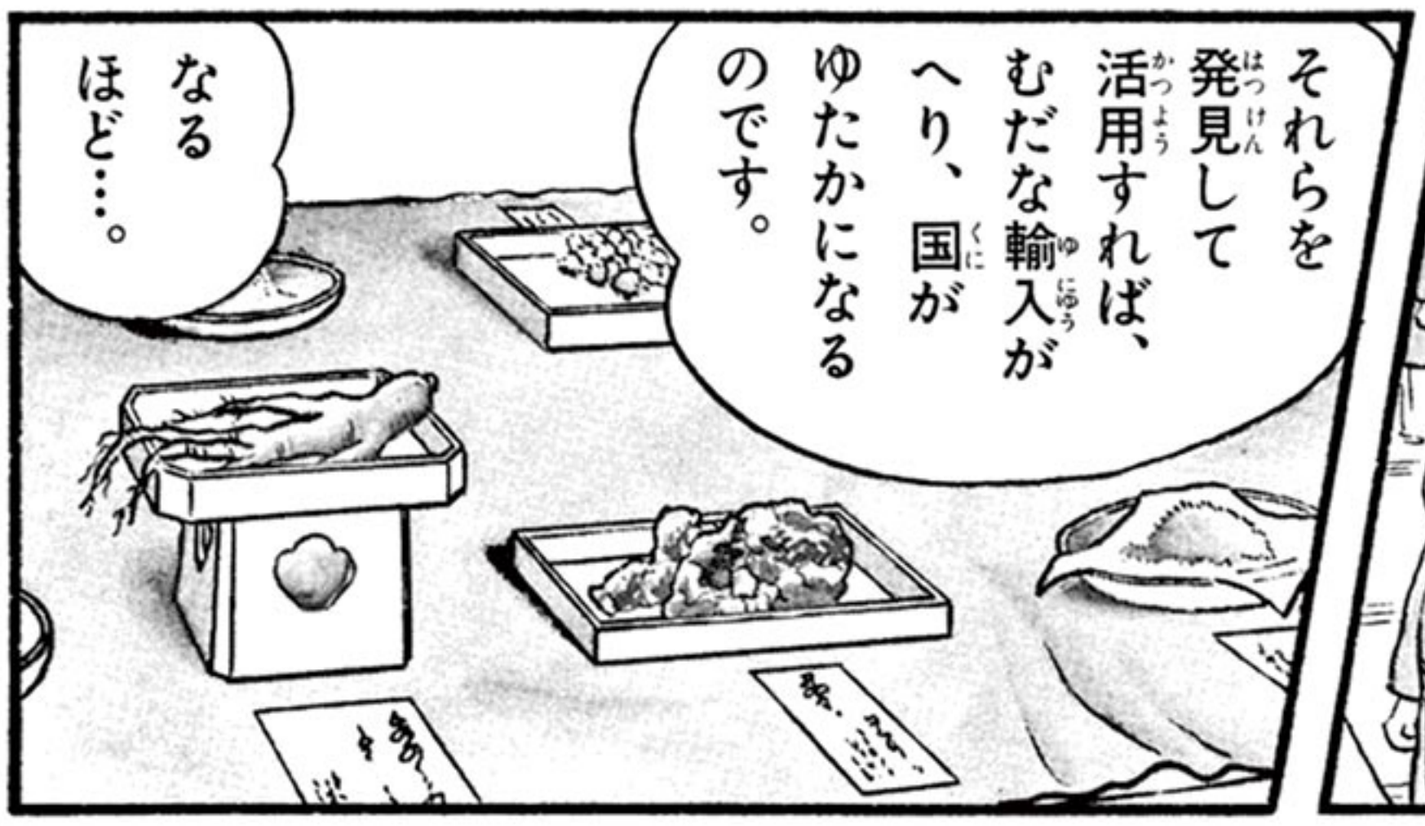
いや、こちらこそ勉強になりました。

これまで、医薬はほとんど*清から買っていましたが、日本で原料がとれるものもあるのですね。

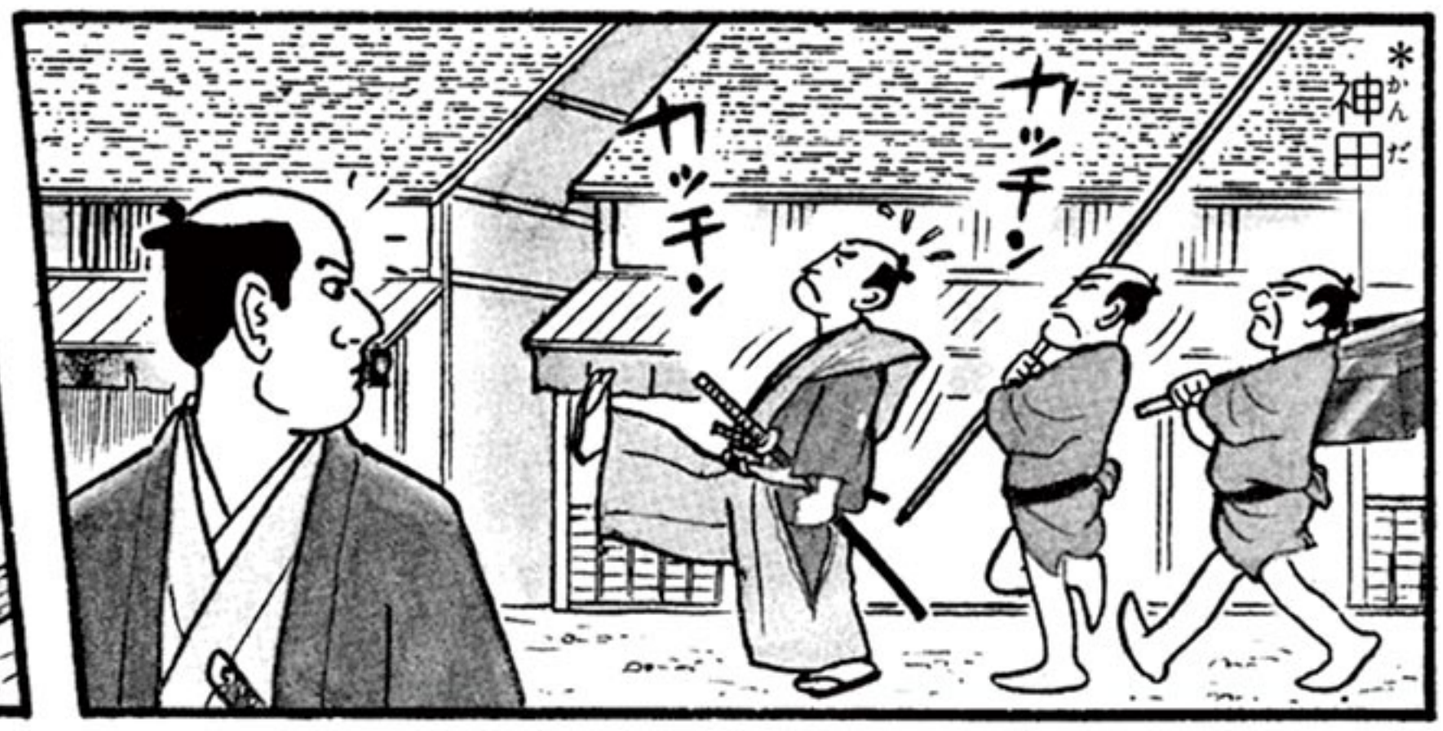
そう。それに、チョウセンニンジンのように、日本でさいばいできる薬草もあります。

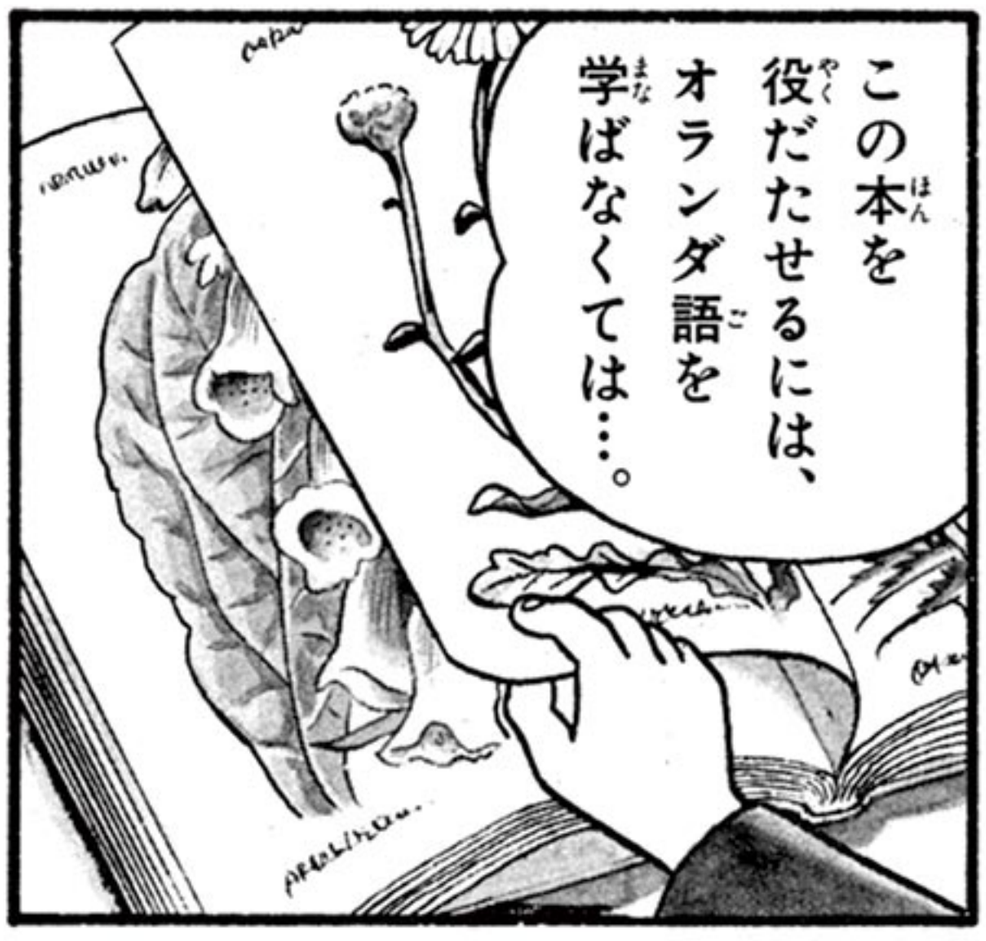
この会は、各地の産物を知るための会なんですよ。

*駿河…静岡県の中部　*清…一六一六年から一九一一年までつづいた中国の国家。

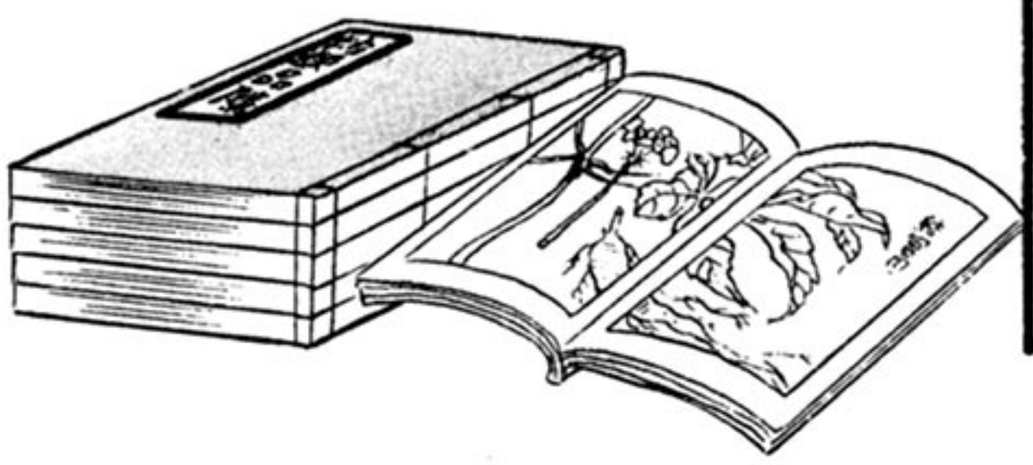


*カピタン…長崎のオランダ商館長。毎年春、将軍に新任のあいさつをするため、江戸に来ていた。*蘭書…オランダ語の書物。

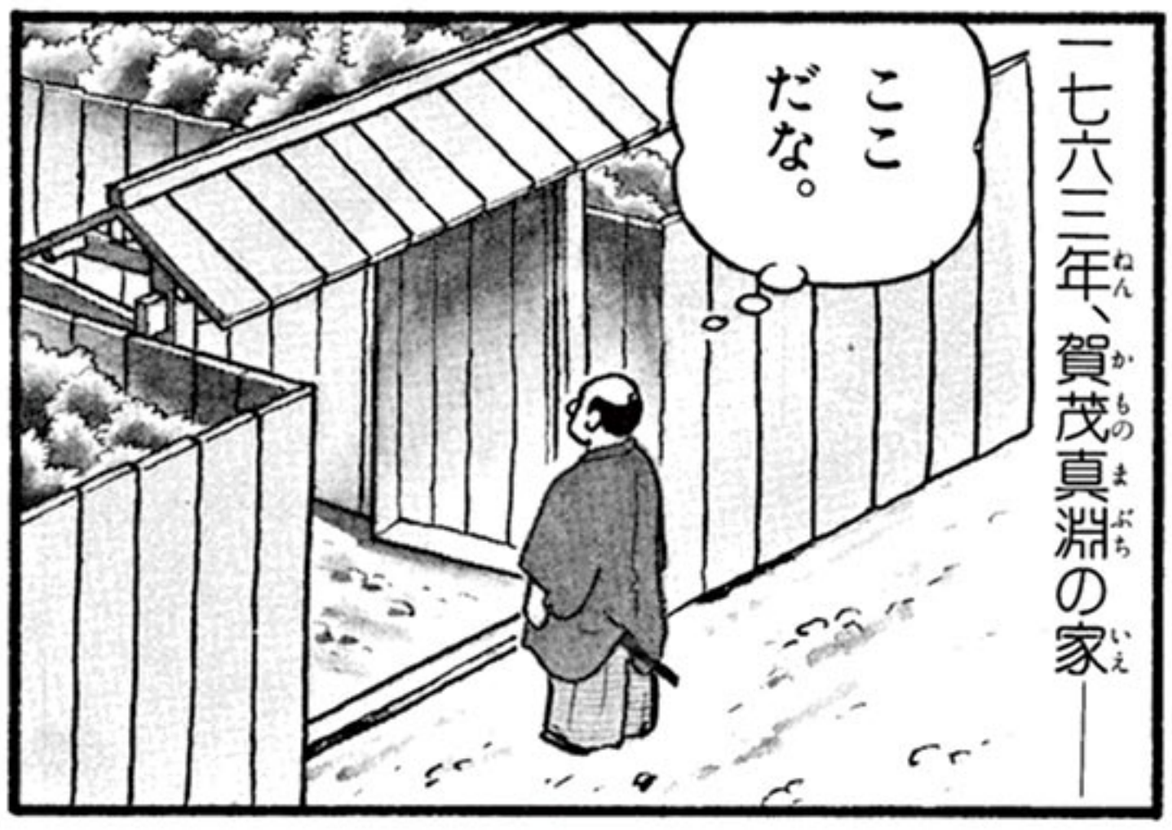




その翌年、平賀源内の著書「物類品隲」が出版されました。これは、一種の*博物学の図鑑でした。



*神田…東京都千代田区　*紅毛花譜…オランダの植物図鑑。*博物学…動植物、鉱物などを研究し、しょうかいする学問。



*国学…古い時代の文学をもとに、日本人の精神を研究する学問。

*万葉集…七世紀後半から八世紀のなかばまでの歌をおさめた、日本最古の歌集。

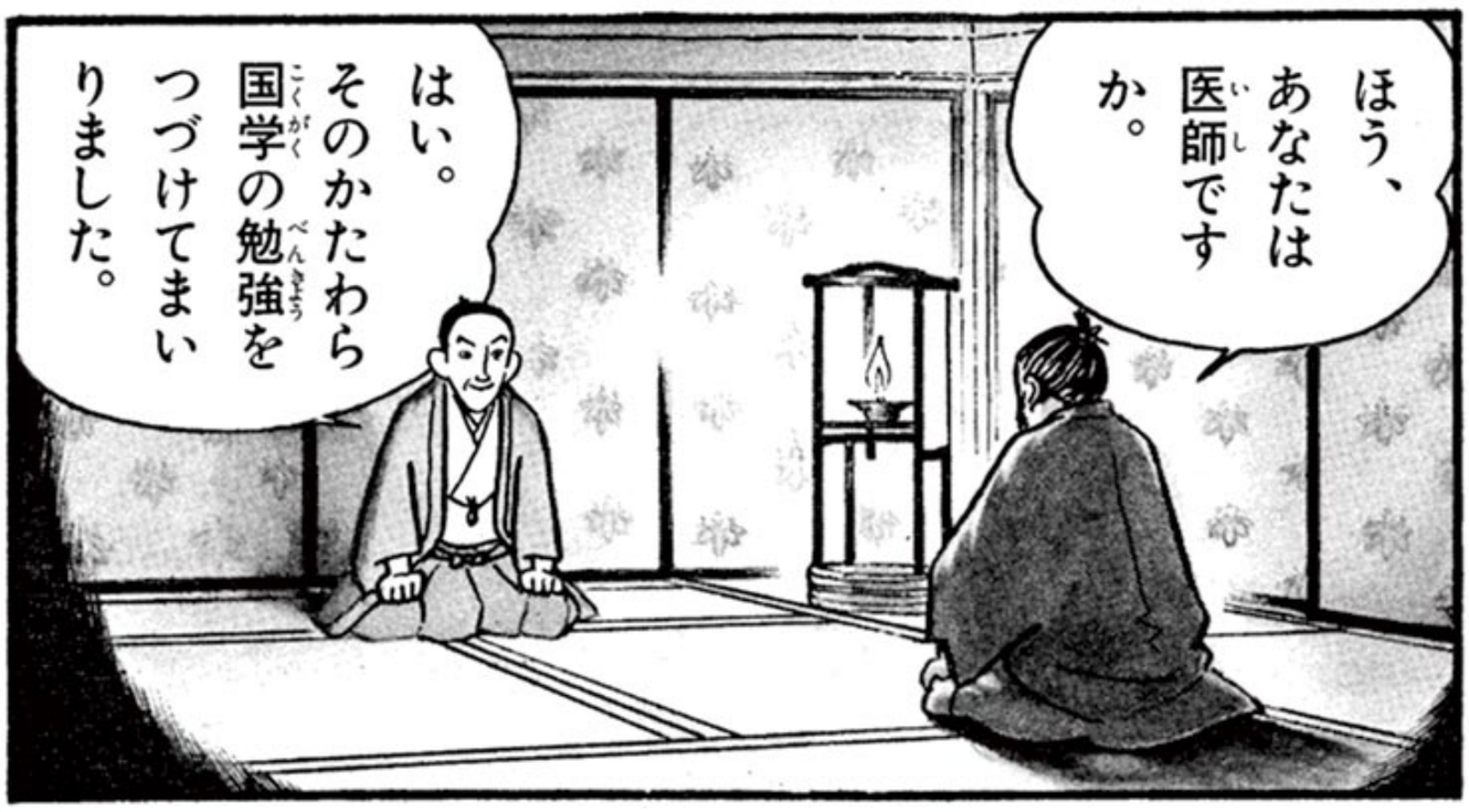
*会読…書物を読みあい、勉強すること。

*月草…ツユクサの古いよび名。

*大和…奈良県

*伊勢国松坂…三重県松阪市

*伊勢神宮…三重県伊勢市にある神宮。



*契沖（一六四〇～一七〇一）…国学者。「万葉集」などの研究者。

*荷田春満（一六六九～一七三六）…国学者。「万葉集」、「古事記」などの研究者。

*古事記…七一二年に成立した日本最古の歴史書。

一つ、質問をしてよろしいでしょうか。
何なりと。

ずいぶん夜もふけたようですな。
おつかれのところ、すみません。

いや、あなたの情熱はすばらしい。旅のつかれもわすれましたよ。

チチッ

道中ご無事で。
あなたもお元気でな。

また質問があったら、えんりょなく手紙をください。
はい。

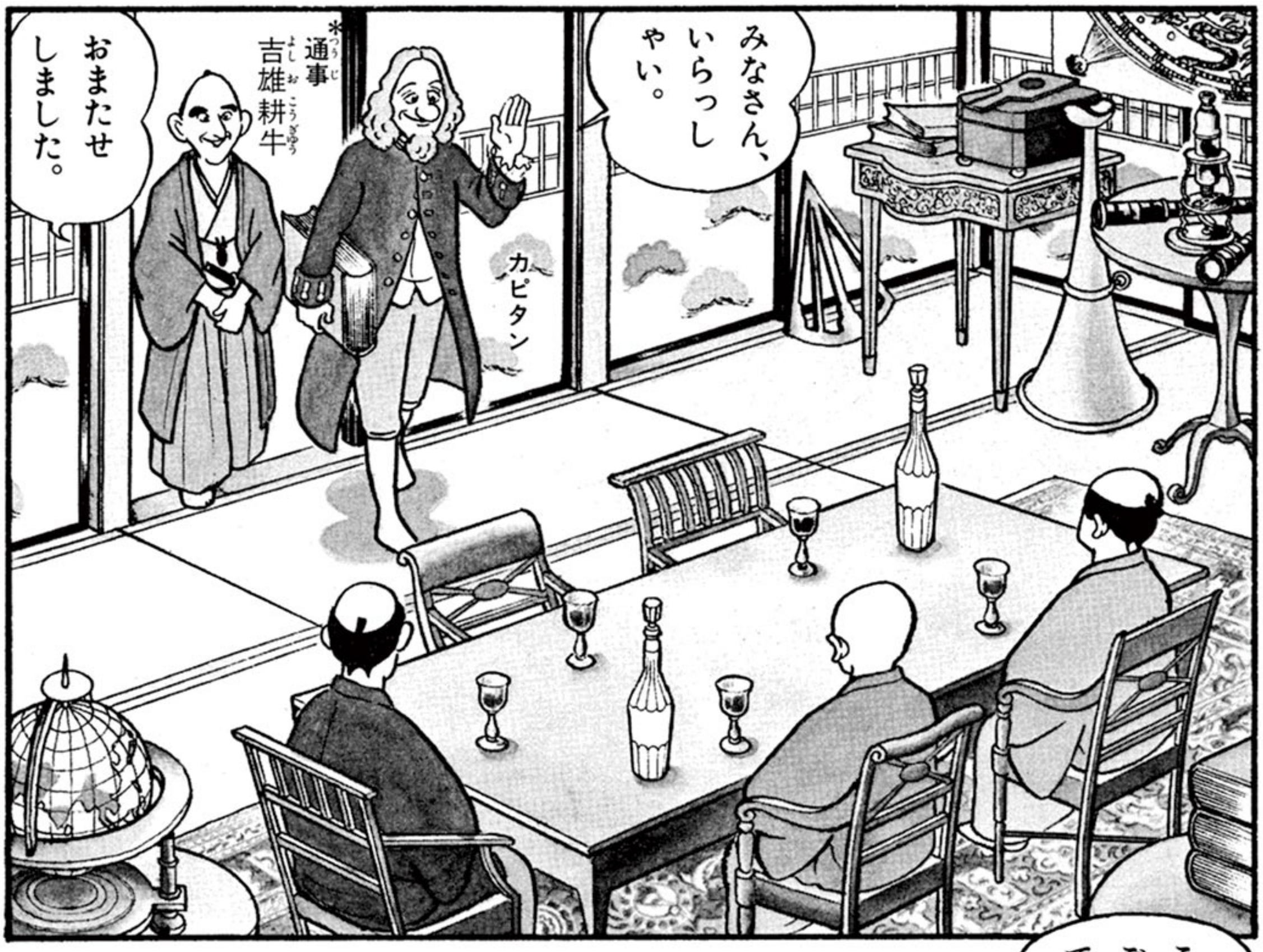
……。
本居宣長が賀茂真淵に会うことができたのは、これが最初で最後でした。

その後、宣長は手紙によって真淵に教えられながら、自分の学問を深めていきました。

*菊之丞…歌舞伎役者、瀬川菊之丞。*本石町…東京都中央区日本橋室町付近

*火浣布…石綿でつくった、もえない布。

*戯作者…戯作（町人の風俗を題材にした娯楽的な読み物）の作家。



*通事…長崎におかれた幕府の通訳官。「通詞」とも書く。

*紅毛本草…オランダの植物学者ドドネウスの植物図鑑。徳川吉宗が野呂元丈らに翻訳を命じていた書で、当時日本に数冊しかなかった。

*タルモメイトル…寒暖計。

どれどれ、わたしも拝見…。

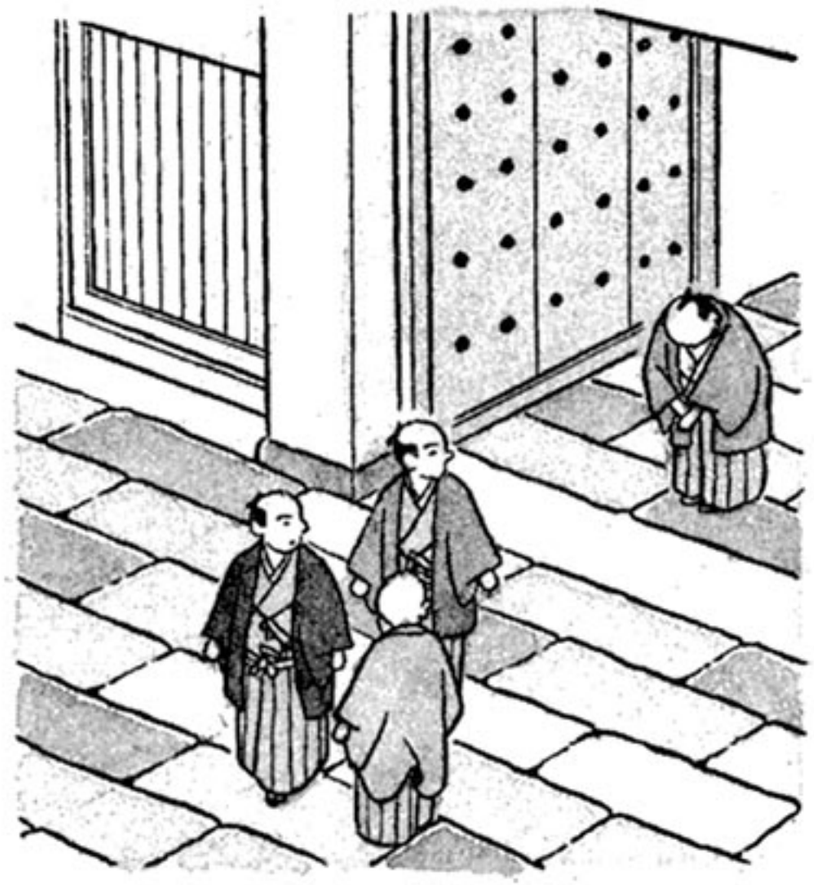
なるほど。気温が変化すると、中の液がふくらんだりちぢんだりするわけですね。
ほう、さすがは源内さん！

これならわたしにもつくれそうですよ。
それはすごい！

いずれつくってお目にかけましょう。
無理だと思うね。

ところで、カピタンはオランダ医学の本をおもちではないでしょうか。

今度の旅では、もってこなかったそうです。
残念だな。ぜひ一度見たいものです…。
ペラペラ



すばらしかったですね。
それにしても、オランダ語の読み書きができるといいですね。
そうですね。

数年後――

今日は、みなさんをおむかえできてゆかいです。

*奥医師 桂川甫三

桂川甫周

どうもおそくなりました。

おお、風来山人のお出ましですな。

友人をしょうかいします。

狂歌や戯作をやっている大田南畝です。

戯作者 大田南畝

こちらは錦絵で有名な鈴木春信さんでしたね。

今日は、新しい作品をもってきました。

これはこれは！じつに美しい多色刷りですな。

モデルは、*笠森稲荷の茶屋のむすめお仙です。

こっちは*浅草のようじ屋のお藤ですね。

*浅草…東京都台東区

*奥平家…豊前国中津（大分県中津市）の領主。

*奥医師…将軍や大奥の人をみる医師。

*笠森稲荷…東京都台東区にある神社。

うむ。さすが江戸の代表的美人ですな。

*奥平家の医師 前野良沢

おわかい甫周さんには、目の毒ですかな。

しかし、わたしは何といっても菊之丞がいいですなあ。

ところで、わたしのほうはついにこれを完成しましたよ。
おっ！タルモメイトル！

その玉をにぎると、液が上がるでしょう。
なるほど、おどろきましたな。

*青木昆陽…第一章参照。

あれから、蘭書も何冊か買い入れましたよ。
ご熱心ですね。

機会があれば、オランダ語の勉強に長崎へ行くつもりです。
そうですか。わたしは今、*青木昆陽先生にオランダ語を学んでいます。

むずかしいのでしょうね。
以前長崎の通事も、しろうとにはとても無理だといっていましたが…。

しかし、医学も本草学も、オランダ語がわからなくてはどうしようもありませんからねえ。

みなさんがオランダ語を本格的に勉強なさるときには、むすこもよろしくおねがいしますよ。

おわかいかたは、大歓げいですよ。
はっははは
こうして、玄白や源内を中心とするなかまたちは、新しい学問でむすびつきながら、おたがいの友情をそだてていったのです。

*腑分け…解剖。　*山脇東洋（一七〇五～一七六二）…京都の医師。一七五四年、人体を解剖し、「蔵志」という本にまとめた。

しばらく後、まちかねた機会がやってきました。

明日腑分けが行われるのか！

すぐ、前野さんにもお知らせしよう。

翌日、まち合わせ場所の浅草の茶屋――

*小塚原の刑場――

*小塚原…東京都荒川区南千住付近

腑分けは
わたしがやります。
みなさまはそばで
ご検分ください。

……。

ここが
心臓。

これが
肺臓
です。

まさに、
この図の
とおりだ!!

オランダの
医学は、
たいしたもの
ですね。

貴重な
体験を
しました。

一生わすれ
られない
日になり
そうです。

これまで、
人体のしくみ
すら、よく知ら
なかったとは…。

はずかしい
ことです。

この本を
読めたら、
わたしたち
の医学は
もっと進歩する
でしょうな。

われわれで
翻訳してみては
いかがでしょう。

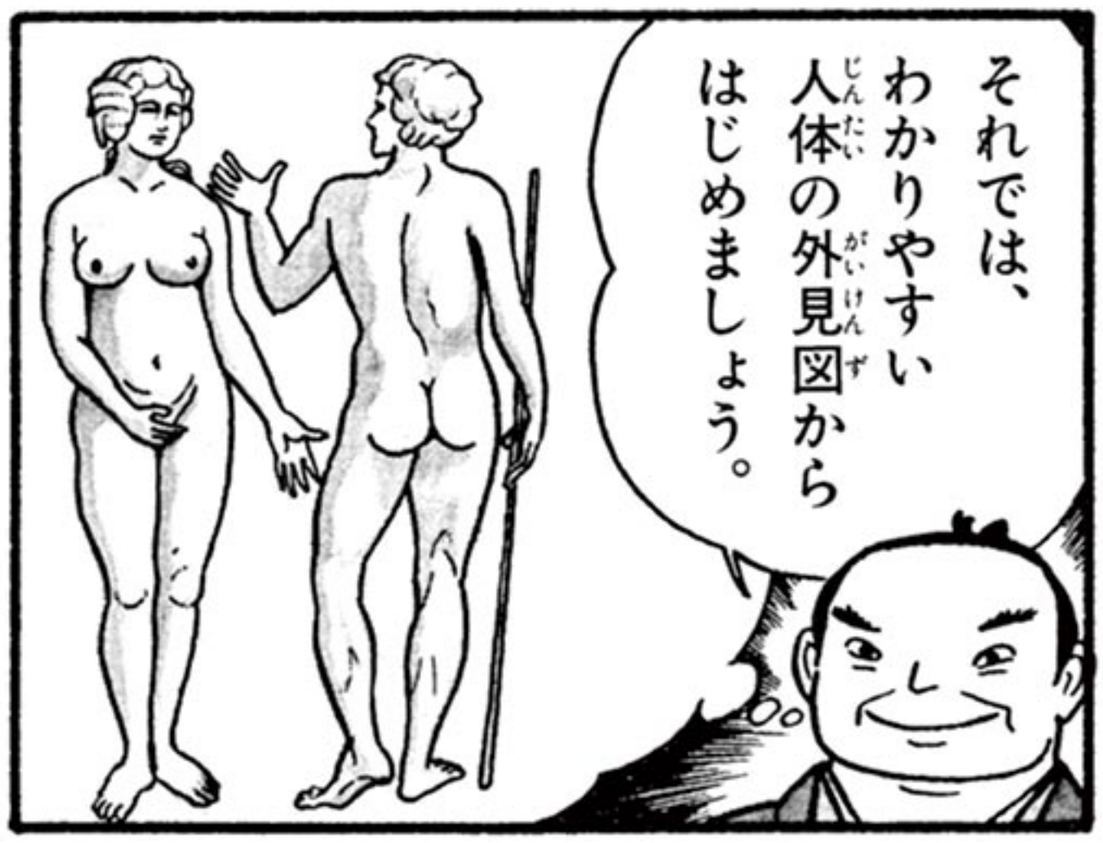
そうだ!
やってみま
しょう。

苦労は
かくごの
うえです。

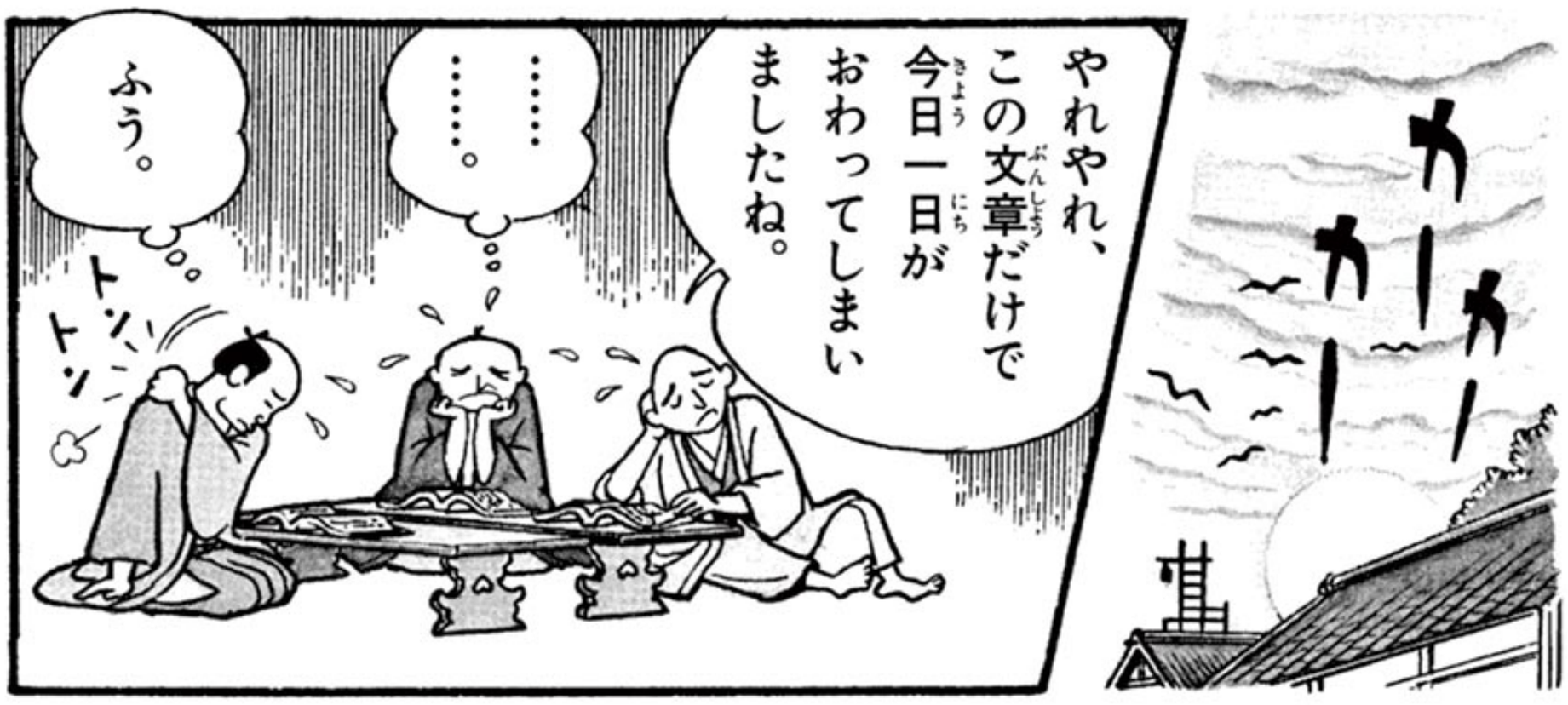
やりま
しょう!!

善はいそげと
いいます。

明日から
はじめま
しょう。



こうして、オランダ語の解剖書「*ターヘル＝アナトミア」の翻訳がはじめられました。



玄白たちは、月に六、七回あつまって、困難な仕事にとりくんでいきました。その後、桂川甫周も参加しました。

*ターヘル＝アナトミア…ドイツの医師クルムスが書いた本で、オランダ語などに翻訳されていた。

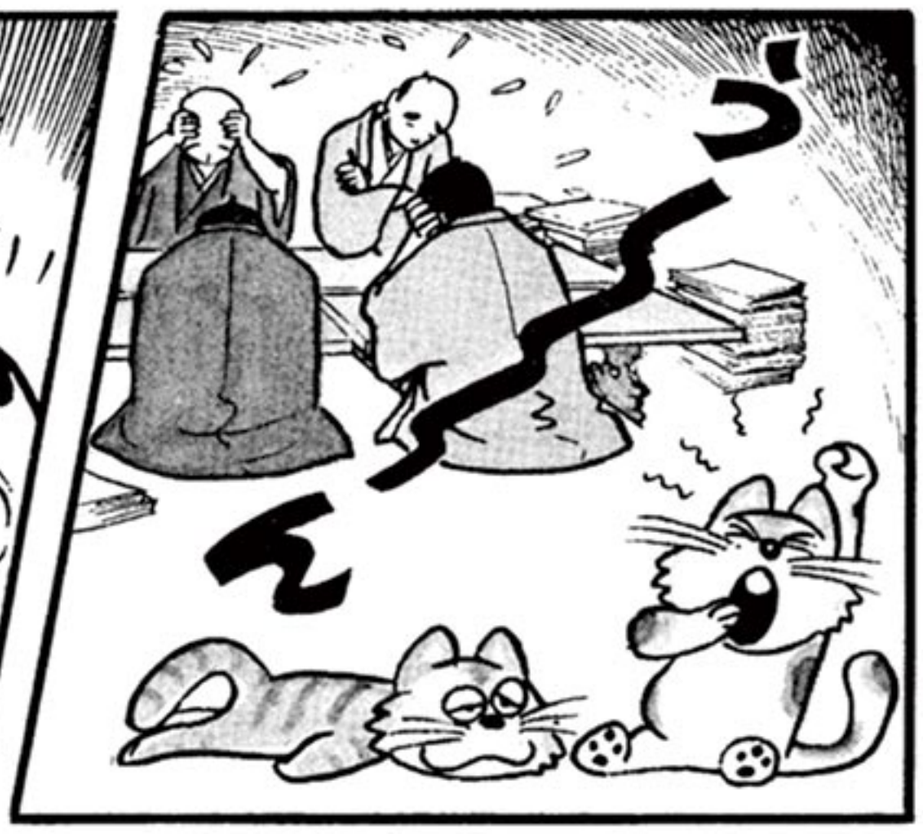
いたずらに月日ばかりたつようですが…。
とにかく、がんばりましょう。
さて、今日のところはむずかしそうです。

「鼻はフルヘッヘンドしたもの」となっていますね。
ううむ。
こちらの本に「フルヘッヘンド」ということばの説明が出ています。

木のえだを切りとると、そのあとが「フルヘッヘンド」となる……。
ほう。

また、庭をそうじすると、ごみと土があつまって「フルヘッヘンド」となる……。
はて……？

木のえだやごみが、鼻と関係があるのでしょうか。
何のことやらさっぱり…。


ぐ
ぐ

おっ！

ふふっ、ひらめきましたよ。
早くお聞かせください！

*浄瑠璃…第十三巻第四章参照。

その後も、オランダ語の学習は、休みなくつづけられました。

何が何だか、わからなくなった!!

これも教えてください！

もう、わしつかれた…。

こいつも腑分けしてみるか。

ひえっ！

やっとここまで来ましたね。

最近では、わからないことばがずいぶん少なくなりました。

玄白は、家に帰ってから、その日の研究会の成果をまとめて、「ターヘル＝アナトミア」の翻訳を少しずつすすめていきました。

そして、約一年半で、ついに翻訳が完成したのです。

さっそく、出版の準備にかかりましょう。

玄白の家

源内先生のごしょうかいでおうかがいいたしました。

おまちしておりました。

あなたは洋画をなさっているそうですね。

はい。源内先生が秋田にいらしたときに、教えていただいたのです。

ええっ！源内さんは洋画もかくのですか!!

*佐竹家の家臣 小田野直武

わたしどもの殿さまも、あのかたの才能におどろいていましたよ。

源内さんはなぜ秋田に？

鉱山の調査に見えたのです。

ひえっ！あの人はそんなことまでやるんですか!!おどろいたなあ。

ところで、小田野さんにご協力ねがいたいことがあります。

このさし絵をうつすのですか。じつにくわしい図ですね…。

オランダの本を出版すると、幕府にとがめられるかもしれないが…。

その点は、わたしの父にたのんで交渉してもらいましょう。

こうして、一七七四年、「ターヘル＝アナトミア」の翻訳書「解体新書」が世に出ることになったのです。

やった！

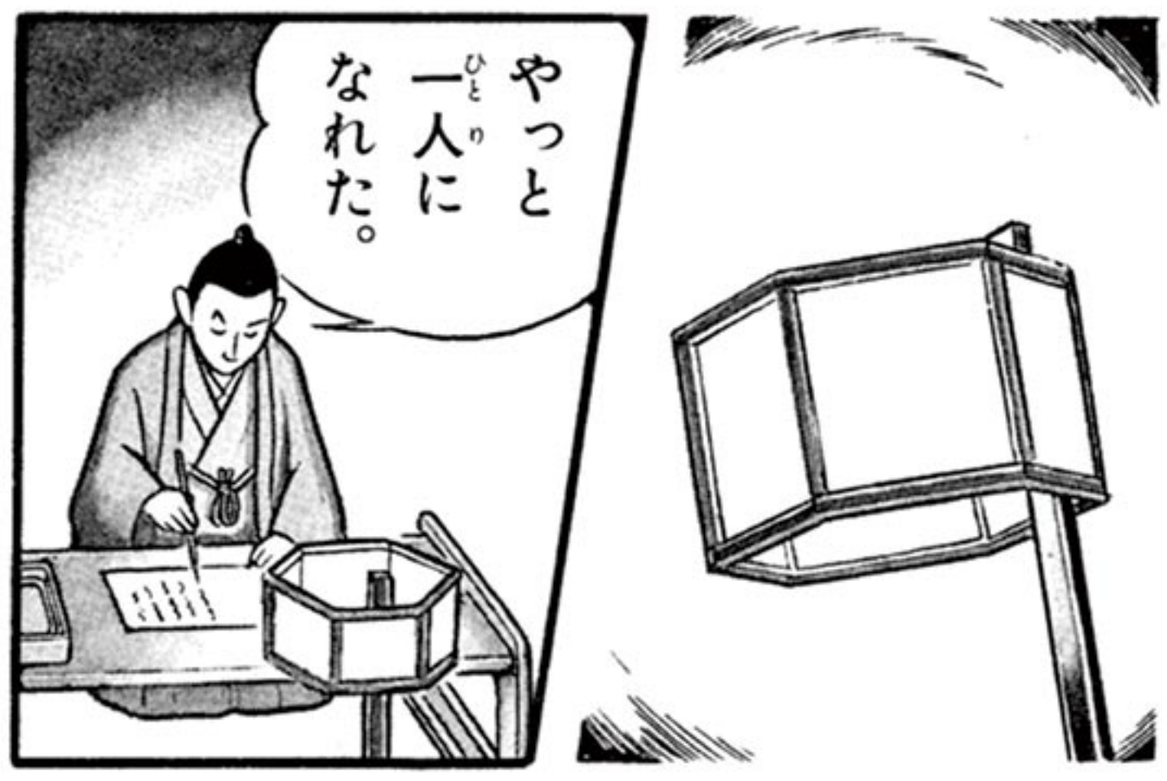
わーい！

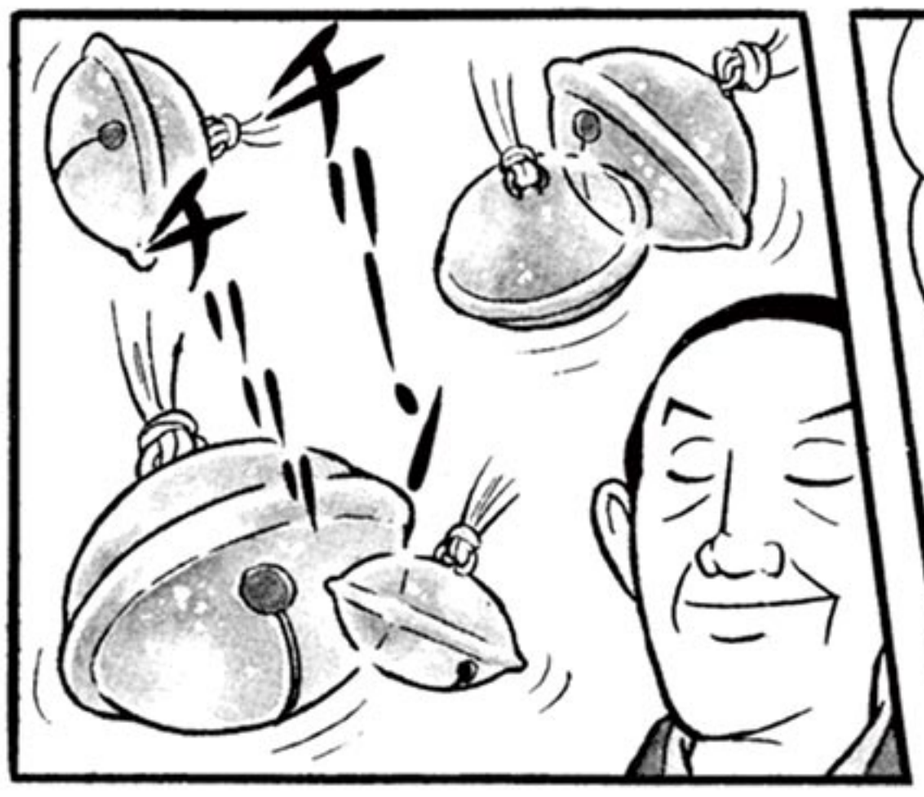
玄白さんたち、とうとうやったか…。

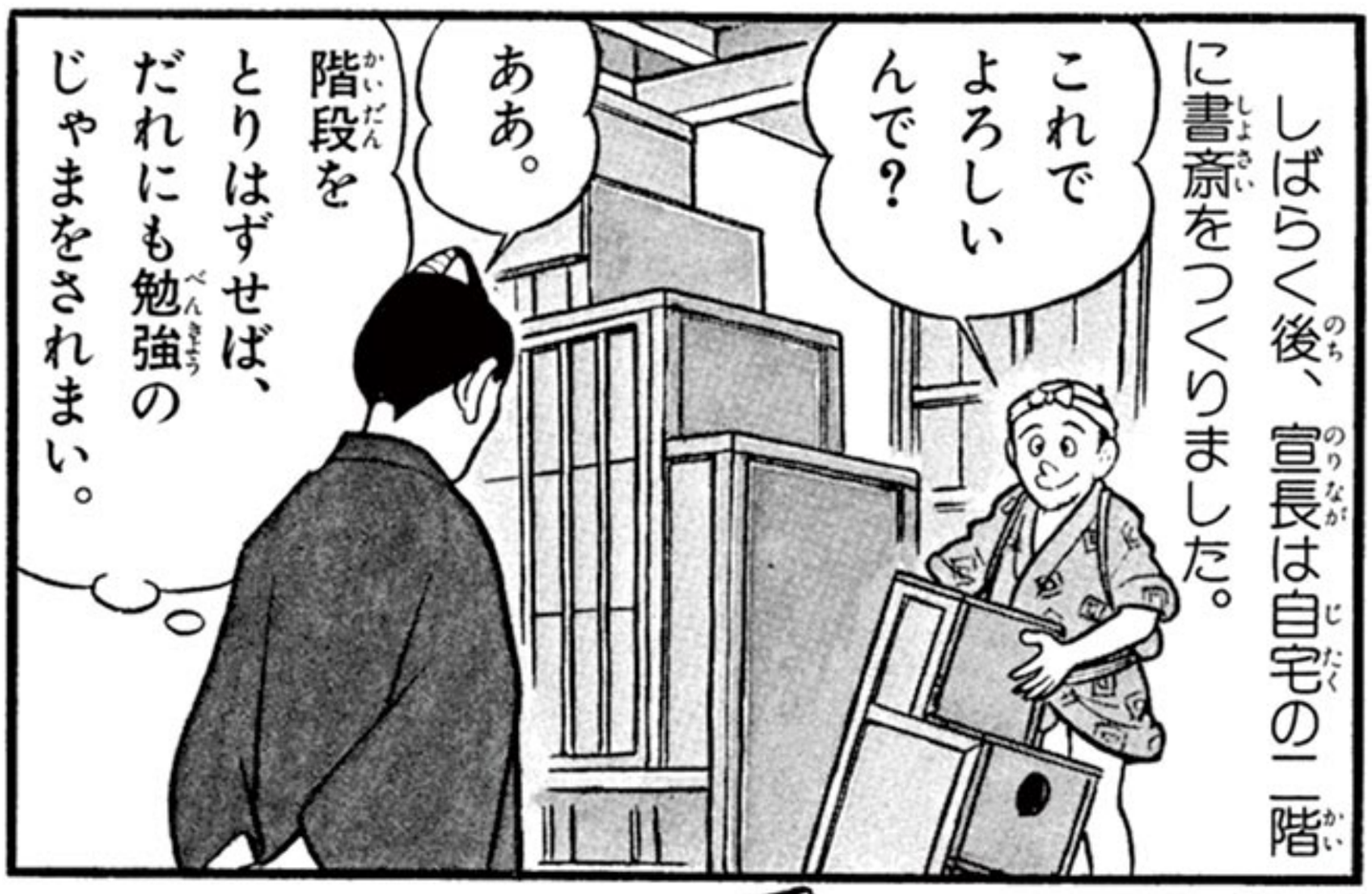
*佐竹家…出羽国秋田（秋田県秋田市）の領主。

*古今集…古今和歌集。十世紀はじめに成立。

*源氏物語…十一世紀はじめに、紫式部が書いた物語。

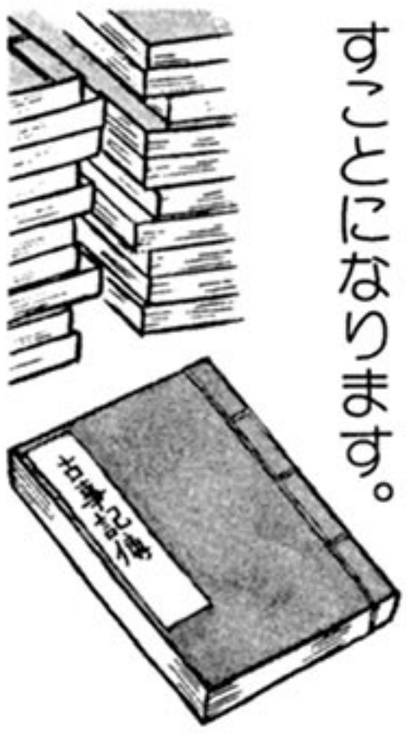






「古事記」の研究書「古事記伝」が完成したのは、一七九八年のことでした。

宣長の考え方は、門人の*平田篤胤などにうけつがれ、幕末の政治に深いえいきょうをおよぼすことになります。



*平田篤胤（一七七六～一八四三）：江戸時代後期の国学者。

一七七六年、源内の家——

源内先生！

やあ、絵の勉強はすすんでいるかい。

今日は、大評判のエレキテルを見学に来たのです。

洋画家 司馬江漢

この間は、*田沼さまのご家族も見物にみえたんですよ。

今日も、そろそろお客が来る。

エレキテルは、まさつによって静電気をおこす機械です。源内は、こわれたものを長崎の通事からもらってきて、みごとに修理したのです。

この取っ手を回すと、箱の中に*エレキがおきます。

おおっ、火花が出たぞ！

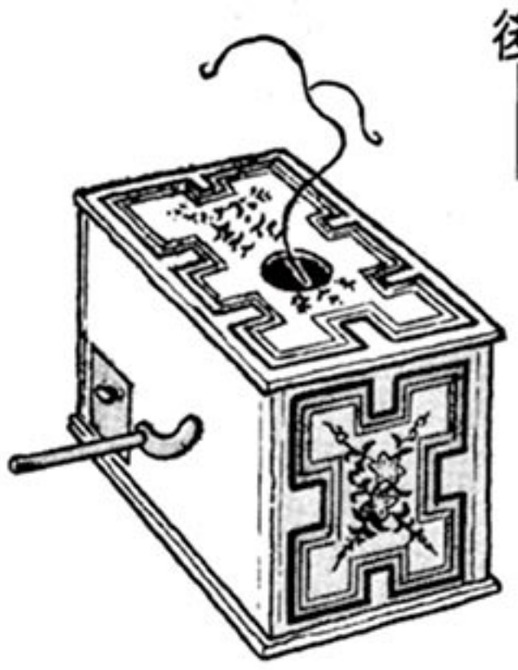
パチッ

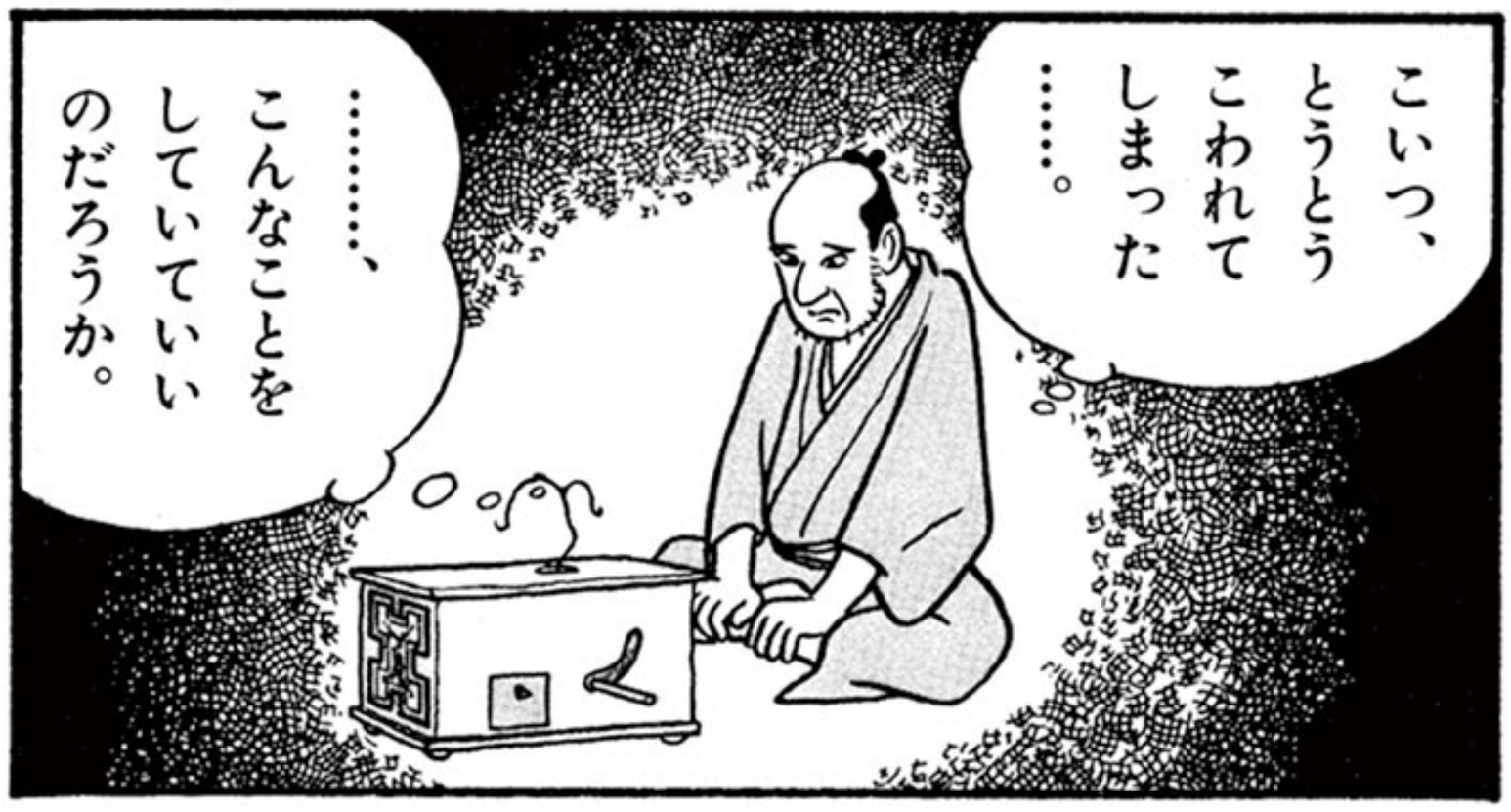
この火花は、いなずまの小さいものといったところです。

病気の治療にも役だつそうですよ。

*田沼…老中田沼意次。第二章参照。 *エレキ…電気。

三年後――




こいつ、とうとうこわれてしまった……。
……、こんなことをしていていいのだろうか。

エレキテルを見せ物にしたり、新発明のくしを売ったりして生活しているが……。
本草学研究の志は、どこへきえたのか…。

くそっ、平賀源内め！
コツッ
こんばんは。

先生にふと、お会いしたくなりましてね。
いやあ、大歓げいですよ。

今夜はここにおとまりなさい。
大いにのみましょう。

ういい、よっぱらった。
ムニャムニャ

ムニャムニャ
おや、きみはだれだ。
ふふ…

おれは おまえだよ。何をやっても ちゅうとはんぱな だめ男の源内さ。

なかよく しようぜ。

本草学の りっぱな本を つくるはずじゃ なかったのかい。

うせろ！ きえて くれ！

鉱山の仕事に まで手を出し たが、それも 失敗。

ひたむきな 玄白たちに くらべて、今のおまえは どうだ？

うう…、妖怪め…！

天才源内の、なれの はてを考え たことが あるかい。

くそっ！

妖怪！ かくご おっ!!

あわわ。

この事件でとらえられた源内は、一か月後牢内で病気のためなくなりました。

※源内のおこした事件については、いろいろな説があります。

玄白の家――

先生、悲しい知らせです。

玄白の弟子 大槻玄沢

ん!?

ええっ！源内さんが!?

なんということだ。おしい男をなくしてしまった…。

せめてねんごろにとむらってやりたい…。*墓碑銘は わたしが考えよう。

源内さんはわれわれ凡人とはちがっていた。まさに*非常の人だった…。

その後玄白は、八十五歳でなくなるまで研究をつづけました。

中川淳庵や前野良沢など、蘭学の夜明けの時代をきずいた人びとも、それぞれの分野で活やくしました。

*墓碑銘…墓石にきざむ文章。

*非常の人…ふつうの人とはかわっている人。

＊寛政六年閏十一月十一日は、太陽暦の一七九五年一月一日にあたる。

小学館 eBooks

おうちの方へ

幕府の改革

京都教育大学名誉教授　高山博之

五代将軍綱吉のころから、幕府財政にかげりが見えてきました。六代将軍家宣と顧問の新井白石は、「正徳の治」とよばれる善政を心がけたものの財政改革には失敗しました。

18世紀、江戸時代中期は、封建体制の矛盾が表面化し、社会の動揺が進んできた時期であり、大きな転換期であったといえるでしょう。

幕府は次つぎに改革政治を行いますが、問題はしだいに深刻化し、とくに農村の疲弊が進んで、ききんが頻発し、農民一揆や打ちこわしが急激に増えていきました。これらの社会変動をしっかりとらえてほしいと思います。

●第1章「名将軍吉宗」

人気の高い八代将軍吉宗は、紀伊徳川家の領主でしたが、将軍の座につくと、家康の方針を理想とし、側近政治を廃して自ら果断に政治改革を進めました。享保の改革です。

改革のねらいは、幕府の財政を立て直すこと、政治をひきしめ封建体制を強化することにありました。財政面では、上米の令、定免制、新田開発などが目立ち、米価安定に努力して「米将軍」とよばれています。その他、様々な新政策を実施し、改革を一応成功させました。

しかし、封建体制の矛盾は拡大しつつあり、一揆もふえていることに注目する必要があります。改革の内容を整理させるとよいでしょう。

●第2章「田沼時代」

吉宗のあと、九・十代将軍に仕え、側用人・老中として権力を振るったのが田沼意次です。彼は、商品経済の発展をおさえるのではなく、逆に商人の経済力を利用して、いろいろな政策を進めようとしました。「わいろ」で悪評高い人

ですが、その政策には時流にかなった合理的な面が見られます。

田沼の政治が天明の大飢饉で崩壊したあと、老中となった松平定信の寛政の改革が行われます。定信は、吉宗の政治を模範とし、封建体制の強化をめざしますが、社会の変動を止めることはできませんでした。

田沼と松平の政策の違い、失敗の理由など話し合ってみましょう。

●第3章「一揆とききん」

江戸時代中期から飢饉が頻発しますが、その社会的背景には商品経済の発達による農村の疲弊があります。享保・天明・天保の飢饉は三大飢饉とよばれ、何十万という餓死者を出しました。飢饉が続くと、農村では一揆が多発し、都市では武士や町人の生活も困窮し、打ちこわしがおこりました。

浅間山の大噴火は、天明の飢饉の引きがねになったものです。上田騒動とともに、農民の苦しみや一揆の実態をとらえさせてください。また、一揆や打ちこわしは、幕藩体制をゆさぶり、封建社会の崩壊をうながすものでしたが、その必然性について考えさせたいものです。

●第4章「蘭学と国学」

江戸時代の学問は、儒学、とくに朱子学が中心で、封建制を正当づける役割を果たしてきました。ところが、元禄ごろに国学が、享保ごろから蘭学がおこり、人びとに新しい考え方を伝えました。これらの学問は、やがて封建社会をゆさぶる思想につながっていきます。

国学は日本人の精神を追求し、蘭学は主に医学や自然科学の面で研究が進められました。ここでは、平賀源内という博学多才な人物の行動を追い、また、杉田玄白や本居宣長らの学問に対する真摯な態度を描いています。

新しい学問に取りくんだ様々な人物の考え方を知らせ、伝記などにもふれさせてほしいと思います。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第 14 巻　幕府の改革

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 10 月 7 日　増補版第 21 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298114-0

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。